

## 平賀サダ書誌

大谷洋一・小川正人・遠藤志保

目次	1 まえがき
	2 平賀サダ略年譜
	3 平賀サダ書誌
	3-1 略年譜にそったもの
	3-2 その他
	参考文献

Key Words 書誌 (Bibliography)、アイヌ史 (History of Ainu peoples)、個人史 (Personal history)、アイヌ口承文芸 (Ainu oral literature)、アイヌ語研究 (Study of Ainu language)

### 1 まえがき

#### (1)

平賀サダ<sup>(1)</sup>氏 (1895ころ～1972) は、現在の北海道沙流郡日高町福満に生まれ、沙流川下流域で育った。同氏は、この地域のアイヌ語や伝統文化などにも詳しく、多くの研究者や調査に協力したことで知られている。実際、アイヌ語やアイヌ文化に関する図書や視聴覚資料をあたっていけば、いろいろなところで同氏の名に出会う。それらをたどっていくと、いわゆる語り手としてだけでなく、他の人が語った物語の翻訳に協力するなど、さまざまな人々に多くのことを教え、支えた人でもあることがわかる。

本稿は、この平賀サダ氏が語り、伝えたことが筆録または録音された資料や、それらをもとに公刊された著作・視聴覚資料のほか、同氏に関する記事や報道などを目録形式でまとめたものである。

本稿の共編者のうち遠藤と小川は、先年、大坂拓氏とともに、鍋沢元蔵氏 (1886～1967) について同様の主旨で「鍋沢元蔵書誌」をまとめたことがある<sup>(2)</sup>。本稿はこれに引き続くものとして編さんを企図したのであり、本稿を編むに至った契機が、北海道博物館の総合展示内に設けている「クローズアップ展示」<sup>(3)</sup>の一つとして2020年4月から8月まで実施した、「伝承者が生きた近現

代 平賀サダさん」であることも、前回と同様である。

#### (2)

前回で述べたことと重複するが、改めてこの書誌の編さんにあたって意識していることをまとめておく。

クローズアップ展示「伝承者が生きた近現代」では、従来のアイヌ文化研究において一般的には「伝承者」として語られる人々について、伝統文化の記録や調査などに協力した足跡面とともに、これらの人々が生活者として時代のなかを生きた側面や、これらの人々の足跡をその時代と重ねながら位置付けていくことを意識するようにしている。これは北海道博物館の総合展示第2テーマ「アイヌ文化の世界」において全体を通して注意を払いたいと考えていることでもある。

アイヌ文化・アイヌ史を論じた著作を読むと、近年であれば必ずといってよいほど、「アイヌ民族の歴史や文化を、伝統的な文化のステレオタイプな捉え方のみで認識してはならない」と注意を促す記述に出会う。これは勿論その通りだ。ところが実際には、近現代のアイヌ民族を「伝統文化の継承と変容」「先住民族としての抵抗と活動」といった限定的な指標だけで捉えたり、「アイヌ文化」という言葉で指し示すものが、暗黙のうちに伝統文化とその継承に限定されていたりする記述は、パンフレット・ガイド類から研究書に至るまで、今でも「ア

大谷洋一：北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

小川正人：北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター長

遠藤志保：北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

(1) 平賀サダ氏の名については、「サダ」「さだ」のほか、様々な文献や同時代人々の語りの中では「サダモさん」「サタモさん」と呼ばれる例も多く見られる。本稿では、戸籍名とされる「平賀サダ」で統一した、ただし、文献や資料からの引用にあたっては、それぞれの原文のままとしている。

(2) 小川正人、遠藤志保、大坂拓「鍋沢元蔵書誌」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号、2017年3月。

(3) 「クローズアップ展示」は、ふだんの総合展示だけでは十分に紹介しきれない話題や、北海道博物館が所蔵する資料などを、テーマを定めて定期的に入れ替えて紹介する展示コーナーとして、総合展示内に設けたもの。現在7箇所あり、第2テーマ「アイヌ文化の世界」にはそのうち2箇所を設けている。

イヌ文化」「アイヌ史」を論じるものの大半を占めている。そして博物館の展示やその解説文でも、このような枠組みが暗黙の与件になっているものが今なお多いと、自戒を込めてそう思う。このようなアイヌ文化・アイヌ史の捉え方を博物館（の職員）が無意識のうちに前提にできてしまっていて、展示をつくり歴史や文化を語ってしまうと、「伝承者」とされる人々は伝統文化の記録と継承の面だけが着目され、何より、近現代を通して様々な暮らしを営んできた人々の多くを疎外する展示・歴史像・社会像を再生産しかねない。「伝承者が生きた近現代」は、いったん、敢えて「伝承者」というかたちでその人を取り上げつつ、誰もが生きた近現代の中でこのことを考える、という意図を持っている。

### (3)

本稿には、平賀サダ氏にかかる多数の文献・資料を収録することができた。先ずもってこれは、平賀サダ氏が様々な研究者や調査事業に多大な協力をし、多くの教示を与えてきたことの証左であって、他ならぬ平賀サダ氏の功績として、高く評価されるべきことである。

ただし、(2) に述べた視点から見れば、本稿が実際に収録し得た文献・資料は、アイヌ語、口承文芸、地名及び伝統文化の記録や調査に関わるものが大半を占めていることに留意しなければならない。これは、編者らの調査がなお不足していることにもよるだろうが、現在までに公開された文献や、資料保存利用機関が〈アイヌ文化〉の資料として収集し整理し公開するもの多くが、上述した暗黙の与件となっている枠組みで抜き取られて成立していることの顕れでもあると意識すべきだと思う。また、あくまで印象の次元でのことではあるが、前回の鍋沢元蔵氏と比べ、平賀サダ氏のほうがこの傾向がより強いとも感じており、男性であった鍋沢氏については、まだしも青年団や家業などに係る公的な記録が残りやすく、平賀サダ氏の場合はそのような条件が乏しいという社会の状況を推察すべきかと考えている。

一方で、これも勿論のことだが、この書誌に掲載した文献や資料の中からも、上述した〈アイヌ文化〉の枠組みとは異なる、平賀サダ氏の生涯の様々な側面や、19世紀末から20世紀半ばの時代を生きてきた人としての時代に対する認識を窺うことは、できるはずだ。さらに言えば、この書誌及び書誌に掲載した文献や資料を読み込み、平賀サダ氏が、調査・研究のために訪れた人々にどのように対峙し、どのようなことを語ったか／語らなかったかを考え、もって氏の意思を推し量ることは、氏が遺した〈アイヌ文化〉の資料をこれから使う人々に求められてもいる。

### (4)

本稿で意識したことがもう一つある。この書誌を、研究者や著作を軸にするのではなく、平賀サダ氏の足跡を中心に据えて構成することである。

このため本稿は、文献や資料を年代順や著者ごとに配置するのではなく、先ず編者がまとめた平賀サダ氏の年譜を掲載し（本稿「2」）、その後、編者が知り得た著作や資料を、基本的には先ずこの年譜に沿って配置し（本稿「3-1」）、特定の年次に対応させることが難しかったものは別途まとめた（同「3-2」）。編者にとって初めての試みであり、私たちに工夫はしたけれども、わかりにくさや不備が残っているとも思うので、そうしたご指摘をいただければ有り難く思う。

また、(3) でも述べたとおり、本稿はアイヌ語や伝統文化の調査・記録に関わる項目が多数を占めざるを得ず、この限りでは、平賀サダ氏の歩んだ足跡の限られた一面を伝えるにとどまるものであることは、予め断っておかねばならない。それでも、本稿が、平賀サダ氏の多くの社会的貢献を改めて伝える一助になればと願う次第である。

### (5)

本稿の「2」「3」のデータは主に大谷と遠藤が収集した。特に当館収蔵資料をはじめとする研究者の著作については大谷がこれまでの資料整理業務や資料調査を通して折々に収集してきたデータがもとになっている。遠藤はデータの補充及び本稿に掲載した表形式に整理する作業を主に担った。小川は「3」の文献のデータを補うとともに、「1」の草稿を作成した。

末尾になるが、本稿の査読者をはじめ、文献・資料について情報を提供いただいた方々、また、これまでこうした資料や記録の整理・保存・公開に取り組んでこられた方々、そして、平賀サダ氏に関するクローズアップ展示の実施等についてご承諾いただいた、ご遺族の平野みの氏に、改めて深く感謝申し上げます。

### 謝辞

本稿のとりまとめに当たり、次の方々から、資料や文献についての教示をいただいた。記して感謝申し上げます。

小坂博宣、黒井茂、佐藤知己、呉人恵

また、次の機関には資料の調査、閲覧等でお世話になった。記して感謝申し上げます。

北海道立図書館、公益社団法人北海道アイヌ協会

なお、教示をいただきながらも、私たちの調査不足で本稿に収録しきれなかったものが若干あることを、あわせてお詫び申し上げます。

## 凡例

- ・平賀サダ氏の氏名については、註記のとおり本稿では「平賀サダ」に統一し、資料や文献からの引用に際してはそれぞれの資料・文献の記述に従った。また本文では平賀サダ氏にのみ「氏」を付した。
- ・アイヌ語の表記についても、資料・文献からの引用に際してはそれぞれの資料・文献の記述のとおりとした。
- ・当館収蔵資料には当館の収蔵番号を付した。それらの中でも旧北海道立アイヌ民族文化研究センターの所蔵資料だったものについては、旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでの資料番号も付記した。
- ・平賀サダ氏の事績を可能な限りまとめる、という本稿の目的を踏まえ、当館収蔵資料については、現在整理中等のため未公開である資料についても掲載した。ただし、これら未公開資料については、特に資料の内容等についての情報を、現時点で開示して差し支えない

と考えられる範囲に限定した。また、今後の資料整理・公開準備作業によっては、これらの資料の一部ないし全部が非公開となる可能性があることも、予めお断りしておく。

- ・門別町郷土史研究会編（1966）に所収の項目については、利用者の検索の便宜のため、各項目の初めに付いている番号ともども引用した。
- ・本書誌に掲載した文献、資料は、出典となった文献、目録等において平賀サダ氏の名が明示されているものに限定している。

（なお本稿は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））「アイヌ口承文学における話型分類の研究」、研究課題番号20K00534、研究代表者：遠藤志保）及び同「近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究」、研究課題番号20K00952、研究代表者：小川正人）による成果の一部である。）





写真1 平賀サダ氏 (撮影：久保寺逸彦)



写真2 1969年、平取町二風谷で開催された「金田一京助先生歌碑除幕式」に出席した平賀サダ氏  
(中央：右は貝沢トウルシノ、左は金田一京助)



写真3 アイヌ紋様の衣裳を着た平賀サダ氏

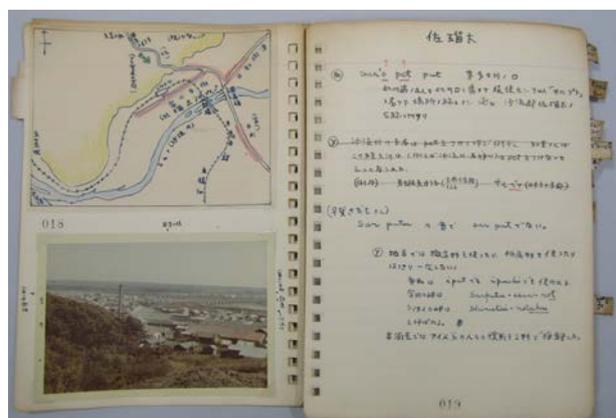


写真4 「沙流川下流1」  
平賀サダ氏が山田秀三に沙流川下流域の地名を教えた時のファイル [本書誌3-2-(1) 文書No.7]



写真5 「平賀サタモ集」  
久保寺逸彦がアイヌ口承文芸を録音したオープンリールテープ (1966年8月5日録音) [本書誌3-1-(21) 音声No.2]

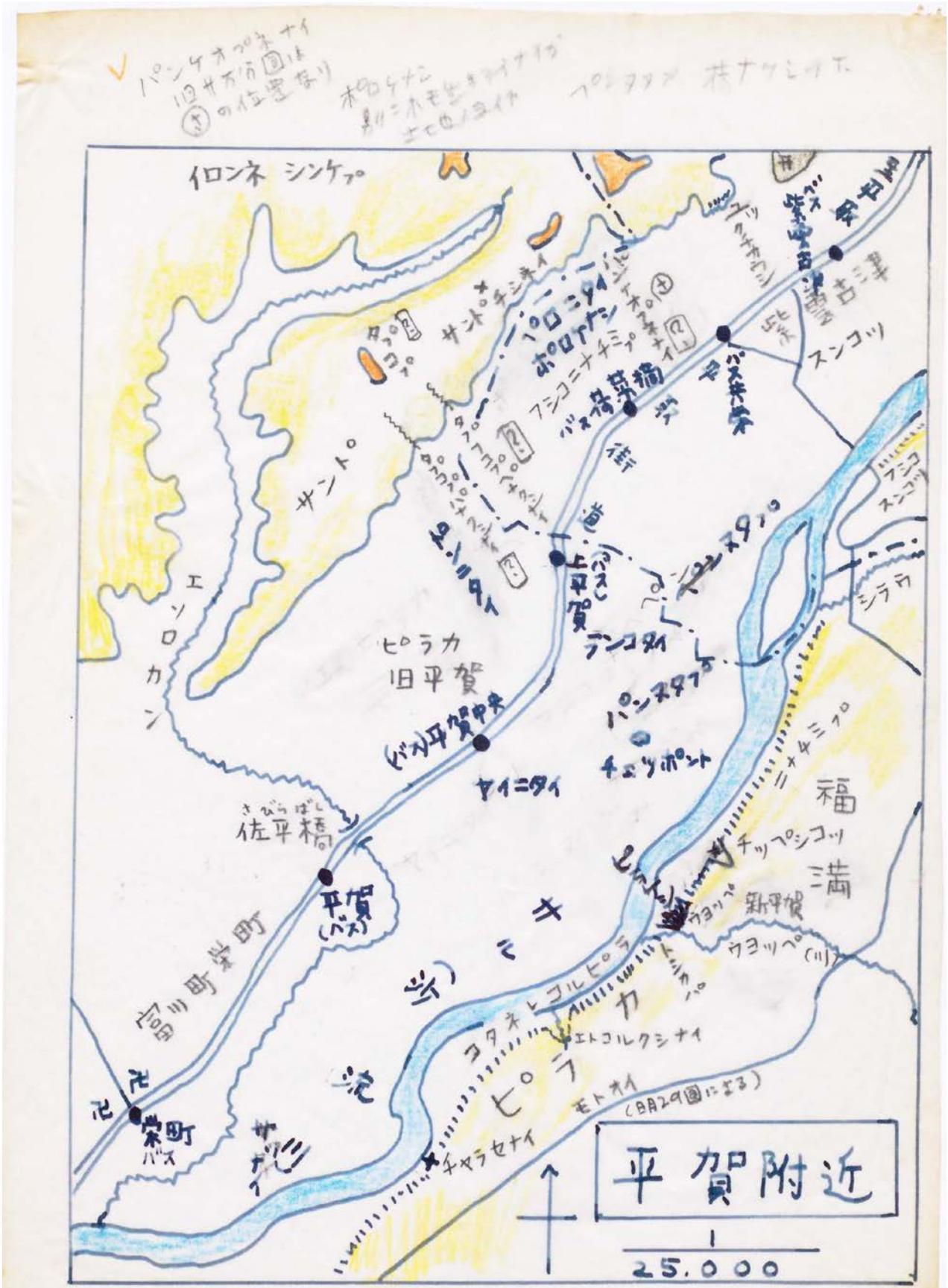


写真6 アイヌ語地名研究者・山田秀三による沙流川下流域の地名調査ファイルにある、現日高町平賀、福満付近の地図。平賀サダ氏に教わった内容が随所に反映されている。[本書誌3-2-(1) 文書No.7]

## 2 平賀サダ略年譜

## 〈凡例及び出典〉

- ・この年譜は、本稿の「3」に挙げた各文献、特に田村（1985）、財団法人アイヌ無形文化伝承保存会（1985）、「沙流アイヌの歌謡」（北海道立図書館所蔵音声資料。請求番号T/SA/O-6-1~T/SA/O-11-11）により作成したものである。
- ・個々の項目の記述でも、これら典拠とした文献・資料の記述によったところがある。なお、典拠文献の記述をそのまま引用した箇所は「」で括弧して示した。

年(元号)	月日	年齢	できごと	本書誌対応	
1895年ころ	明治28年ころ	0歳	福満 (Piraka) に生まれる。(1894 (明治27) 年3月21日とも)		
1897年ころ	明治30年ころ	2、3歳	平賀サンケレク、トムンテノ (トゥモンテノ) 夫妻の養女となる。		
1902年ころ	明治35年ころ	7、8歳ころ～	子守奉公に出る。これ以降はほとんど他家で働いて過ごした。このころは日本語は全然知らなかった。		
1914年	大正3年	19歳	結婚。		
1915年ころ	大正4年ころ	20歳ころ	このころまで福満で過ごす。このころまで日本語は知らなかった。以降、旅芸人一座の一員として、本州にしばらくいたほか、北見・釧路・樺太にいたこともある。		
1923年ころ	大正12年ころ	28歳	3度目の結婚ののち、はじめて子供ができる。		
1935年	昭和10年	40歳ころ	このころから、北見 (網走の藻琴) に10年ほど暮らす。		
1937年	昭和12年	42歳	「クッチャロ」にいた山本多助に呼ばれてユカラを語る。		
1945年	昭和20年	7月	50歳	終戦の1か月くらい前に沙流に引越す。(それまでは北見に住んでいた)	
1955年	昭和30年	夏 9月 秋	60歳	田村すず子が「日本の四周の言語の基礎語彙調査」(研究代表者・服部四郎)の一環として北海道でアイヌ語諸方言の基礎語彙調査を行うなか、姉・鳩沢ふじの(ワテケ)が田村すず子に平賀サダ氏を紹介する。	3-1-(1)
	田村すず子によるアイヌ語の基礎語彙調査に協力。		3-1-(2)		
	関東各地を巡業するアイヌ民族芸能団の一行に姉・鳩沢ふじの(ワテケ)とともに加わる。この間、田村すず子も同行し、アイヌ語の聞き取り調査を行う。				
1956年	昭和31年	2月5日	61歳	田村すず子の調査に協力して、歌を録音。	3-1-(3)
1957年	昭和32年	1月12日	62歳	尾沢カンシャクトクに招かれて阿寒町で口承文芸や祈詞の録音に協力。	3-1-(4)
		8月10日～22日	北海道放送によるアイヌ口承文芸の録音調査(監修・知里真志保)のなかで、平賀サダ氏も協力。	3-1-(5)	
1958年	昭和33年		63歳	このころ、夫と死別。	
		5月4日	田村すず子の調査に協力して、口承文芸を録音。	3-1-(6)	
1959年	昭和34年	8月10日	64歳	登別の北星寮にて静養中、増田又喜の調査に協力して、口承文芸を録音。	3-1-(7)
		夏	半年ほど、登別温泉で、観光客相手に伝統的な歌や踊りを紹介する仕事をして働く。		
		11月1～2日	田村すず子の調査に協力して、歌や英雄叙事詩、アイヌ語会話等を録音。	3-1-(8)	
1960年	昭和35年	10月16日	65歳	富川にて、鍋沢元蔵とともに、近藤鏡二郎の調査に協力。	3-1-(9)
		12月8日	札幌のNHKでユカラ(アイヌ モトホ ユカラ)を録音。その後、川村カネトや尾沢カンシャクトクに誘われて旭川や層雲峡を訪れる。		
1961年	昭和36年	4月24日～27日	66歳	福満にて、鳩沢ふじの(ワテケ)らとともに、近藤鏡二郎の調査に協力。	3-1-(10)
		8月19日	旭川で「ユカラ大会」開催。平賀サダ氏は英雄叙事詩を1時間40分にわたって語る。	3-2-(2) No.1	
		8月22日	萱野茂の調査に協力して、口承文芸を録音。	3-1-(11)	
		8月26日	登別温泉で働いていた平賀サダ氏に金田一京助が会いに来る。萱野茂はこのとき金田一と邂逅。	3-2-(2) No.14	
		10月6日	登別で集中豪雨による大水害があり、温泉地区に居住していた平賀サダ氏も家屋の被害にあう。	3-2-(2) No.4	
		12月9日	門別町役場にて、平野テケサップとともに、近藤鏡二郎の調査に協力。	3-1-(12)	
		12月10日～15日	札幌にて、近藤鏡二郎の調査に協力。	3-1-(13)	
1962年	昭和37年	5月16日(26日か)	67歳	更科源蔵の調査に協力。このときの記録には居住地について「鶴川町春日」と記載されている。	3-1-(14)
1963年	昭和38年	9月15日	68歳	萩中美枝の調査に協力。	3-1-(15)
		10月17日	山田秀三の調査に協力。	3-1-(16)	
1964年	昭和39年		69歳	このころから鶴川町で暮らす。	
		8月	児玉作左衛門らによる、アイヌ服飾の調査に協力。	3-1-(17)	

年(元号)		月日	年齢	できごと	本書誌対応
1964年	昭和39年	8月12日	69歳	門別町富川の上野病院にて、金田一京助・萩中美枝の訪問を受け、「ユーカラ」を録音。	3-2-(2) No.3
		9月		尾沢カンシャトクに招かれて層雲峡温泉に滞在する。その際に口承文芸や祈詞の録音に協力。	3-1-(18)
1965年	昭和40年	4月12日	70歳	富川にて、近藤鏡二郎の調査に協力。	3-1-(19)
		9月20日～21日		萱野茂の調査に協力して、口承文芸を録音。	3-1-(20)
1966年	昭和41年	7月29日～8月5日	71歳	門別町富川の沼田旅館にて、久保寺逸彦の調査に協力。	3-1-(21)
		8月		山田秀三の調査に協力。	3-1-(22)
1967年	昭和42年	2月	72歳	山田秀三(萩中美枝が同行)の調査に協力。	3-1-(23)
		6月5日		久保寺逸彦の調査に協力。	3-1-(24)
		7月26日		更科源蔵の調査に協力。	3-1-(25)
		7月28日・29日・31日		山田秀三(久保寺逸彦・萩中美枝・萱野茂が同行)の調査に協力。	3-1-(26)
		8月6日～7日		久保寺逸彦の調査に協力。	3-1-(27)
		8月22日～23日		久保寺逸彦の調査に協力。	3-1-(28)
		9月15日		山田秀三のアイヌ語地名調査に協力。	3-1-(29)
		10月9日～10日		山田秀三のアイヌ語地名調査や、萩中美枝による口承文芸の調査に協力。	3-1-(30)
1968年	昭和43年	10月13日	73歳	萱野茂の調査に協力して、口承文芸を録音。	3-1-(31)
		7月30日～8月6日		久保寺逸彦の調査に協力。	3-1-(32)
		8月17日		田村すず子の調査に協力して、歌を録音。	3-1-(33)
		10月6日		山田秀三の調査に協力。	3-1-(34)
1969年	昭和44年	10月18日～19日	74歳	久保寺逸彦の調査に協力。	3-1-(35)
		1月5日		萩中美枝の調査に協力。	3-1-(36)
		1月12日～14日		門別町富川の上野病院に入院中、調査に協力して、英雄叙事詩や身の上話などを録音。	3-1-(37)
		2月2日		山田秀三の調査に協力して、口承文芸の口演。	3-1-(38)
		2月16日～17日		平取町委員会の事業として調査する萱野茂に協力して、口承文芸を録音。	3-1-(39)
		2月25日～3月2日		久保寺逸彦の調査に協力。	3-1-(40)
		4月4日～6日		Kirsten Refsingらの調査に協力して、アイヌ語短文や口承文芸の口演を録音。	3-1-(41)
		8月8日～11日・15日		久保寺逸彦の調査に協力。	3-1-(42)
		8月25日		田村すず子の調査に協力して、口承文芸を録音。	3-1-(43)
		9月26日		平取町二風谷で行われた「金田一京助先生歌碑除幕式」に出席。	写真2
1969年	昭和44年	10月		平取町で行われた熊送りに参加。	
		10月		「アイヌ文学の保存」の功績が認められ、第5回(昭和44年度)北海道文化財保護功労賞を受賞。	
1969年	昭和44年			Eric Hampの調査に協力して、アイヌ語の単語などを教示。	3-2-(1) 文書No.5
1970年	昭和45年		75歳	富川の病院で入院中、浅井亨の調査に協力。	3-1-(44)
				北海道アイヌ文化保存対策協議会の事業による聞き取り調査に協力。	3-2-(2) No.6
1970年	昭和45年		75歳か	平取町二風谷で平賀サダ氏の北海道文化財保護功労賞の受賞祝賀会が行われる。	
1971年	昭和46年	1月14日	76歳	ラジオ出演したNHK第一「ふるさとの心『アイヌ・ユーカラ』」が放送。	3-2-(1) 音声No.15
		1月か		萩中美枝の調査に協力。	3-1-(45)
				田村すず子の追加調査に協力。口承文芸テキストの疑問点などに答える。	3-1-(46)
				晩年は鶴川町春日で暮らす。	
1972	昭和47	8月1日	77歳	死去(1971(昭和46)年8月27日とも)	

## 3 平賀サダ書誌

## 3-1 略年譜にそったもの

## 3-1- (1) 1955 (昭和30) 年夏～

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
		内 容 ・ 備 考		
1	田村すず子	沙流方言	服部 (1964)	—
		10地域のアイヌ語方言のうち、田村すず子が担当する沙流 (福満) 方言の話し手として姉の鳩沢ふじの (ワテケ) と共に基礎語彙調査に協力。平賀サダ氏は道内外の様々な地域で暮らしていたこともあり、「平賀さんらに従うと、新冠のことは自分らのとあまり違わないが、静内以東南のことは非常に違う」(p.12) という記述も見られる。平賀サダ氏の略歴と写真も掲載 (p.12)。		
2	田村すず子	用例及び解説	田村 (1996a)	—
		沙流方言のインフォーマントのひとりとして、調査に協力。平賀サダ氏からは「語句やその解説、会話、独話、言い伝え、民話、即興歌、子守歌、ユウカラ、同語りなどの用例およびそれらの解説など計7,000件以上 (内、用例約3,500)」(p.23) を採録し、同書に掲載している。		
3	田村すず子	アイヌ語・アイヌ文化教示	田村 (2001-2003)	—
		平賀サダ氏の姉・鳩沢ふじの (ワテケ) が語った口承文芸の訳注付きテキスト集。「アイヌ語・アイヌ文化教示」として平賀サダ氏の名前が挙がっており、「1955年にワテケ氏から紹介されて以来、田村の最高の先生であったが、……本資料のみでなく、いろいろな資料や言葉についても、たくさんの教示を受け、とくに日常語とは異なる雅語については、サダモ氏の教示によってずいぶん学ぶことができた」(田村 2001:2) とある。		

## 3-1- (2) 1955 (昭和30) 年9月

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
		内 容 ・ 備 考		
	ジャンル			
1	田村すず子	アイヌ語会話	田村 (1977(1979, 1988))	29課、30課
	会話	「鳩沢ふじの (ワテケ) さん (福満の人)、平賀サダ (サダモ) さん (同) の実際の会話の1部を、29課、30課として付け」ている。「1977年4月に、試作版『アイヌ語入門』として、早稲田大学語学教育研究所から出版した」のち、大学の授業等での実践を踏まえた修正を加えて作成されたもの。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
2	田村すず子	基礎語彙	田村 (1983)	—
	語彙	姉の鳩沢ふじの (ワテケ) とともに、沙流方言のインフォーマントのひとりとして調査に協力した、アイヌ語の基礎語彙調査。「『第1次調査表』で○印のついているものを、機械的に田村が読み上げたのを平賀さんが聞いて、それを即座に思いついたアイヌ語に訳す、という方法で、録音した。前半は主に平賀さんが行い、後半は平賀さんが帰ったあと、翌日鳩沢さんが引き取って続けた」と書かれている。		
3	田村すず子	Isoytak 「話」	田村 (1984b)	12-16
	会話	平賀サダ氏と姉の鳩沢ふじの (ワテケ) によるアイヌ語での会話。「姉妹が久しぶりに会った機会を利用して、アイヌ語で会話をしていただき、それをテープに録音することにした」もの。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
4	田村すず子	Kusur un upaskuma tup 「釧路の伝説2題」	田村 (1984b)	16-28
	会話	平賀サダ氏と姉の鳩沢ふじの (ワテケ) によるアイヌ語での会話。「姉妹が久しぶりに会った機会を利用して、アイヌ語で会話をしていただき、それをテープに録音することにした」もの。この話題は主に平賀サダ氏が語り、姉・鳩沢ワテケは主に相槌を打っている。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
5	田村すず子	Ukoysoytak II 「会話II」	田村 (1984b)	46-51
	会話	平賀サダ氏と姉の鳩沢ふじの (ワテケ) によるアイヌ語での会話。「戦争の話、苦労話を言い伝えとして語る」と副題が付けられている。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
6	田村すず子	Ukoysoytak III 「会話III」	田村 (1984b)	52-59
	会話	平賀サダ氏と姉の鳩沢ふじの (ワテケ) によるアイヌ語での会話。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる) この音声の冒頭部分は、村崎 (1993) に「会話のなかの談話」と改題のうえで再録されている。		
7	田村すず子	Ukoysoytak IV 「会話IV」	田村 (1984b)	60-63
	会話	平賀サダ氏と姉の鳩沢ふじの (ワテケ) によるアイヌ語での会話。などなどを出しあっている。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		

## 3-1- (3) 1956 (昭和31) 年2月5日

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
		内 容 ・ 備 考		
	ジャンル			
1	田村すず子	子守歌	田村 (1987)	15-16
	子守歌	「iteki cisno / mokor mokor hani」で始まる子守歌。解説および楽譜 (p.105) も付く。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
2	田村すず子	ヤイサマ 「鳥になりたい、風になりたい」	田村 (1987)	20-23
	即興歌	「tori ta kune, rera ta kune」で始まる即興詩。解説及び楽譜 (p.107) も付く。姉である鳩沢ふじの (ワテケ) による同じ歌が門別町郷土史研究会 (1966) No.1 (1-1)、No.75 (9-1) にあたるといふ。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		

3-1- (4) 1957 (昭和32) 年1月12日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道立図書館 (T/A/O-44-75)	アイヌ民俗文化財伝承 記録テープ [録音資料] [75]	口承文芸、歌/yukar, yaysama	阿寒町	尾沢カンシャクトク・ 杉村満
	49分	北海道教育委員会作成「アイヌ民俗文化財伝承記録テープ」(1973)からの複製。また、同館所蔵の「アイヌ民俗文化財伝承記録CD [録音資料] 238」(請求番号CD//794)は本資料の複製にあたる。平賀サダ氏による口演としては英雄叙事詩の口演(7'52"~48'04")が含まれている。英雄叙事詩の口演は途中までで、次のテープ(アイヌ民俗文化財伝承記録テープ [録音資料] [76])に続いている。			
2	北海道立図書館 (T/A/O-44-76)	アイヌ民俗文化財伝承 記録テープ [録音資料] [76]	口承文芸、歌/yukar, oyna, mukkuri	阿寒町	尾沢カンシャクトク・ 杉村満
	48分	北海道教育委員会作成「アイヌ民俗文化財伝承記録テープ」(1973)からの複製。また、同館所蔵の「アイヌ民俗文化財伝承記録CD [録音資料] 239」(請求番号CD//795)は本資料の複製にあたる。平賀サダ氏による口演としては、前のテープ(アイヌ民俗文化財伝承記録テープ [録音資料] [75])の続きにあたる英雄叙事詩の口演(0'37"~27'00")が含まれている。			

3-1- (5) 1957 (昭和32) 年8月10日~22日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち文書資料

No.	所蔵館	資料番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	ページ数	内 容 ・ 備 考			
1	北海道立文書館	CM087	〔風俗叢書〕 虻田・白老・二風谷・鶴川・様似・静内録音控	平取	知里真志保
	32-48	小坂(2010:64-66)に記載されているHBCラジオ「アイヌ歌謡」のためと思われる調査旅行の記録であり、「誰が何(yaysama, upopoなど)をやったかの情報」(北原他 2012:215)をメモしている。このなかに、平賀サダ氏の名前も挙げられている。ジャンル名やタイトルのみの記載だが「yukar / okkayo-yukar」「kamui-yukar / tororo humpo / pon-moyuk-kamui」「iyohaiochis」「upopo」「yaisamanena」について「サダ」という名前が見られる。			

3-1- (6) 1958 (昭和33) 年5月4日

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	田村すず子	母と父がその息子を和人にやって置いて来た (AUNUHU AONAHU POHO TONO KORPARE WA HOPPA)	田村 (1986)	2-19
	散文説話	「自叙形式の、身の上話型」(はしがき)の散文説話。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
2	田村すず子	ホタテ貝飛べ (AKKETEK HOPUNI)	田村 (1986)	20-21
	散文説話	パナンペパナンペ譚のひとつ。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
	田村すず子	Akketek hopuni (アッケテク ホプニ) 帆立貝飛べ	田村 (1991b)	-
3	田村すず子	田村 (1986) に所収の同タイトルの説話をもとに作成されたアイヌ語教材。		
	散文説話	ぬかおにぎりがころがった (MUTTAKTAK KARKARSE)	田村 (1986)	22-25
4	田村すず子	「和人の昔話『おむすびころりん』のアイヌ語版」(はしがき)である散文説話。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
	散文説話	ふたつの頭を持つ貧乏和人	田村 (1986)	26-27
5	田村すず子	「ばかな和人を主人公として、アイヌふうの助け合いの生き方を教える」(はしがき)のような散文説話。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
	ウパシクマ	私たちの起源 (創造神話) (ENE MOTOKOR'AN WA OKAAN KATU)	田村 (1986)	32-43
6	田村すず子	「国土と人類の創造」(はしがき)を物語る伝説 (ウパシクマ)。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
	ウパシクマ	遠い海の向こうから私たちの先祖がやって来て (TOOP HOREPASI WANO AUTARIKIRIHI YAP WA ARKI AYNE)	田村 (1986)	44-49
7	田村すず子	「民族の起源の説明」(はしがき)を物語る伝説 (ウパシクマ)。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
	座り歌	ウポポ「仔熊の啼く声 (pewrep rek haw)」	田村 (1987)	27-28
8	田村すず子	「hoyya pewrep rek haw」で始まる輪唱歌。三上モニほか1名との演唱。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
	座り歌	ウポポ「ハントリ ハンチカップ」	田村 (1987)	29-30
9	田村すず子	「han tori han cikap」で始まる、「『鳥の舞』『鶴の舞』の歌である」。平賀サダ氏ほか1名との演唱。同書の口絵写真には、この歌の演唱(踊り)の様子が載り、その中に平賀サダ氏も写る。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
	踊り歌	ホリッパ「ホイヤー ホー」	田村 (1987)	31-33
		「hoyya ho」で始まる輪舞の歌。平賀サダ氏ほか1名との演唱。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
10	田村すず子	ハラルキ (雁の舞)「ヘシコー トロ」	田村 (1987)	34-37
	踊り歌	「hesko tor」で始まる雁の舞。平賀サダ氏ほか1名との演唱。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる) この音声の一部は、村崎 (1993) に「『雁の舞』の説明」と改題のうえで再録されている。		
11	田村すず子	ウボポ「アヨロ村」	田村 (1987)	38-40
	座り歌	平賀サダ氏ほか1名との演唱。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
12	田村すず子	ウボポ「クジラの頭から (hunpe pa wa)」	田村 (1987)	41-44
	座り歌	平賀サダ氏ほか1名との演唱。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
13	田村すず子	ウボポ「芦別の家 (Aspet un casi)」	田村 (1987)	45-47
	座り歌	平賀サダ氏ほか1名との演唱。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
14	田村すず子	ウボポ「サウオイ サウオイ (sawoy sawoy)」	田村 (1987)	48-50
	座り歌	平賀サダ氏・三上モニほか1名との演唱。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
15	田村すず子	ウボポ+ホリッパ「ヘー トノ ヘー カラカラ」	田村 (1987)	51-54
	座り歌・踊り歌	平賀サダ氏ほか1名との演唱。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
16	田村すず子	ヤイサマネナ (即興詩)「牧場の柵のまわりを (casi mawari)」	田村 (1987)	55-58、108-109
	即興歌	「牧場の柵のまわりを走って逃げて行く道産子 (北海道で生まれた小さい馬)をつかまえようと、馬に乗って追いかける牧童の歌」(p.57)。巻末 (pp.108-109) に楽譜が付く。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
17	田村すず子	ヤイサマネナ (即興詩)「今は私たちは年老いたから (tane anakne onnean kusu)」	田村 (1987)	61-64
	即興歌	「私たちは老い先が短いから、せめて歌だけでも残しておこう」(p.62) という主題の即興歌。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
18	田村すず子	KOTAN SITCIRE MOSIR SITCIRE (コタン シッチレ モシリ シッチレ) 村焼き国焼き	田村 (1991a)	15-63
	英雄叙事詩	「『アイヌ語音声資料 3』の所収の upaskuma ウパシクマ《言い伝え》2篇のうちの1篇、「私たちの起源」という創造神話の「統き」として語られたもの」(はしがき)。だが、「話の内容が必ずしも時間的に続いているわけではない」。「はしがき」に「録音してからすぐに書き取って、翌日、サダモさんに疑問箇所を解説していただいたりした。それに基づいて清書したノートを持って5年後にもう一度サダモさんをたずね、さらに質問をし、サダモさん自身が入れた補足や訂正も加えて、一応の解釈を終えた」とあり、語りばかりではなく、語の解釈などの訳出にも協力している。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		

## 3-1- (7) 1959 (昭和34) 年8月10日

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	増田又喜	ウボポ	日本放送協会 (1965)	114
	座り歌	「kanto horikasi / kamuy ran mat hene (天上から/神のおろした女であなはある)」で始まるウボポ。日本放送協会 (1965) において平賀サダ氏は、「勇弘郡鶴川町春日」における「アイヌ伝統音楽演唱者」として名前が上がるほか、「子守唄や神謡の翻訳」のひとつとしても、平賀サダ氏の協力を得たことが記されている (「はしがきと凡例」、萩中 (1996: 90))。		
	増田又喜	日高のウボポ	増田 (1996 (2010))	143
2	座り歌	「天から神さま おりた/おりた おりた/登別におりた/登別の 川の流れは/黄金 (こがね) の音に」で始まる、「子守唄を思わせる」座り歌。		
	増田又喜	イオンルイカ (子守歌)	NHK札幌中央放送局 (1961)	57
	子守歌	「オーホル…ル ハウハウ イテキチシノ モコロモコロ」で始まる子守歌が、「増田又喜氏収集/保存増田又喜氏」のリストにある。同書によると、「34.8.10/ (登別北星寮にて)」の録音である。なお、日本放送協会 (1965) には掲載されていない。		
	増田又喜	イオンルイカ (子守唄)	増田 (1996 (2010))	143
3	子守歌	「泣かないで/おねんね しなさいよ/あまり泣いてばかり いると」という歌詞から始まる子守歌。		
	増田又喜	昆布干しの歌	増田 (1996 (2010))	140-142
4	即興歌	「わたしゃ浜辺の 昆布干しメノコ/今日もよいよい お天気よいよい」で始まる創作歌。「かつて平賀はる (トウモンテ・フチ) さんの持唄だったものを平賀サダさんが伝承している」(p.140) ののだという。日本語の歌詞と増田による採譜が掲載されている。		
	増田又喜	ユーカラ	NHK札幌中央放送局 (1961)	57
英雄叙事詩	「平賀チクプシレのユーカラ」が、「増田又喜氏収集/保存増田又喜氏」のリストにある。同書によると、「34.8.10/ (登別北星寮にて)」の録音である。なお、日本放送協会 (1965) には掲載されていない。			

3-1- (8) 1959 (昭和34) 年11月1~2日

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	田村すず子	ウボボ「クジラの頭から (hunpe pa wa)」	田村 (1987)	67-68
	座り歌	平賀サダ氏・鳩沢ふじの (ワテケ)・沢ギンによる演唱。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
2	田村すず子	ウボボ「アヨロ村」	田村 (1987)	69-71
	座り歌	平賀サダ氏・鳩沢ふじの (ワテケ)・沢ギンによる演唱。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
3	田村すず子	ウボボ「登別に降りた、降りた (Nupurpet ta ran ran)」	田村 (1987)	72-73
	座り歌	平賀サダ氏が自作した座り歌 (ウボボ)。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
4	田村すず子	自作の歌「コンプ干し女 (kompu satke menoko)」	田村 (1987)	74-80
	即興歌	平賀サダ氏が自作した歌を歌う。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
5	田村すず子	KOTAN SITCIRE MOSIR SITCIRE (コタン シッチレ モシリ シッチレ) 村焼き国焼き	田村 (1993b)	11-118
	英雄叙事詩	田村 (1991a) に所収の英雄叙事詩と同じ物語を、1年半後に語ったもの。節つき (サコイェ) で語っている。この物語は、養父のサンケレクから習い覚えたもののひとつ。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		
6	田村すず子	KOTAN SITCIRE MOSIR SITCIRE (コタン シッチレ モシリ シッチレ) 村焼き国焼き	田村 (1994)	3-111
	英雄叙事詩	田村 (1991a) に所収の英雄叙事詩と同じ物語を、1年半後に語ったもの。こちらは「聞く私たちの理解を助けるために、ふしをつけないで語ってくれている」。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる)		

3-1- (9) 1960 (昭和35) 年10月16日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (請求番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道立図書館 (T/SA/O-7-1)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 10	原版NO.6-1~2複製版/ワカルパのユーカラ・サケヘ [ほか]	門別町 富川	近藤鏡二郎
	6巻A面 0'05"~24'26"	目録には項目記載なし。平賀サダ氏の名前の由来のほか、自分たちの口承文芸の伝承経路のひとりでもある鍋沢ワカルパや平賀チクプシリなど、英雄叙事詩の語り手や語り方の特徴などについて、日本語で解説している。			
	6巻A面 24'27"~26'22"	鍋沢ワカルパが英雄叙事詩を語る時の節回しを平賀サダ氏がまねて語っている。			
2	北海道立図書館 (T/SA/O-7-2)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 11	原版NO.6-3複製版/チクプシリのユーカラ・サケヘ	門別町 富川	近藤鏡二郎
	6巻A面 26'23"~33'49"	平賀チクプシリが英雄叙事詩を語る時の節回し (戦闘場面における節回し、物語の語り出の節回し) を平賀サダ氏がまねて語ってみせている。			
	6巻A面 33'50"~1:00'45"	目録には項目記載なし。鍋沢元蔵とともに、okkayo yukarとmenoko yukarの違いや、tuytak とuepekerの違いなどについて日本語で話している。			
3	北海道立図書館 (T/SA/O-7-3)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 12	原版NO.7-4~5複製版/トイタック [ほか]	門別町 富川	近藤鏡二郎
	6巻B面 0'09"~1:00'45"	目録には項目記載なし。A面に引き続き、鍋沢元蔵とともに、英雄叙事詩に出てくる地名や、英雄叙事詩の語り手などについて日本語で話している。			
	7巻A面 8'13"~50'03"	平賀サダ氏が北見 (屈斜路) にいたときの話や、そのときに覚えた物語について日本語で説明。また、屈斜路で覚えた散文説話「コッカノサボ」を日本語で語った後に、アイヌ語釧路方言で語る。さらに、平賀サダ氏が北見にいたときに感じた沙流の言葉との違いや、金成マツに再会したときの話などを日本語で話している。			
	7巻A面 50'03"~1:05'16"	金成マツが英雄叙事詩を語る時の節回し (物語の語り出しの節回し) を平賀サダ氏がまねて語ってみせている。さらに、金成マツについての思い出などを日本語で話している。			
4	北海道立図書館 (T/SA/O-7-4)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 13	原版NO.7-6~8-20~21複製版/シノッチャ [ほか]	門別町 富川	近藤鏡二郎
	7巻B面 0'09"~4'09"	平賀サダ氏が自作した「コンプ・サッケ・シノッチャ」をアイヌ語と日本語で口演。			
	7巻B面 4'10"~6'33"	シノッチャ「ヘロルキ オッカヨ」をアイヌ語と日本語で口演。			
	7巻B面 6'36"~9'12"	シノッチャ「イラマンテ オッカヨ」をアイヌ語と日本語で口演。			
	7巻B面 9'13"~10'13"	目録には項目記載なし。ウボボについて、日本語での説明。			
	7巻B面 10'14"~12'54"	「チュプ カワ カムイ ラン・ヌプルベツ ランラン」で始まる座り歌をアイヌ語で歌った後、日本語で解説している。			
	7巻B面 12'55"~14'53"	目録には項目記載なし。rimseとhorippaについて日本語で説明している。			
7巻B面 14'54"~15'45"	ホリッパ「ホイヤ ベウレブ ホイヤ セッコ タブカラ」をアイヌ語で口演。田村 (1987) の解説によると、同書所収の「ウボボ「仔熊の啼く声 (pewrep rek haw)」(pp.27-28) と同じ歌。				

No.	所蔵館 (請求番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
		内 容 ・ 備 考			
4	7巻B面 19'37"~21'30"	「ホイヤホー ハポホー ヘッサオーホイ」で始まるホリッパ(踊り歌)をアイヌ語で歌った後、日本語で解説している。			
	7巻B面 21'31"~23'26"	目録には項目記載なし。Ukiropakteなど、熊送りなどのときに行う芸能などについて話している。			
	7巻B面 23'27"~28'08"	ハラキについての日本語での説明と、アイヌ語での口演。続けて、静内や北見におけるウキロルパクテについて、日本語で話している。			
	7巻B面 28'08"~30'50"	hupcaなどについての日本語での説明と、「フア チャ・フクン」で始まるウキロルパクテをアイヌ語で口演。			
	7巻B面 30'50"~33'03"	目録には項目記載なし。「いくさごっこ」について、日本語で話している。			
	7巻B面 33'03"~34'21"	ウキロルパクテ「ヘイヤンベカ ソ ト フン」「フェランナ ウトランナ」「ホクン ホクン」をアイヌ語で口演。			
	7巻B面 37'57"~41'30"	「いくさごっこ」のときの歌をアイヌ語での口演。			
	7巻B面 41'33"~43'11"	ノクヤク シノツ「チャビヤ チャクチャク」をアイヌ語で口演。さらに日本語で説明する。			
	7巻B面 43'51"~45'31"	目録には項目記載なし。静内の踊りの歌をアイヌ語で2曲歌い、沙流の踊りについて日本語で解説する。			
	7巻B面 45'32"~47'45"	エルムシノツをアイヌ語で歌う。			
	7巻B面 47'47"~51'02"	フンベシノツの歌をアイヌ語で口演し、やり方などを日本語で解説している。			
	7巻B面 51'02"~54'54"	子どもの遊び歌のうち、「heyya kuku」「pirka pirka」で始まるものをそれぞれアイヌ語で歌い、sinnak sinotについて日本語で説明。			
	7巻B面 54'55"~59'51"	目録には項目記載なし。鍋沢元蔵とともに、昔の子どもの遊びにどのようなものがあったか、そのやり方について日本語で解説している。			
7巻B面 1:00'38"~ 1:05'23"	「オプタテシケ プルブルケ」で始まる座り歌について、アイヌ語での口演と日本語での解説。採録者からのリクエストで歌ったものだが、旭川のウポボであって、沙流川流域では聞かないと説明している。さらに、昔の子どもの遊びにどのようなものがあったか、そのやり方についての日本語での解説をしている。				
5	北海道立図書館 (T/SA/O-7-5)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 14	原版NO.8-22~25複製版/ウエベケレ [ほか]	門別町 富川	近藤鏡二郎
	8巻A面 14'15"~31'34"	目録には項目記載なし。鍋沢元蔵とともに、沙流地方の口承文芸のジャンルや伝承者などについて説明している。			
	8巻A面 49'16"~51'24"	目録には項目記載なし。鍋沢元蔵とともに、沙流地方の神謡や散文説話について説明している。			
	8巻A面 56'05"~1:02'21"	「イテキ チシノ モコロ モコロ」で始まる子守歌の口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏によるアイヌ語での口演のほか、解説もなされている。田村(1987)によると、同書(pp.15-16)に所収の子守歌と同じ歌で、「だいたい同じだが、ところどころちがっている」ものである。			
	8巻A面 1'02'21"~ 1:05'00"	目録には項目記載なし。「トイカ ワ ホプニレ モコン ネ」で始まる子守歌について、アイヌ語での口演のほか、日本語で解説している。			
8巻A面 1:05'00"~ 1:05'17"	「ホーチップパ ホー」ではじまる子守歌の口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。				
6	北海道立図書館 (T/SA/O-7-6)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 15	原版NO.8-26~36複製版/イヨハイオチシ [ほか]	門別町 富川	近藤鏡二郎
	8巻B面 0'00"~7'09"	ある男性が歌ったイヨハイオチシをアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。日本語で解説もしている。			
	8巻B面 7'09"~11'07"	ある女性が歌ったイヨハイオチシをアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。日本語で解説もしている。			
	8巻B面 11'07"~21'02"	「ウタリ エシカルン シノツチャ」で始まるヤイカテカラをアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。ヤイカテカラというジャンルやこの歌について日本語での解説もしている。			
	8巻B面 21'02"~30'43"	「クチワコチャンチャン」で始まるヤイサマをアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。日本語で解説もしている。			
	8巻A面 30'43"~41'59"	目録には項目記載なし。馬車についてなど、昔の思い出話をしている。			
	8巻B面 42'50"~44'00"	イウタウポボ(4人掲ぎ)をアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。イウタウポボについてや4人で掲ぐときの方法なども含めて日本語で解説もしている。			
	8巻B面 44'00"~45'02"	イウタウポボ(3人掲ぎ)をアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。3人で掲ぐときの方法なども含めて日本語で解説もしている。			
	8巻B面 45'02"~45'58"	イウタウポボ(2人掲ぎ)をアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。2人で掲ぐときの方法なども含めて日本語で解説もしている。			
	8巻B面 45'58"~47'38"	「ソーソー」で始まるイウタウポボをアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。日本語で解説もしている。			
8巻B面 47'38"~54'06"	「コンル カ タ ボン ホロケウ ハチリ」で始まる言葉遊びをアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。日本語で解説もしている。				
8巻B面 54'06"~1:02'02"	「トイタ サウオツ ノチウ」で始まる言葉遊びをアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。日本語で解説もしている。				

No.	所蔵館 (請求番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
	時間		内 容 ・ 備 考		
6	8巻B面 1:02'02"~ 1:05'22"	「サンタソワソ」が折り返し句(サケヘ)となる神謡をアイヌ語で口演。目録には鍋沢元蔵の口演とあるが、音声資料では平賀サダ氏による口演。日本語で解説もしている。			

・二次資料(刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
		内 容 ・ 備 考		
1	近藤鏡二郎	昭和35年10月16日録音(富川で) 鍋沢元蔵・平賀サダモ研究	門別町郷土史研究会(1966)	12-15
		近藤鏡二郎らによって「昭和34・35・36年の3年間に、10回にわたり延べ26日のあいだ行われた」調査と1965(昭和40)年に行われた英雄叙事詩の調査によって採録された音声資料「合計272曲」の目録。このうち、1959(昭和34年)の調査には平賀サダ氏は同席していないが、1960(昭和35)年10月16日の調査テープ(6巻A面から8巻B面に相当)においては、平賀サダ氏の口演や説明として掲載されている項目も多い。具体的には、以下のとおり。		
		39 ワカルバのユーカラ・サケヘ(鍋沢ワカルバの英雄詩曲)		
		40 チクプシリのユーカラ・サケヘ(平賀チクプシリの英雄詞曲)		
		41 チクプシリのユーカラ・サケヘ(出しのところ)		
		42 トイタック(昔ばなし)「コッカノサポー」(釧路方言)		
		43 金成マツのユーカラ・サケヘ		
		44 シノッチャ(民謡)「コンブ・サツケ・シノッチャ」(こんぶほし歌)		
		45 シノッチャ(民謡)「ヘロルキ・オッカヨ」(にしん場の男)		
		46 シノッチャ(民謡)「イラマンデ・オッカヨ」(リムセ・ウポボ:踊り歌入り)~(熊かり男)(自作と古い歌の組みあわせ)		
		47 ロク・ウポボ(すわり歌)「チッカワカムイラン・ヌプリベツランラン」		
		48 ホリッパ(踊り歌)「ホイヤ・ペウレブ・ホイヤ・セッコ・タブカル」		
		49 ホリッパ(踊り歌)「ホイヤホー・ハバホー・ヘッサオーホイ」		
		50 ウキロル・バクテ(踊りくらべ)(ハラルキの歌)		
		51 ウキロル・バクテ(踊りくらべ)「フクチャ・フクン」		
		52 ウキロル・バクテ(踊りくらべ)「ヘヤベンカソートー・フーウン」「フェラント・ウートーランナ」「ホクン・ホクン」		
		53 フェラント(戦いの踊り)(四つの歌)		
		54 ノクヤク・シノツ(つばめ踊り)「チャビヤ・チャクチャク」		
		55 エルム・シノツ(ねずみ踊り)2種		
	56 フンベ・シノツ(くじら踊り)3種			
	57 こどもの遊び歌「イナンクル・ピリカ」			
	59 ウポボ(こどもの歌)「オッタテシケー」			

3-1-(10) 1961(昭和36)年4月24~27日

・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
	時間		内 容 ・ 備 考		
1	北海道立図書館 (T/SA/O-9-1)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 20	原版NO.12-1~27複製版/ウポボ〔ほか〕	福満	近藤鏡二郎
		12巻A面 0'02"~1'48"	イウタウポボ「ヘッサオー ホイヤーオ」(3人搦ぎ)をアイヌ語で口演。		
		12巻A面 1'48"~2'31"	イウタウポボ「ホイヤーオ ホッホイ」(3人搦ぎ)をアイヌ語で口演。		
		12巻A面 2'31"~3'12"	イウタウポボ「ソーアソー」(3人搦ぎ)をアイヌ語で口演。		
		12巻A面 3'12"~5'38"	イウタウポボ「ホイヤ オー ホー」(3人搦ぎ)をアイヌ語で口演。		
		12巻A面 5'38"~6'45"	イウタウポボ「オーホー」(4人搦ぎ)をアイヌ語で口演。		
		12巻A面 6'45"~7'56"	イヌンパウポボ「ヘチリン ホーオー」をアイヌ語での口演と日本語での解説。		
		12巻A面 7'56"~10'23"	ウポボ「チュプ カ ワ カムイ ラン」をアイヌ語で口演。		
		12巻A面 10'23"~11'10"	平賀サダ氏が自作したウポボをアイヌ語での口演と日本語での解説。		
		12巻A面 11'10"~12'26"	ウポボ「ターエ ホークン」をアイヌ語で口演。目録には「祭りのときの歌/tama kun(玉が下る)/tae-ho-okun-ho-okun-tae(はやし文句)」とある。		
		12巻A面 12'26"~15'49"	ウポボ「フンベ パワ」のアイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「敵襲を部族に警報する歌で、シサム(和人・外国人)には絶対に教えない」とある。		
	12巻A面 15'49"~16'41"	ウポボ「ワシペトウン・チャシ」をアイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「悪口の歌といわれる」とある。			

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	12巻A面 16'41"~17'36"	リムセウポポ「ホイヤオー」をアイヌ語で口演。			
	12巻A面 17'36"~18'15"	リムセウポポ「ホイヤー」をアイヌ語で口演。			
	12巻A面 18'15"~18'55"	ハララキのアイヌ語での口演と日本語での解説。			
	12巻A面 18'55"~19'39"	チャピヤクをアイヌ語で口演。			
	12巻A面 19'39"~20'37"	リムセウポポ「ホイヤオー」「ヘッサオー」をアイヌ語で口演。			
	12巻A面 20'37"~27'28"	祈り言葉について、鳩沢ふじの（ワテケ）とともに日本語での解説を行っている。			
	12巻A面 27'28"~30'21"	ウテクルイルイパ（挨拶）について鳩沢ふじの（ワテケ）とともにアイヌ語での実演と日本語での解説。			
	12巻A面 30'21"~33'02"	ウポポ「カネポンクトシントコ」についてアイヌ語での口演と日本語での解説。			
	12巻A面 33'02"~35'41"	ウポポ「フブチャオ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	12巻A面 35'41"~39'59"	ウポポ「エーヤーオ」についてアイヌ語での口演と日本語での解説。			
	12巻A面 39'59"~47'05"	ウポポ「ヒヤオルン」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「カツラのように香りのよい男を歌う。ユーカラ・シノッチャともいう（サケヘ：ヘヤオルン）」とある。			
	12巻A面 47'05"~48'51"	ウポポ「ヒヤオルン」について、目録には「ユーカラ・シノッチャの一つ。鍋沢元蔵も歌っている」とあり、鍋沢元蔵も参加しているようにも読めるが、音声資料では鳩沢ふじの（ワテケ）による口演である。			
	12巻A面 48'51"~52'38"	ウポポ「ヒヤオルン」（輪唱）について、平賀サダ氏と鳩沢ふじの（ワテケ）の2人によるウコウク。目録には「1拍づつおくらせて四人まで輪唱することができる」とある。			
12巻A面 52'38"~1:00'21"	ウポポ「アヨロコタン」平賀サダによるアイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「ユーカラ・シノッチャの一つ。鍋沢元蔵も歌っている」とあり、鍋沢元蔵も参加しているようにも読めるが、音声資料では平賀サダ氏と鳩沢ふじの（ワテケ）の2人によるウコウクである。				
12巻A面 1:00'21"~1:03'37"	わらべ歌「チカッポエシノツ」について、平賀サダ氏と鳩沢ふじの（ワテケ）それぞれによるアイヌ語での口演と、日本語での解説。				
2	北海道立図書館 (T/SA/O-9-2)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 21	原版NO.12-28~38複製版/わらべ歌 [ほか]	福満	近藤鏡二郎
	12巻A面 1:03'37"~1:05'10" 12巻B面 0'00"~2'43"	雁の鳴き真似について、アイヌ語での口演と日本語での解説。解説のなかには、雁を呼んで遊んだ話なども含む。			
	12巻B面 2'43"~8'45"	ウバシクマのアイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「白鳥の伝説を物語るもの」とある。			
	12巻B面 8'45"~13'24"	目録には項目記載なし。子供の頃の遊びなどを話している。			
	12巻B面 13'24"~21'47"	サケハウ（タプカラ）について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	12巻B面 21'47"~37'37"	鳩沢ふじの（ワテケ）が語る感謝の言葉に対して平賀サダ氏が返答するという形式でアイヌ語で、挨拶を実演。日本語での解説も話される。			
	12巻B面 49'39"~54'16"	日食・月食のときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	12巻B面 54'16"~57'12" 12巻B面 57'12"~1:05'19"	地震のときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。 海に出て強風で帰れないときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
3	北海道立図書館 (T/SA/O-9-3)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 22	原版NO.13-39~42複製版/ウバシクマ [ほか]	福満	近藤鏡二郎
	13巻A面 20'05"~23'46"	樺太のヤイサマについて、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「カラフトのメノコがホッカイロカイ（北海道の男）を思いこがれて歌ったもの」とある。			
	13巻A面 23'46"~56'43" 13巻A面 8'45"~13'24"	折り返し句（サケヘ）が「ウウ アテンルテンル」である神謡について、アイヌ語での口演と日本語での解説。 目録には項目記載なし。旭川に行ったときの思い出について、日本語で説明。			
4	北海道立図書館 (T/SA/O-9-4)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 23	原版NO.13-43~45複製版/イノンノ・イタク [ほか]	福満	近藤鏡二郎
	13巻A面 1:04'09"~1:05'07" 13巻B面 0'06"~5'41" 19'48"~29'23"	引導渡しの際の、火の神に対する祈り言葉。アイヌ語での口演と日本語での解説。 引導渡しの言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
		内 容 ・ 備 考			
4	13巻B面 5'41"~19'48"	目録には項目記載なし。旭川に行ったときの思い出話について、日本語での説明。			
	13巻B面 29'23"~32'19"	憑き神（守り神）やイムについて、それぞれ日本語で説明。			
	13巻B面 32'19"~55'13"	折り返し句（サケヘ）が「ホーエパフン」である神謡について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	13巻B面 55'13"~59'35"	目録には項目記載なし。沙流川筋の地名の由来などについて日本語での説明。			
5	北海道立図書館 (T/SA/O-9-5)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 24	原版NO.14-46~48複製版/カムイユウカラ [ほか]	福満	近藤鏡二郎
	14巻A面 0'03"~1'20"	目録には項目記載なし。人間の起源について日本語での説明。			
	14巻A面 1'20"~24'59"	折り返し句（サケヘ）が「ウォウオ トリバイナ/アチュワチュウ トリバイナ」である神謡について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	14巻A面 24'59"~43'25"	折り返し句（サケヘ）が「ススコンクル テ サテ」である神謡について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	14巻A面 43'25"~46'19"	呪いをする和人の話を日本語で説明。			
14巻A面 46'19"~58'33"	折り返し句（サケヘ）が「トゥ ミクミク」である神謡について、アイヌ語での口演と日本語での解説。				
6	北海道立図書館 (T/SA/O-9-6)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 25	原版NO.14-49~50複製版/カムイユウカラ~サケヘ	福満	近藤鏡二郎
	14巻B面 44'06"~1:04'38"	折り返し句（サケヘ）が「トロロフンポ」である神謡について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻A面 0'01"~27'44"	目録には項目記載なし。平賀サダ氏・鳩沢ふじの（ワテケ）の系譜や伝承経路についてなどを日本語で説明。			
7	北海道立図書館 (T/SA/O-9-7)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 26	原版NO.15-51~52複製版/カムイユウカラ [ほか]	福満	近藤鏡二郎
	15巻A面 27'44"~43'08"	折り返し句（サケヘ）が「アベメルコヤンコヤンマツ アテヤテンナ」である神謡について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻A面 43'08"~1:02'09"	英雄叙事詩の伝承経路についてなどを日本語で説明。チクブシリやワカルバラのユカラの節回しを真似させている。			
15巻B面 0'09"~4'34"	津波のときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「まじないのしかた」の概要と「エトクシ」の対訳付きテキストも記載されている。				
8	北海道立図書館 (T/SA/O-9-8)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 27	原版NO.15-53~73複製版/ヤイサマ [ほか]	福満	近藤鏡二郎
	15巻B面 4'35"~5'17"	ポンテレケのヤイサマについて、アイヌ語での口演。			
	15巻B面 6'02"~7'49"	大波のときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「repun sokki sokkikoro kamuy」で始まる「エトクシ」の対訳付きテキストも記載されている。			
	15巻B面 7'49"~8'47"	水を捨てるときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻B面 8'48"~9'49"	にごった水を澄ませるときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻B面 9'50"~20'30"	雷を鎮めるときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「ピラカ系の兄弟神のサビキリ：同族専用のまじない」とあり、「teeta piraka an ekasi」で始まる「エトクシ」の対訳付きテキストも記載されている。			
	15巻B面 20'31"~22'44"	火の粉が跳ねたときに言うまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻B面 22'45"~23'28"	目録には項目記載なし。煙が寄ってこないようにするまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻B面 23'28"~25'18"	目録には項目記載なし。火棚についた煤を払うまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻B面 25'18"~25'48"	ダニを投げるときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻B面 25'48"~27'35"	ダニにたとえた悪口の話について、日本語での解説。			
	15巻B面 27'35"~29'22"	赤ん坊が夜泣きをするときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻B面 29'22"~31'16"	くしゃみをしたときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻B面 31'16"~32'03"	食事中にくしゃみをしたときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻B面 32'03"~36'40"	イケマに中毒した者がいたときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。「sisirimuka kenasi sokasi」で始まる、まじない言葉の対訳付きテキストも記載されている。			
15巻B面 36'40"~37'35"	トゲが刺さったときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。				
15巻B面 37'35"~38'42"	目にゴミが入ったときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。				

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
8	15巻B面 38'42"~42'04"	目に星が出たときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	15巻B面 42'04"~51'59"	虹に追われたときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。虹について、日本語で解説。			
	15巻B面 52'04"~57'38"	ニウエンホリピについて、日本語での解説。			
	15巻B面 57'46"~1:01'17"	ウボボ「ハルランラン」について、日本語での解説。			
	15巻B面 1:01'17"~ 1:03'34"	huerant sinot「いくさごっこ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
9	北海道立図書館 (T/SA/O-9-9)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 28	原版NO.16-74~82複製版/リムセ〔ほか〕	福満	近藤鏡二郎
	16巻A面 0'00"~3'20"	リムセウボボについて、アイヌ語での実演。「ホイヤ」「ヘラアンネ」「トウン キッポ ハラへ」「ハイケワ」「ヘヤベヤ チャナ チャナシ」「ヒエイエイエ ハンルイルイサ」「ルイバ アンレ」「オロロ サンコ」「ハイケワ」「オロワ チェッポ」「ホマ エホマ」「ホイヤ」。目録には「hoyya / heraanne」で始まる「リムセ」の対訳付きテキストも記載されている。			
	16巻A面 3'32"~5'25"	ウボボ「ヘッサオロロ ホイヤ ホ」について、アイヌ語での実演。目録には「イヨマンテ(熊まつり)のときや遊ぶときに、ウユウク〔マ〕(輪唱)して歌う」「五人か六人でも輪唱するが、一まわりして同じになってしまうので、三人か四人がきれいに聞える」とある。			
	16巻A面 5'25"~7'42"	ウボボ「アブカ トパ」について、アイヌ語での実演。			
	16巻A面 7'43"~8'47"	ウボボ「オロロ ピンネ」について、アイヌ語での実演。			
	16巻A面 8'48"~28'59"	くじら祭りの歌について、アイヌ語での口演と日本語で解説。さらに、クジラや海獣などの名称・獲り方について、日本語で解説。			
	16巻A面 28'59"~30'07"	ヤブマメ掘りとその歌について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	16巻A面 30'07"~30'32"	ウボボの歌い方について、日本語での解説。目録には「uwer-pak 斉唱：みんな一しよに歌う」などのように、アイヌ語・日本語の対応で記載されている。			
	16巻A面 30'35"~30'53"	子守歌について日本語での解説。目録には「沙流ではイフンケといわない。イフンケは人が悪い運命になるようにノロイのことである。沙流ではイヨルイカという」とある。			
	16巻A面 30'53"~44'10"	子守歌について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「物語りのある子守歌」とある。			
16巻A面 44'11"~51'51"	シノッチャについて、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「酋長が若いころを思い出して歌つたもの」とある。				
16巻A面 51'51"~55'50"	目録には項目記載なし。ヤイサマ・シノッチャなどの歌のジャンル名について、日本語で解説。				
10	北海道立図書館 (T/SA/O-9-10)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 29	原版NO.16-83~96複製版/鳴きまね歌〔ほか〕	福満	近藤鏡二郎
	16巻B面 0'00"~2'57"	聞きなし(ヤマバト)について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	16巻B面 2'57"~4'30"	聞きなし(ツツドリ)について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	16巻B面 4'30"~5'37"	聞きなし(シギ)について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	16巻B面 5'37"~7'02"	聞きなし(ヒバリ)について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には対訳付きテキストも記載されている。「豆を盗んで食つたと悪口をいわれたアイヌが、悪口をいつた和人に……ひばりに移りかわつて怨みごとを言うのだという」とある。			
	16巻B面 7'02"~8'56"	聞きなし(セミ)について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には対訳付きテキストも記載されている。「六代も生きながらえた偉い婆さんが、津波のときに流されて山に寄りあがつて死んだ。その霊を神さまがヤキにしたのだという」などとある。			
	16巻B面 9'44"~16'44"	目録には項目記載なし。メノコユカラなどの口承文芸のジャンルの違いや折り返し句(サケヘ)などについて、日本語で解説。			
	16巻B面 16'46"~20'59"	ヤイサマ「ウラカワから サルプトウ パクノ」について、アイヌ語での口演。目録には、ヤイサマの背景や対訳付きテキストも記載されている。			
	16巻B面 21'03"~23'27"	ヤイサマ「トノト アリ クヤイヌ キ コロ」について、アイヌ語での口演。目録には、ヤイサマの背景や対訳付きテキストも記載されている。			
	16巻B面 25'55"~27'43"	ヤイサマについて、アイヌ語での口演。目録には、ヤイサマの背景も記載されている。			
	16巻B面 27'47"~30'11"	シノッチャについて、アイヌ語での口演。目録には、ヤイサマの背景も記載されている。			
	16巻B面 32'33"~36'49"	イムをしたフチ(おばあさん)や、イムなどについて、鳩沢ふじの(ワテケ)とともに日本語で話している。			
	16巻B面 36'49"~43'27"	ユーカラ シノッチャについて、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「イム・フチではないがユーカラをよく知っていた金成マツ・フチが歌つたもの」とある。			
16巻B面 43'27"~48'11"	金成マツに久しぶりに会った話について、日本語で話している。				

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
		内 容 ・ 備 考			
11	北海道立図書館 (T/SA/O-9-11)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 30	原版NO.17-97①製版/ハウ	福満	近藤鏡二郎
	17巻A面 10'37"~37'04"	ハウ(散文語り)について、アイヌ語での口演。目録には、「養祖母ドモンテノの伝承。サケへはなくルパイエ(節なしに語る)という語り方」とあり、ルパイエのリズムについても解説がある。			
12	北海道立図書館 (T/SA/O-9-12)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 31	原版NO.17-97②~99複製版/ハウ〔ほか〕	福満	近藤鏡二郎
	17巻A面 37'07"~1:04'01"	英雄叙事詩「トゥミ スイケレ ウェンペ スイケレ」を鳩沢ふじの(ワテケ)が韻文で語っている。平賀サダ氏は「ヘツチェ(かけ声)」を行っている。			
	17巻B面 0'04"~51'35"	英雄叙事詩「トゥミ スイケレ ウェンペ スイケレ」を平賀サダ氏が韻文で語っている。目録には、「始めに聞くユーカラをルパイエして暗記する。ワテケのユーカラを一度聞いて二度目にサタモが言うところを聞くと、数回まちがえただけで、ほとんど完全に覚えてしまうことが解る」とあり、ユーカラの伝承についての記述がある。			
13	北海道立図書館 (T/SA/O-9-13)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 32	原版NO.18-100~104複製版/ユーカラ・シノッチヤハ〔ほか〕	福満	近藤鏡二郎
	18巻A面 32'32"~38'51"	サコロペについて、アイヌ語での口演。目録には「クッシャロ湖畔の人に教わつたもの」とある。釧路のサコロペについて、日本語での解説もされる。			

・二次資料(刊行物)

No.	教えてもらった人 ジャンル	表 題	出 典	掲載ページ
		内 容 ・ 備 考		
1	近藤鏡二郎	昭和36年4月24日~27日録音(福満コタンで) 総合研究・第1回	門別町郷土史研究会(1966)	17-38
	近藤鏡二郎らによって「昭和34・35・36年の3年間に、10回にわたり延べ26日のあいだ行われた」調査と1965(昭和40)年に行われた英雄叙事詩の調査によって採録された音声資料「合計272曲」の目録。そのうち、1961(昭和36)年4月24日~27日の調査テープ(12巻A面から18巻A面に相当)には、平賀サダ氏の口演や説明として掲載されている項目が多い。具体的には、以下のとおりである。			
	口絵写真「福満における歌謡研究」(近藤鏡二郎が鳩沢ふじの(ワテケ)・平賀サダ氏に聞き取り調査をする様子)			
	98 イウタ・ウポボ(白つき歌)「ヘッサオーホイ」			
	99 イウタ・ウポボ(白つき歌)「ホイヤオー・ホッホイ」			
	100 イウタ・ウポボ(白つき歌)「ソーアソー」			
	101 イウタ・ウポボ(白つき歌)「ホイヤオー・ホーホイヤ」(三人づき)			
	102 イウタ・ウポボ(白つき歌)「ホーホー・ホーホー」(四人づき)			
	103 イヌンバ・ウポボ(酒こし歌)「ヘチリン・ホオウ」			
	104 ウポボ(すわり歌)(神の歌)「チブカワ・カムイラン」(輪唱)			
	105 ウポボ(すわり歌)「チブカワ・ヌプリベド……」(自作詩)			
	106 ウポボ(すわり歌)「タマクン・タアエ・ホーオウ」(輪唱)			
	107 ウポボ(戦いの知らせの歌)			
	108 ウポボ(室蘭アイヌの歌)(ワシベツ城の歌)			
	109 リムセ(踊り)「ホイヤオーホー」(輪唱)			
	110 リムセ(踊り)「サーオーホイヤ」(輪唱)			
	111 ハラルキ(雁の舞)「ホロロ……」「ヘシュートル」			
	112 ハラルキ(ひばりの舞)「ピヤピヤ・チャクチャク」			
	113 リムセ(踊り)「ヘッサオー・ホイヤオー」			
	115 ウテクルイルイバ(女同志の握手)			
	116 ウポボ(坐り歌)「カネポントシントコ」			
	117 ウポボ(祝いの歌)「フブチャオー」			
	118 ウポボ(祝いの歌)「エーヤーオー」			
	119 ウポボ(祝いの歌)「ポンランコトノ」(神男の歌)			
	121 ウポボ(祝いの歌)「ヒヤオルン」(輪唱)			
	122 ウポボ(祝いの歌)「アヨロコタン」(輪唱)			
	124 わらべ歌(すずめの踊り)			
	125 わらべ歌(渡り鳥を呼ぶ歌)			
	126 わらべ歌(輪唱のわらべ歌)			
	127 ウパシクマ(なぞなぞ話し)「ベケッチカブ」			
	128 サケハウ(タブカルともいう)の踊りの歌)			
130 ヤイライケ・イタック(その答辞)				
133 エトクシ(まじない)日食月食のとき				
135 エトクシ(まじない)北風のとき				
137 カラフトのヤイサマ(イラモロ・コイキ)				
139 カムイユーカラ(神謡)「ウヌプル・バクテ」(知恵くらべ)				
140 イノンノ・イタク(祈りのことば)(火の神にささげるもの)				
141 イヨイタッコテ(死者に対する引導)(イムの話)				

No.	教えてもらった人 ジャンル	表 題 内 容 ・ 備 考	出 典	掲載ページ
1		142 カムイユーカラ (神謡)「ウバシチロンヌブ・フレカムイ・ヌブルカスレ」(白きつねが大わしをだます曲)		
		143 カムイユーカラ (神謡)「ホルケンカムイ・アラサルシ・ウコイキ」(おおかみ神とアラサルシ怪獣との戦い)		
		144 カムイユーカラ (神謡)「サロルン・チカッポ」(葦のなかにいる小鳥の曲) 付:シサムの呪をする話し		
		145 カムイユーカラ (神謡)「アレス・セタ」(飼犬)		
		147 カムイユーカラ (神謡)「モユク」(むじな)		
		148 カムイユーカラ (神謡)「アベフチ・カムイ」(火の神) 付:チクブシリとウカラトクのユーカラ伝承についての対談		
		149 エトクシ (まじない) 津波のとき 付:カメの雨乞いの話。雨つづきに日照りを祈る話。カップの雨乞いの話 (エトクシ:まじないの一種)		
		150 ヤイサマ「ポンテルケ」(ボンイセボ:小うさぎ) [マ]		
		付:コワボロ婆さんの話。知里博士の話。ホリッパ大会で一位になった話。		
		153 エトクシ (波しずめのまじない)		
		154 エトクシ (水まきのとき)		
		155 エトクシ (にごり水をすませるとき)		
		156 エトクシ (雷しずめ)「カシフムシ・カシカルン」		
		157 エトクシ (火の粉しずめ)		
		158 エトクシ (ダニを投げるとき)		
		159 エトクシ (人が来てうるさいとき)		
		160 エトクシ (赤ん坊が夜泣きするとき)		
		161 エトクシ (くしやみをしずめる)		
		162 エトクシ (食事の時にくしやみをしずめる)		
		163 エトクシ (イケマに中毒したとき)		
		164 エトクシ (トゲをとる)		
		165 エトクシ (目のゴミをとる)		
		166 エトクシ (目の星をとる)		
		167 エトクシ (ニジに追われたとき) 付:ニジは不吉なものとし、追われたときにまじないをする		
		168 エトクシ (火事の魔よけ)「ニウエン・ホリビ」		
		169 くままつりのクルミまき「トミ・ランラン・ハルランラン」		
		170 フェラント・シノツ (いくさ踊り)		
		171 リムセ (輪舞)「ホイヤ・ヘラアンネ」 付:沙流と白老のリムセを合わせたもの		
		172 ロク・ウボボ (坐り歌)「ヘッサオローロ」		
		173 ウボボ (女鹿の歌)「アプカトカ (女鹿の群れ) ホーホートパホー」		
		174 ウボボ (男鹿の歌)「オロロピンネ・ヘーイヤ」		
		176 くじら祭りの歌 付:その踊り方。くじらや海獣の漁の方法		
		177 アワ豆堀 [マ] りの歌 付:ウボボの歌い方。火の神の話。子守歌のこと		
		178 イヨルイカ (子守歌)		
		179 シノッチャ (若い乳房)「ペウレ・トット」		
		180 鳴きまね歌 (山ぼと)「クスウェプ」		
		181 鳴きまね歌 (つつど) [マ]「ドド」		
		182 鳴きまね歌 (しぎ)		
		183 鳴きまね歌 (ひばり)		
		184 鳴きまね歌 (せみ)		
		186 ヤイサマ「ウラカワカラ・サルブドバクノ」(和語入り歌)		
187 ヤイサマ (飲んで歌えば)「トノトアリ・クヤイヌキコロ」				
189 ヤイサマ (ホレンチミのサンタロの歌)				
190 ユーカラ・シノッチャハ (神まね歌) 付:イム・フチについてワテケ・サタモの対談				
192 ユーカラ・シノッチャハ (神まね歌) 付:金成マツ (通称マリヤさん) と50年ぶりで会ってユーカラを聞いた話				
194 ハウ (詞謡)「アイヌラックル・イシカラカムイ・コイキ」(現人神と石狩神の戦い)				
195 ユーカラ (英雄詞曲)「ドミスイケレ・ウエンベスイケレ」(戦い終りぬ・悪戦終りぬ)				
196 ユーカラ (英雄詞曲)「ドミスイケレ・ウエンベスイケレ」(戦い終りぬ・悪戦終りぬ) ……ルパイエ……				
197 ユーカラ・シノッチャハ (ユーカラの節まわし) 付:クシロのサコルベとの違いについて				
201 ヤイサマ「イホレン」(独唱)				
2	近藤鏡二郎	ユカラ「ドミスイケレ ウエンベスイケレ」	近藤 (1999)	74分

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
2	英雄叙事詩	音声CD。英雄叙事詩「トゥミスイケレ ウェンベスイケレ」(韻文での語り)を鳩沢ふじの(ワテケ)が行っており、平賀サダ氏は「ヘツチェ(かけ声)」を行っている。「沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 31」(前出 3-1- (10) 音声 No.12)の17巻A面~17巻B面に該当する部分を、平成11年度財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の補助事業によりCD化したもの。		

3-1- (11) 1961 (昭和36) 年8月22日

・二次資料(刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	萱野茂	ヤイサマ2 (即興歌2)「積み取りのヤイサマ」	萱野 (1998f)	84-87
	即興歌	「ヤイサマネナ/この女は/今日の夜に/どの方が/一緒に寝れる」で始まる2分41秒の即興歌の口演を日本語対訳したもの。付属CDで音声も聞ける。		
2	萱野茂	[第2話] トミ スイケレ ウェンベ スイケレ (戦が終わった戦いも終わった)	萱野 (1998d)	50-125
	英雄叙事詩	23分32秒の口演を日本語対訳した英雄叙事詩。節つき(サコイエ)で語っている。付属CDで音声も聞ける。		
3	萱野茂	第11話 ポロシルン・カムイ ポホ・アネ(わたしはポロシリの子の神の息子だった)	萱野 (1974 (2005))	211-237
	散文説話	萱野茂が平賀サダ氏から録音した散文説話。カセットテープ(萱野(2005)はCD)付きで音声も聞ける。また、「解説」では「話し手のこと」として、平賀サダ氏の名前の由来や録音を始めた時期などについて、萱野が語っている(p.234)。それによると、萱野が録音した資料のなかでも「二番目に古い」(p.234)口承文芸の記録にあたる。また、このころ萱野は「登別温泉ケーブルに勤めて三ヵ月近く経った」(萱野・須藤 2008: 48)とのことだが、萱野自身は「この時は確か、家へ来てもらって」(p.234)であったと述べている。この物語と同じ話は、鳩沢ふじの(ワテケ)が1955(昭和30)年9月(田村 1984b: 28-45。節なし)と1961(昭和36)年4月(門別町郷土史研究会 1966: 20。節付き。折り返し句(サケヘ)は「カオリ」)に語っている。		

3-1- (12) 1961 (昭和36) 年12月9日

・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち音声資料

No.	所蔵館(収蔵番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道立図書館(T/SA/O-9-14)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 35	原版NO.20-1~20複製版/ユーカラ・サケヘ [ほか]	門別町	近藤鏡二郎
	20巻A面 1'33"~4'23"	チクプシリのユカラの節回しを真似してみせる。日本語での解説。			
	20巻A面 4'23"~5'17"	トクタンクルが語る英雄叙事詩の節回しを真似してみせる。日本語での解説。			
	20巻A面 5'17"~9'28"	ユカラクについて日本語での説明。			
	20巻A面 9'28"~11'38"	鍋沢ワカルバが語る英雄叙事詩の節回しを真似してみせる。日本語での解説。			
	20巻A面 11'38"~18'45"	新冠のユカラクが語る英雄叙事詩の節回しを真似してみせる。日本語での解説。			
	20巻A面 18'45"~22'44"	金成マツが語る英雄叙事詩の節回しを真似してみせる。日本語での解説。			
	20巻A面 22'44"~31'59"	金成マツについてなど、日本語で説明。			
	20巻A面 36'48"~39'40"	イウタ ウポポ「ホッホー ホ ホ ホ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「トレモロ・ヨーデル(鋭く高い震音)を入れる」とある。			
	20巻A面 40'34"~44'06"	草取り歌のアイヌ語での口演と、草取りなどの作業の時に歌う歌についての日本語での解説。目録には「草をとる手つきで、リズムに合わせて歌う」とある。			
	20巻A面 44'06"~45'47"	リムセウポポ「ヘッサーオーホイ」について、アイヌ語での口演。目録には「トレモロ・ヨーデルを入れる。割に新しい歌である」とある。			
	20巻A面 45'47"~51'11"	リムセウポポ「ホイヤオー ホイ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「古い型の歌。むかし熊まつりで歌ったという。また嫁とりの祝いにも歌った。今では年よりが集まれば必ず歌うようになった」とある。			
	20巻A面 51'11"~53'09"	ハララキ「アウホッカ・ホーレー」「アウホッカ アウホッカ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「列になつて飛ぶカリの声をまねたもの」「拍子を早め、ウコウクするときの歌」とある。			
	20巻A面 53'09"~53'56"	ハララキ「ヘシコートル ル……」について、アイヌ語での口演。目録には「トレモロ・ヨーデルを入れる」とある。			
	20巻A面 53'56"~55'18"	ツバメの舞について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	20巻A面 55'18"~57'56"	リムセ ウポポ「ハン トリ ハン チカブ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「鳥おどりという。他の地方で鶴の舞といつてが、ここではそう言わない」とある。			
20巻A面 57'56"~58'24"	リムセ ウポポ「カンクワ ホーテレケ」について、アイヌ語での口演。目録には「踊りの輪の中にいる踊り手が歌う」とある。				
20巻A面 58'24"~1:00'39"	リムセ ウポポ「ハン トリ ハン チカブ」「カンクワ ホーテレケ」アイヌ語での口演。目録には「前の二曲を同時に歌えば合うといつて歌ったが、途中で止めた。よく合わない」「前に合わないのを再び試みた。うまく合った。トレモロ・ヨーデルをして『パクノ』の合図をすると合うのである」とある。				

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き		採録地	教えてもらった人		
	時間		内 容 ・ 備 考					
1	20巻A面 1:00'39"~ 1:03'06"	北海道立図書館 (T/SA/O-9-15)	沙流アイヌの歌謡 【録音資料】36	原版NO.20-21~35複製版/ムックリ〔ほか〕	門別町	近藤鏡二郎		
	20巻B面 17'16"~18'43"						濁り水を澄ませるまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「濁り水を澄ませるときに歌う」とある。	
	20巻B面 18'43"~22'34"						川遊びと舟の話について、日本語での解説。	
	20巻B面 22'34"~24'50"						ヘヤクーク（目隠し鬼）について、日本語での解説。目録には「七才から九才まで鬼ごっこして歌った。『ヘヤクーク・アンロアンロ』（ヘヤクーク・しょう・しょう）と友だちを誘って遊んだという」とある。	
	20巻B面 25'06"~28'58"						子守歌3曲をアイヌ語で口演。日本語での解説もある。目録には「『ホホーホロロ』『ホイヤー・ホイヤハオー』『イレシシク』などと歌う」とある。	
	20巻B面 28'58"~30'40"						子守歌について、日本語での解説。	
	20巻B面 30'40"~33'44"						ままごとのほか、お手玉などの子どもの遊びについて日本語で解説。	
	20巻B面 33'44"~36'06"						教え歌について、アイヌ語での口演と日本語での解説。	
	20巻B面 36'06"~39'31"						馬に乗った話やブランコの話について、日本語で説明。	
	20巻B面 39'31"~41'57"						草刈り歌について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「この良い所は、私の所という意味の歌」とある。	
	20巻B面 41'57"~43'45"						苦い草と甘い草について、日本語での解説。	
	20巻B面 43'45"~44'08"						日食の話について、日本語での解説。	
	20巻B面 44'08"~46'05"						日食のときのまじない言葉について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「一日日食を経験した話。パチ（鉢）に水を入れて、笹をぬらして太陽にふりかけ、この歌をうたう」とある。	
	20巻B面 46'05"~47'08"						地震のときのまじない言葉について、目録には「キネで地面をついて歌う。地の底の地震の神が動かないようにとのエトクシである」とある。	
	20巻B面 47'08"~53'05"						大風のときの話や、雨に関するまじないの話などについて、日本語で説明。	
	20巻B面 53'05"~54'46"						タブカラについて日本語での解説。	
	20巻B面 54'46"~59'39"						タブカラの節回しの真似について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「タブカルの歌をサケハウという。声のわるい下手な酋長のまねをして歌ったもの」とある。	
20巻B面 59'39"~1:01'02"	タブカラの節回しの真似について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「声のよい上手な酋長のまねをして歌ったもの。『ホー』というはやしは女が後について歌うのである」とある。							
20巻B面 1:01'02"~ 1:04'49"	タブカラの節回しの真似について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「育て親のサンケレク酋長が歌った節まわし」とある。							
3	北海道立図書館 (T/SA/O-10)	沙流アイヌの歌謡 【録音資料】37	原版NO.21-36~22-2複製版/ウポボ〔ほか〕	門別町	近藤鏡二郎			
	21巻A面 0'01"~6'10"	シノッチャ（即興歌）について、アイヌ語での口演と日本語訳。目録には「日本語をまじえたヤイサマ（即興歌）の一種。日本の俗歌をまねた音階をもつ」とある。						
	21巻A面 6'10"~9'18"	平野テケサップとともに複数種類のリムセウポボを続けて歌う。						
	21巻A面 9'18"~10'57"	樺太の話（カラフト方言との違いなど）について、日本語での解説。						
	21巻A面 10'57"~22'28"	トンコリの各部の名称などについて、日本語での解説。						
21巻A面 22'28"~32'34"	平野テケサップ・平賀ハルノとともに、複数種類のリムセウポボを続けて歌う。日本語での解説もある。							

## ・二次資料（刊行物）

No.	教えてもらった人	表 題		出 典	掲載ページ
		内 容 ・ 備 考			
1	近藤鏡二郎	昭和36年12月9日録音（門別町役場） 総合研究・第2回		門別町郷土史研究会（1966）	44-49
		近藤鏡二郎らによって「昭和34・35・36年の3年間に、10回にわたり延べ26日のあいだ行われた」調査と1965（昭和40）年に行われた英雄叙事詩の調査によって採録された音声資料「合計272曲」の目録。そのうち、1961（昭和36）年12月9日の調査テープ（20巻A面から21巻A面に相当）には、平賀サダ氏の口演や説明として掲載されている項目が多い。具体的には、以下のとおりである。			
		215 ユーカラ・サケヘ（英雄詞曲の節まわし）「チクブシリ・エカシ」（チクブシリ酋長）			
		216 ユーカラ・サケヘ（英雄詞曲の節まわし）「トクタンクル・エカシ」（トクタンクル酋長）			
付：チクブシリとトクタンクル、ワカルパとコチャルツクルなどユーカラクルの話					

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
		内 容 ・ 備 考		
1		217 ユーカラ・サケヘ (英雄詞曲の節まわし)「ワカルパ・アチャボ」(ワカルパおじさん) 付:ワカルパと金田一京助博士のこと		
		218 ユーカラ・サケヘ (英雄詞曲の節まわし)「あるユーカラクル」 付:ニーカップのユーカラクルのサケヘ。名は解らない		
		219 ユーカラ・サケヘ (英雄詞曲の節まわし)「金成マツ」 付:サタモと金田一京助博士のこと。サタモと金成マツのこと。川村カネト・エカシを訪ねた話		
		221 イウタ・ウポボ (白つき歌)「ホッホー・ホ・ホ・ホ・ホ」		
		223 ウェンキナ・ウポボ (草とり歌)「ヤイサマネナ・ウェンキナ」 付:仕事歌の即興的な歌い方		
		224 ウユク [マ]・ウポボ (輪唱)「ヘッサーオーホイ」		
		225 ウユク [マ]・ウポボ (輪唱)「ホイヤーオー・ホイ」		
		226 ハラルキ (カリの歌)「アウホッカ・ホーレー」		
		227 ハラルキ (カリの歌)「アウホッカ・アウホッカ」		
		228 ハラルキ (カリの歌)「ヘシコートル・ル……」 付:カリの飛ぶ形の話		
		229 チカプネ (鳥まね歌:つばめ)「チャビヤ」 付:四人で飛ぶまねをしながら踊る話。その輪唱のしかたについて		
		230 チカプネ (鳥まね歌)「ハントリ・ハンチカプ・ハーハー」		
		231 チカプネ (鳥まね歌)「カンクワ・ホーテレケ」		
		232 チカプネ (鳥まね歌)「ハントリ」「カンクワ」		
		234 チカプネ (鳥まね歌)「ハントリ」「カンクワ」 付:サル奥のニオイ・ヌクベツは少し違う。トカチは少し似ている。ソラチは違いが多いなどの話		
		238 エトクシ (まじない歌)「カムイヌキ・ドイドイ」(濁り水) 付:川の舟と海の舟の話。一列に十人も乗れる海の舟があつた		
		239 鬼ごっこ「イナクル・ピリカ」「ヘヤクークー」		
		240 イヨノッカ (子守歌)		
		242 イヨノッカ (子守歌) (日本語で) 付:ままごとの話。貝の入れものに草や菜を入れて遊ぶ。ままごとの言葉		
		243 かぞえ歌「シネ・ド・レ」 付:女が馬にのつた話。シスエ (ぶらんこ) のこと		
		244 草かり歌「ヨーヨーヨー・ノンノンピリカ」/この良い所は、私の所という意味の歌。 付:甘い草を干してかじる話。日食の話		
		245 エトクシ (まじない歌)「チュブカムイ・エライナ」(日食)		
		246 エトクシ (まじない歌)「エシケ・ウェ・コッケナ」(地震) 付:風のまじない。南風は男、北風は女がする。雨ごい。雨ごいする場所は一つしかない。タブカル (男の力踏み歌) について		
		247 サケハウ (酋長の歌)		
		248 サケハウ (酋長の歌)		
		249 サケハウ (酋長の歌)		
		250 ウポボ (新作の歌)「チャリリ・チャチャリリ」		
		251 リムセ (輪舞)「ホイヤ・ホイヤ」「ホマーホイ」 付:カラフトのリムセのこと。トンコリ (絃楽器) について		
		252 リムセ (輪舞)「ホイヤ・ホイヤ」		

3-1- (13) 1961 (昭和36) 年12月10日~15日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
		内 容 ・ 備 考			
1	北海道立図書館 (T/SA/O-10)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 37	原版NO.21-36~22-2複製版/ウポボ [ほか]	札幌	近藤鏡二郎
	21巻A面 32'34"~41'42" 21巻A面 41'42"~46'22"	ヤイサマ「クコロ ヤイサマ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「招かれた喜びを歌ったもの。節まわしは幌泉のサンタロ (男) のものだという。即興歌の一例である」とある。 ヤイサマ「クコロ ヤイサマ」の元歌について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「幌泉のサンタロの歌った元歌」とある。直前で歌っているヤイサマの元になっている歌を平賀サダ氏が再現したものか。			
2	北海道立図書館 (T/SA/O-11-1)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 38	原版NO.22-3~4複製版/ユーカラ [ほか]	札幌	近藤鏡二郎
	21巻A面 46'22"~1:05'01" 21巻B面 0'15"~33'04" 21巻B面 33'04"~57'05"	英雄叙事詩「トゥミ スイケレ ウェンペ スイケレ」のアイヌ語での口演。目録には「本年4月・福満コタンで姉ワテケのユーカラを聞き、ルパイエして暗記した妹サタモの録音である」とある。 カムイユカラ「ウェントラブ」(サケヘ:ヘンノーエ) について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「サケヘ『ヘンノーエ』または『センノーエ』『テンノーエ』などと変わる」、「美しい酋長の娘をめぐる愉快な化物退治の物語」とある。			

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
		内 容 ・ 備 考			
2	21巻B面 57'05"~58'32"	目録には項目記載なし。神謡の語り手について、日本語で解説。			
	21巻B面 58'32"~1:05'20"	カムイオイナについて日本語で解説。目録には「姉のワテケより短く単純である」とある。			
3	北海道立図書館 (T/SA/O-11-2)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 39	原版NO.22-5~7複製版/カムイ・オイナ〔ほか〕	札幌	近藤鏡二郎
	22巻A面 0'01"~37'34"	カムイオイナ「アイヌ モトホ ユカラ」のアイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「チクプシリ・エカシが80才を過ぎてから、孫のサタモに教えたという曲である。「ヘツチェとレブ(かけ声と拍子うち)は丹野静子氏(旭川市近文のアイヌ)」とある。			
	22巻A面 37'34"~54'56"	ヤイサマのアイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「札幌に招かれた喜びを即興的に作詞して歌う。付：札幌に泊つた夜、便所をまちがえて反対がわの物置の方に行き困つた話。それをヤイサマにも入れた」とある。			
	22巻A面 54'56"~1:01'43"	ヤイサマのアイヌ語での口演と日本語での解説。目録には、「札幌に来たのは20年ぶりだといつたら『去年も来たでしょう』といわれて笑われた。年をとると失敗することも多いといつて、自分を励ます歌を即興的にうたう。日本語を入れている」とある。			
	22巻A面 1:01'43"~1:04'33"	目録には項目記載なし。漁師の仕事(漁場)の話などについて、日本語で解説。			
4	北海道立図書館 (T/SA/O-11-3)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 40	原版NO.22-8~13複製版/ヤイサマ〔ほか〕	札幌	近藤鏡二郎
	22巻B面 0'04"~7'02"	ヤイサマについて日本語での解説。目録には、「ヤイサマの語源=(ヤイサマネナ……困つたことをしたな)という言葉から変わつて、意味のないはやしにされたこと」「義経の伝説=(メノコが義経を慕つて歌つた片思いの歌)だ」とある。			
	22巻B面 7'02"~13'01"	ピタルパのヤイサマのアイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「10才くらいのときに聞いたもの」とある。「ピタルパ」は老婆の名前。			
	22巻B面 13'01"~18'55"	ある女のヤイサマについて、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「嫌いな男との結婚を親に強いられたメノコのヤイサマ。中に『イヨローベ』とサケヘが入る」とある。			
	22巻B面 18'55"~22'46"	ウポポ「アヨロコタン」のアイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「むかし白老の近くにあつたアヨロに、気がいがはやり、死神にとりつかれて部落が全滅したので、そのことを悲しんで歌つたもの」とある。			
	22巻B面 22'46"~28'57"	ある男のヤイサマについて、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「80才で死んだ男が若いころ歌つたもので、死ぬほどの大病をわずらつたとき、この歌をうたつて力がついたという」、「サケヘ『アイヨローベ』がつく」とある。			
	22巻B面 28'57"~35'47"	ヤイサマ「コサン ヤイサマ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。目録には「コサンポロ(日本名は小三郎)という男に捨てられたメノコが、その悲しみをこめて歌つたもの。サケヘ『アイヨローベ』がつく」とある。			
	22巻B面 35'47"~1:04'45" 23巻A面 0'03"~54'34"	英雄叙事詩「スマサムピウカ」のアイヌ語での口演。目録には「7、8才のとき祖父チクプシリに教わつたもの」とある。			
23巻A面 54'34"~1:04'47" 23巻B面 0'05"~47'10"	英雄叙事詩「スマサムピウカ」の日本語での解説。				
5	北海道立図書館 (T/SA/O-11-4) (T/SA/O-11-5) (T/SA/O-11-6) (T/SA/O-11-7)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 41 沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 42 沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 43 沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 44	原版NO.23-14①複製版/ユーカラ 原版NO.23-14②複製版/ユーカラ 原版NO.24-14①複製版/ユーカラ 原版NO.24-14②複製版/ユーカラ	札幌	近藤鏡二郎
	23巻B面 47'10"~1:05'01" 24巻A面 0'07"~1:04'49" 24巻B面 0'13"~1:05'13" 25巻A面 0'06"~34'44"	英雄叙事詩「ポイヤウンベ ヤイトウレンベ コイキ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。アイヌ語での口演のなかには、チクプシリの節回しを真似ている箇所もある(24巻A面51'42"~59'51")。			
	25巻A面 40'33"~41'56"	目録には項目記載なし。英雄叙事詩の節を変えることについて、日本語で解説。			
6	北海道立図書館 (T/SA/O-11-8) (T/SA/O-11-9)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 45	原版NO.25-15~16複製版/カムイユーカラ〔ほか〕	札幌	近藤鏡二郎
	25巻A面 41'56"~52'52"	折返し句(サケヘ)が「ホレホーレ」である神謡について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	25巻A面 52'52"~1:05'17" 25巻B面 0'00"~34'29"	英雄叙事詩「アコロ ウナルベ イレス」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。			
	25巻B面 40'33"~41'56"	目録には項目記載なし。昔の古老たちによる彫刻の話について、日本語で説明。			

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き		採録地	教えてもらった人
	時間		内 容 ・ 備 考			
6	25巻B面 51'54"~1:03'36"	神謡「フンベコイキ」(折り返し句(サケヘ):アイヌ)のアイヌ語での口演と日本語での解説。田村(2001)所収の神謡5「uyamrepunka」の類話。				
	26巻A面 0'07"~19'15"					
	26巻A面 20'17"~22'05"	ヤイサマをアイヌ語で口演。				
7	北海道立図書館 (T/SA/O-11-10)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 47	原版NO.26-19複製版/カムイユーカー		札幌	近藤鏡二郎
	26巻A面 22'05"~1:05'12" 26巻B面 0'03"~26'15"	英雄叙事詩「エトウラチチ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。				

・二次資料(刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題		出 典	掲載ページ
		内 容 ・ 備 考			
1	近藤鏡二郎	昭和36年12月10日~15日録音(札幌で) 平賀サタモ研究		門別町郷土史研究会(1966)	49-52
		近藤鏡二郎らによって「昭和34・35・36年の3年間に、10回にわたり延べ26日のあいだ行われた」調査と1965(昭和40年)に行われた英雄叙事詩の調査によって採録された音声資料「合計272曲」の目録。そのうち、1961(昭和36)年12月10~15日の調査テープ(21巻A面から26巻B面に相当)には、平賀サダ氏の口演や説明として掲載されている項目が多い。具体的には、以下のとおりである。			
		253 ヤイサマ「クコロヤイサマ(わたしの歌)」			
		254 ヤイサマ「サンタロ・ヤイサマ(サンタロの歌)」			
		255 ユーカー(英雄詞曲)「ドミスイケレ・ウエレ [??] ペスイケレ」			
		256 カムイ・ユーカー(神謡)「ウエン・タラップ」(わるい夢)			
		付:カムイ・オイナ(創世神曲)の話			
		257 カムイ・オイナ(創世神曲)			
		付:サタモは祖父チクプシリについて、6才のときユーカーを習いはじめたという。そのころの思い出話			
		258 ヤイサマ(招かれた喜び)			
		259 ヤイサマ(札幌駅で失敗したこと)			
		付:ヤイサマの話			
		260 ヤイサマ(ピタルバ・ヤイサマ)			
		261 ヤイサマ(メノコ・ヤイサマ)(女の歌)			
		262 ウポボ「アヨロコタン」			
		263 ヤイサマ(オッカヨ・ヤイサマ)(男の歌)			
		264 ヤイサマ(コサン・ヤイサマ)			
265 ユーカー(英雄詞曲)スマサンピウカ(スマサンピウカの戦い)					
付:その解説					
266 ユーカー(英雄詞曲)「ポイヤンベ・ヤイドレンベコイキ」(ポイヤンベが自分の守り神と戦うこと)					
付:その解説					
267 カムイ・ユーカー(神謡)「シシリムカ」(沙流を恋う)					
付:その解説					
268 ユーカー(英雄詞曲)「アコルナルベ・イレス」(わが夫にかしづく)					
269 カムイ・ユーカー(神謡)「フンベコイキ」(くじらの戦い)					
270 ヤイサマ					
271 ユーカー(英雄詞曲)「エドラチチ」(鼻の長い大男)					
付:その説明					

3-1-(14) 1962(昭和37)年5月16日(26日か)

・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き		採録地	教えてもらった人
	時間		内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (89694)	録音テープ	37.5.16 鶴川、平賀① ①子守歌3篇(平賀)/Kamuy yukar(沢) ②鴉と北奇 [??] 貝/iyohaiochisi(平賀)		NHKスタジオ	更科源蔵
	A面 00'54"~ 02'03"	「イテキチシノ モコロモコロ」で始まる子守唄をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏自身による日本語訳・解説も付く。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1-(14) 文書No.1)のp.152に記載の子守歌と同一内容であることから、その原録音であると考えられる。「コタン探訪帳」との関連性から、本資料の表書きに記載されている「鶴川、平賀」は語り手の生活体験地を示したもので、録音を行った場所は「コタン探訪帳」に記載されている「NHKスタジオ」(札幌)だと判断した。また、調査者・調査地及び内容(演目)が合致することから、この一連の録音は日本放送協会(1965)を制作するためのものだと推測できる。				

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き		採録地	教えてもらった人
			内 容 ・ 備 考			
1	A面03'16"~4'57"		「toy ka wa hopuni pe mokor ne」で始まる子守唄をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏自身による日本語訳・解説も付く。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.152-153に記載の子守歌の原録音であると考えられる。			
	A面04'58"~5'45"		「ho cippo ho cip onkayan cippo ho cip」で始まる子守歌をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏自身による日本語訳・解説も付く。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.153に記載の子守歌の原録音であると考えられる。			
	B面00'08"~4'35"		直前で語られた神謡(折り返し句(サケへ): to run na)の和訳・解説(saksomoayepについてなど)をアイヌ語を交えて行う。ただし、神謡の語り自体は沢ギンによるもの。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.154-155に記載の神謡の原録音であると考えられる。			
	B面4'36"~07'12"		カラスとホッキ貝の問答話の日本語訳・解説をアイヌ語混じりで行っている。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.155に記載の神謡の原録音であると考えられる。また、更科源蔵・更科光(1977)の「ハシフトガラス」の項(p.590)に記載の「小唄」が同型の話であり、この話がもとになっている可能性もある(ただし、同書には採録地は記載されていないため、断定はできない)			
	A面07'13"~9'42"		「私の夫の顔を見なさい」で始まる言い回しをアイヌ語で語っている。言葉遊びか、歌か、悪口の類か。平賀サダ氏自身による日本語訳・解説も付く。			
	B面5'26"~11'27"		「yaysamanena / kor oper hao」で始まるヤイサマをアイヌ語で語っている。平賀サダ氏自身による日本語訳・解説も付く。次のテープ(収蔵番号89695)に続く。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.155-157に記載の歌の原録音であると考えられる。			
2	北海道博物館 (89695)	録音テープ	37.5.16 鶴川、平賀② ③iyohaio chisi (平賀) のつぎぎ／義経とオキクルミ、ヘビの物語(平賀) ④十勝のyaisama, (平賀) 静内のyaisama (平賀) /yaisama (沢) シルシチリ、ホチコクの話"	NHKスタジオ	更科源蔵	
	A面00'41"~2'03"		前のテープ(収蔵番号89694)の続き。「yaysamanena / kor oper hao」で始まるヤイサマの日本語訳・解説。			
	A面02'04"~6'17"		okikurmiと義経に関する伝説。日本語でのあらすじ説明。ジャンルについて、平賀サダ氏自身は「isoytak」と述べている。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.157に記載の物語の原録音であると考えられる。			
	A面9'38"~13'28" B面0'00"~0'33"		直前で語られた、蛇の王様(kinasut tonog)が自叙する神謡(折り返し句(サケへ): noyaye noyaye)の和訳・解説。ただし、神謡の語り自体は沢ギンによるもの。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.158-159に記載の物語の原録音であると考えられる。			
	B面0'33"~4'46"		「yaysama nena … cokohemhem soneki ya an pe tapan」で始まる、十勝・伏古の古いヤイサマをアイヌ語で語る。平賀サダ氏による日本語訳と思い出しも付く。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.159に記載の歌の原録音であると考えられる。			
	B面5'11"~8'24" B面11'19"~12'55"		「yaysama ho nena hore」で始まる、静内・農屋の古いヤイサマをアイヌ語で語る。平賀サダ氏による日本語訳も付く。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.159に記載の歌の原録音であると考えられる。 鳥についての聞き取り調査。人知れず死んだ人の魂はsirsicirになって知らせに来る、など。沢ギンも同席し、説明に加わっている。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.159に記載されている項目の原録音であると考えられる。			
3	北海道博物館 (89696)	録音テープ	37.5.16 鶴川、平賀③ ⑤虫になった人間、雲雀と鼠、火事止、大雨止、雨乞、風止、 ⑥川水澄ませる、夜水くむとき/ikemaの中毒、天南星、ががいも/aha、まひたけ	NHKスタジオ	更科源蔵	
	A面00'33"~01'29"		虫の聞きなし。魂が虫になる話。途中で切れる。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.160に記載されている項目の原録音であると考えられる。			
	A面01'30"~02'26"		ヒバリの聞きなしをアイヌ語で語る。平賀サダ氏による解説もある。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.160に記載されている項目の原録音であると考えられる。			
	A面02'27"~4'30"		火事のときの呪文をアイヌ語で語る。平賀サダ氏による解説もある。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.160-161に記載されている項目の原録音であると考えられる。			
	A面04'31"~7'08"		雨をやませたいときの呪文をアイヌ語で語る。平賀サダ氏による解説もある。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.161に記載されている項目の原録音であると考えられる。			
	A面07'09"~12'12" B面0'00"~1'16"		呪文・祈り言葉の伝承について、雨乞いの呪文、風を止める呪文、風の名前や沖での風について、単語の意味、虫や鳥の話など。沢ギンも同席し、説明に加わっている。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.161-162に記載されている項目の原録音であると考えられる。			
	B面1'17"~1'50"		濁り水を汲むときの呪文をアイヌ語で語る。平賀サダ氏による解説もある。沢ギンも同席。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.162に記載されている項目の原録音であると考えられる。			
	B面1'51"~2'39"		夜に水を汲むときの呪文をアイヌ語で語る。平賀サダ氏による解説もある。沢ギンも同席。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.162に記載されている項目の原録音であると考えられる。			
	B面2'40"~4'45"		イケマ中毒のときの呪文をアイヌ語で語る。平賀サダ氏による解説もある。沢ギンも同席。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) の、p.162に記載されている項目の原録音であると考えられる。			
	B面4'46"~7'25"		食用植物(rawraw, ciutyrep, kites)の見分け方・食べ方について。沢ギンも同席し、説明に加わっている。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.163に記載されている項目の原録音であると考えられる。			
	B面7'26"~8'46" B面8'47"~10'54"		ヤブマメの皮だけあって実がないときの呪文をアイヌ語で語る。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.163に記載されている項目の原録音であると考えられる。 yukkarus(マイタケ)を見つけたときの呪文をアイヌ語で語る。yukkarusについての説明もある。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.163-164に記載されている項目の原録音であると考えられる。			

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き		採録地	教えてもらった人
			内 容 ・ 備 考			
4	北海道博物館 (89697)	録音テープ	37.5.16 鷓川、平賀 ④ ⑦舟おろし、Kamuiyukar (tu mik mik) ⑧Kamui yukar (uworun chikap)		鷓川、 平賀	更科源蔵
	A面0'35"~3'37"	舟つくりのときの祈詞をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏による解説もある。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のp.164に記載されている項目の原録音であると考えられる。				
	A面3'38"~5'02"	地形などについての説明。				
	A面6'10"~12'44"	狼の子が自叙する神謡(折り返し句(サケヘ): tu mik mik)をアイヌ語で語っている。主を殺した川瀬と相打ちになった犬の話。平賀サダ氏による解説もある。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.164-165に記載されている項目の原録音であると考えられる。また、この物語のあらすじが中川(1997(2020): 59-60)で紹介されている。				
	B面0'06"~9'41"	worun chikap(家の守り神)が自叙する神謡(サケヘ: inaw inaw)をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏による解説もある。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.165-166に記載されている物語の原録音であると考えられる。				
5	北海道博物館 (89698)	録音テープ	37.5.16 鷓川、平賀 ⑤ ⑨kamuy kamui yukar (オキクルミの妹) / 〃 (老人に育てられた子供) / 〃 (鴉) ⑩Kamui yukar (トキト) / 〃 (狐)		NHKス タジオ	更科源蔵
	A面0'39"~8'22"	神謡(折り返し句(サケヘ): horehore sisirimuka)についての解説を日本語で行っている。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.166-167に記載されている物語の原録音であると考えられる。				
	A面8'23"~12'31" B面0'00"~1'24"	カラスが自叙する神謡(折り返し句(サケヘ): taytay)をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏による解説もある。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.168-169に記載されている物語の原録音であると考えられる。				
	B面1'26"~7'58"	piraka un kotanに本当にあったというtokito kamuiの神謡(折り返し句(サケヘ): tokitto nn tokit tokitto nn)をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏による解説もある。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.169-170に記載されている物語の原録音であると考えられる。また、この神謡の折り返し句(サケヘ)について、中川(1997(2020): 68-69)や中川(1991b: 17)で紹介されている。				
	B面9'37"~12'00"	人を化かしに来た狐が正体を暴かれる話の日本語・アイヌ語での語り。同年同月26日の日付が記してある「コタン探訪帳」(後出 3-1- (14) 文書No.1) のpp.170-171に記載されている物語の原録音であると考えられる。また、この神謡の折り返し句(サケヘ)について、中川(1997(2020): 68-69)で紹介されている。				

・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち文書資料

No.	資料名 (所蔵館)	ノート番号 (ページ数)	タイトル		採録地	教えてもらった人
			項 目 名	内 容 ・ 備 考		
1	コタン探訪帳 (弟子屈町立図書館)	No.15 (152~171)	鷓川、平取町平賀	NHKスタジオにて 鷓川町 沢ギン 鷓川町春日生/平賀サダ 平取町平賀生	NHKス タジオ	更科源蔵
	152	①iyonruika	「itek cisi no」で始まる子守歌の歌詞がアイヌ語で書かれている。ところどころに日本語訳も付く。			
	152-153	②子守歌	「toi kawa hopunire」で始まる子守歌の歌詞がアイヌ語で書かれている。ところどころに日本語訳も付く。			
	153	③sinta sui iyon ruika	「ho cippo ho cip」で始まる子守歌の歌詞がアイヌ語で書かれている。			
	154-155	⑤Kamui yukar (torun na)	神謡の内容がアイヌ語・日本語混じりで書かれている。「録音テープ」(前出 3-1- (14) 音声No.1)によると、アイヌ語による語りは沢ギンによるが、和訳・解説は平賀サダ氏による。			
	155	⑥鴉と北寄貝	物語のあらすじがアイヌ語・日本語混じりで書かれている。			
	155-157	⑦iyohaiochisi (平賀kotan)	「yaisamanena / kotope hao」で始まる歌の歌詞がアイヌ語で書かれている。最後にあらすじがアイヌ語・日本語混じりで付く。			
	157	⑧義経とオキクルミ (アイヌ語のiso itakである)	物語のあらすじが日本語で書かれている。			
	158-159	⑨Kamui yukar (noya i noya i)	物語の内容が日本語で書かれている。本ノートに話者の記述はないが、「録音テープ」(前出 3-1- (14) 音声No.2)によると、アイヌ語による語りは沢ギンによるが、和訳・解説は平賀サダ氏による。			
	159	⑩十勝の古いyaisama (伏古)				
	159	⑪静内のyaisama (農屋)				
	159	⑫春日のyaisama				
	159	●sirusi chiri (山ゲラ)				
	159	●hochikokk				
	160	●秋の一番終りに鳴く虫				
	160	●雲雀と鼠 (iso itak)				
	160-161	●火事するとき				
161	●大雨止 ruyanbe kamui tonon o itakする。					
161	●雨乞ひ					

No.	資料名 (所蔵館)	ノート番号 (ページ数)	タイトル	採録地	教えてもらった人
	ページ	項目名	内容・備考		
1	161-162	●風止			
	162	●川水を澄ませるに			
	162	●夜水汲むとき			
	162	●ikemaの中毒したとき			
	163	●raurau (天南星)			
	163	●chituirep (ががいも)			
	163	●kitesh (ひるがほ)			
	163	●aha			
	163-164	●yuk karsi (まひたけ)			
	164	●舟つくり			
	164-165	⑬Kamui yukar (狼の子) / (tu mik mik)			
	165-166	⑭Kamui yukar (家の守り神) / (inaun inaun……)			
	166-167	⑮Kamui yukar (sakehe "hore hore)			
	167-168	⑯Kamui yukar / (hantor hanpo……)			
	168-169	⑰Kamui yukara (鴉の話) / (tai tai カー カー の意)			
	169-170	⑱Kamui yukar (Piraka un kotanに本当にあつたtokito kamuiのyukara) / (tokitto n tokitoki to n……)			
170-171	⑳mat yukar				

## ・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表題	出典	掲載ページ
	ジャンル	内容・備考		
1	(更科源蔵) 神謡	NHK札幌放送局 詞曲5 (kamuy yukar)	貝沢 (1988)	1271
		視聴覚資料所蔵目録のうち、日本放送協会 (1967) 所収のLPレコードの目録。このなかに、平賀サダ氏の口演による物語として、「1. tokito n toki tokito n (このはづくの神謡)」(3分31秒) が挙げられている。		

## 3-1- (15) 1963(昭和38) 年9月15日

## ・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間	内容・備考			
1	北海道博物館 (178766)	KC000144	[萩中美枝採録資料 yukar]	(不明)	萩中美枝
	66分	英雄叙事詩の前半部分をアイヌ語で語る。後半はKC000145へ続く。			
2	北海道博物館 (178767)	KC000145	[萩中美枝採録資料 yukar]	(不明)	萩中美枝
	31分	KC000144から続く英雄叙事詩の語りの続きだが、未完。			

## 3-1- (16) 1963(昭和38) 年10月17日

## ・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間	内容・備考			
1	北海道博物館 (173553)	YC000108	[アイヌ語日常会話]	登別市	山田秀三
	18分24秒	山田秀三がアイヌ語の日常会話テキストとして構想していた「SPOKEN AINU」(YD0122) のために、「人を訪問してから別れるまで」の場面における表現をアイヌ語で話している。採録地は「登別市登別温泉/子供の国」となっているが、これは平賀サダ氏が登別温泉で働いていたことによる。			

## ・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	ページ数	内容・備考			
1	北海道博物館 (172265)	YD0122	SPOKEN AINU	-	山田秀三
	-	山田秀三が作成を試みたアイヌ語の日常会話等のテキストで、神謡「PIPA YAYEYUKAR」の訳解も収める。日常会話テキストについては、作成の過程について、「前、平賀サダモさんに教わったテープから若干を抜き」(p.3) と記されており、平賀サダ氏からの聞き取り調査の成果が反映されている。なお、日常会話テキスト・神謡の訳解ともに書き直しやコピーと思われる同内容の資料が複数ある。たとえば、YD0126-01 (後出 3-1- (23))、YF0197及びYD0264 (後出 3-1- (38))、YD0015・YD0328・YD0331 (北海道立アイヌ民族文化研究センター 2003: 60, 63) など。			

3-1- (17) 1964 (昭和39) 年8月

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	児玉作左衛門他	アイヌ服飾の調査	北海道教育委員会 (1968)	33-37
	生活文化 (服飾)	アイヌ文化に関する調査の報告。服飾に関する事項として、「昭和三十九年八月」他3回、「門別地方のアイヌ服飾」が調査されている。そのうちの「話者」のひとりとして「門別町 福満 平賀サダモ」も挙げられており、「アイヌ衣服説明」をしている。		

3-1- (18) 1964 (昭和39) 年9月

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (請求番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道立図書館 (T/A/O-44-63)	アイヌ民俗文化財伝承記録テープ [録音資料] [63]	口承文芸/各ジャンル	上川 層雲峡	尾沢カンシャトク・杉村満
	49分	北海道教育委員会作成「アイヌ民俗文化財伝承記録テープ」(1973)からの複製(道教委番号S-1)。また、同館所蔵の「アイヌ民俗文化財伝承記録CD [録音資料] 226」(請求番号CD//784)は本資料の複製にあたる。平賀サダ氏による口演としては層雲峡での祈り言葉 (0'50"~7'04"、7'09"~7'38"、7'39"~8'14") が含まれる。この詳細は北海道教育庁生涯学習部文化課 (1995) に掲載されている。			
2	北海道立図書館 (T/A/O-44-65)	アイヌ民俗文化財伝承記録テープ [録音資料] [65]	口承文芸/yukar	上川 層雲峡	尾沢カンシャトク・杉村満
	31分	北海道教育委員会作成「アイヌ民俗文化財伝承記録テープ」(1973)からの複製(道教委番号S-3)。また、同館所蔵の「アイヌ民俗文化財伝承記録CD [録音資料] 228」(請求番号CD//785)は本資料の複製にあたる。平賀サダ氏による英雄叙事詩の口演が録音されている (0'39"~29'45")。			
3	北海道立図書館 (T/A/O-44-77)	アイヌ民俗文化財伝承記録テープ [録音資料] [77]	口承文芸、歌/oyna	上川 層雲峡	尾沢カンシャトク・杉村満
	43分	北海道教育委員会作成「アイヌ民俗文化財伝承記録テープ」(1973)からの複製。また、同館所蔵の「アイヌ民俗文化財伝承記録CD [録音資料] 240・241」(請求番号CD//796)は本資料の複製にあたる。採録年月日は「昭和39年」とあり月日は不明だが、採録地・採録者などが一致することから、「昭和39年9月」に録音された資料と一連であると推測した。平賀サダ氏による口演としては、英雄叙事詩 (部分) (27'32"~31'44") と神謡2編が含まれる。神謡はともに upascironnup が自叙する物語で、ひとつは折り返し句 (サケヘ) が「ウーアテンルテンルー アウー」(31'44"~37'22") で、もうひとつは折り返し句が「ホーウエーパフナー」の物語 (37'23"~42'00")。いずれも詳細は、北海道教育庁生涯学習部文化課 (1994) に掲載されている。			

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	尾沢カンシャトク	神への祈り言葉 上川町層雲峡にて (1)	北海道教育庁生涯学習部文化課 (1995)	268-285
	尾沢カンシャトク	神への祈り言葉 上川町層雲峡にて (2)	北海道教育庁生涯学習部文化課 (1995)	285-286
	尾沢カンシャトク	神への祈り言葉 上川町層雲峡にて (3)	北海道教育庁生涯学習部文化課 (1995)	287-288
	祈り言葉	原録音は1964 (昭和39) 年9月、尾沢カンシャトクによるもの。本書では若月亨が註訳を担当している。解題によると、このとき平賀サダ氏を層雲峡温泉に招いていた尾沢らの「健康と発展を祈る内容」になっており、おそらく、尾沢が復元した伝統的な家屋に一席を設けた際の祈詞ではないかと推測されている。		
2	尾沢カンシャトク	術競べに來たタチウオを戒めたオコジョ神の物語	北海道教育庁生涯学習部文化課 (1994)	57-70
	神謡	原録音は尾沢カンシャトクらによるもの。内容から、1964 (昭和39) 年に録音されたものと推測できる。本書では若月亨が註訳を担当している。折り返し句 (サケヘ) が「ウーアテンルテンルー アウー」の神謡。		
3	尾沢カンシャトク	意地悪なフリ神を戒めたオコジョ神の物語	北海道教育庁生涯学習部文化課 (1994)	71-82
	神謡	原録音は尾沢カンシャトクらによるもの。内容から、1964 (昭和39) 年に録音されたものと推測できる。本書では若月亨が註訳を担当している。折り返し句 (サケヘ) が「ホーウエーパフナー」の神謡。		

3-1- (19) 1965 (昭和40) 年4月12日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (請求番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道立図書館 (T/SA/O-11-11)	沙流アイヌの歌謡 [録音資料] 48	原版NO.27複製版/ユーカラ	門別町 富川	近藤鏡二郎
	27巻A面 0'02"~1:05'05"	英雄叙事詩「ヤイトゥレンベ コイキ」について、アイヌ語での口演と日本語での解説。この音声資料の目録に当たる門別町郷土史研究会 (1966) を見ると、同じタイトルの英雄叙事詩は266番目と272番目にあるが、これは272番目に対応する録音である。			

## ・二次資料（刊行物）

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	近藤鏡二郎	昭和40年4月12日録音（富川で）平賀サタモ研究（追補）	門別町郷土史研究会（1966）	52
	英雄叙事詩	「272 ユーカラ（英雄詞曲）『ヤイドレンベ・コイキ』（わが守り神の戦い）」「別名ホロケウ・カムイ・コイキ（オウカミ神の戦い）」「付：その解説」とある。		

## 3-1-（20）1965（昭和40）年9月20日～21日

## ・二次資料（刊行物）

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	萱野茂	〔第6話〕モユク キムンカムイ（ムジナとクマ）	萱野（1998a）	90-105
	神謡	ムジナが戸口を守る神となった由来を語る神謡。4分58秒の口演を日本語対訳で掲載している。折り返し句（サケヘ）は「トロロフムボ」。付属CDで音声も聞ける。		
	萱野茂	〔第19話〕ムジナとクマ	萱野（1977）	161-164
	神謡	ムジナが戸口を守る神となった由来を語る神謡。児童向けに編集した和訳のみが掲載されている。		
	萱野茂	〔第41話〕ムジナとクマ	萱野（1988）	352-374
2	神謡	アイヌ語・日本語対訳によるテキスト。折り返し句（サケヘ）は「トロロフムボ」。また、この物語を再編集したものが萱野（2020）にも収録されている。		
	萱野茂	〔第7話〕フリ ウパシチロンヌプ（怪鳥フリと白ギツネ）	萱野（1998a）	106-119
	神謡	5分20秒の口演を日本語対訳した神謡。折り返し句（サケヘ）は「ホウエウエバフム」。付属CDで音声も聞ける。		
3	萱野茂	〔第45話〕怪鳥フリと白ギツネ	萱野（1988）	420-431
	神謡	アイヌ語・日本語対訳によるテキスト。折り返し句（サケヘ）は「ホウエウエバフム」。「解説」では、平賀サダ氏についても書かれており、「上品で物知りのフチ（おばあさん）でした。ユカラ（英雄叙事詩）を語ると、発音はきれいだし、順序どおりに整然とやれるし、私がつもっている録音テープのうち、どの声を聞いても、みなお手本そのものばかりです」という記述もある。また、この物語を再編集したものが萱野（2020）にも収録されている。		
4	萱野茂	〔第8話〕ミンドチ アコラムコロ（河童と美女）	萱野（1998a）	120-159
	神謡	11分36秒の口演を日本語対訳した神謡。折り返し句（サケヘ）は「ヘムノーイェー」。付属CDで音声も聞ける。		
4	萱野茂	〔第4話〕パラコアツ シリマオツテ（罰当たりシリマオツテ）	萱野（1998c）	96-133
	散文説話	19分40秒の口演を日本語対訳した散文説話。付属CDで音声も聞ける。		
	萱野茂	〔第20話〕罰当たりシリマオツテ（パラコアツ（罰当たり）シリマオツテ）	萱野（1979（1993））	194-224
5	散文説話	日本語（pp.194-211）の後にアイヌ語原文が付く（pp.212-224）。この散文説話の異伝（ヴァリエント）が千葉大学（2015:955-978）に収められている。また、この物語を児童書向けにリライトしたものが、寮（2017）に「狐にされた性悪男」として収録されている（pp.13-34）。		
	萱野茂	〔第1話〕ヤイドレンベ コイキ（自分の憑き神と戦う）	萱野（1998e）	8-117
6	英雄叙事詩	61分37秒の口演を日本語対訳した英雄叙事詩。付属CDで音声も聞ける。		
	萱野茂	〔第2話〕アオバズクが醜いわけ	萱野（1977）	11-14
7	散文説話	アオバズクが人文神の妹に恋慕して失敗する神謡。児童向けに編集した和訳のみが掲載されている。		
	萱野茂	〔第30話〕犬とカワウソ	萱野（1977）	255-261
8	神謡	飼い犬が主人を殺したカワウソと戦うという神謡。和訳のみだが、折り返し句（サケヘ）（「トゥーミツミツ」）も記載されており、アイヌ語での語りがわかりやすい形で掲載されている。		
	萱野茂	〔第31話〕偉いのは	萱野（1977）	262-263
	言葉遊び	「氷の上で小さな狼ころんだ」で始まる早口言葉。児童向けに編集した和訳のみが掲載されている。		
9	萱野茂	早口言葉4 偉いのは	萱野（1998f）	106-107
	言葉遊び	「コンル カ タ ポノロケウボ ハーチリ」で始まる早口言葉。45秒の口演を日本語対訳した言葉遊び。付属CDで音声も聞ける。		
9	萱野茂	早口言葉5（オキクルミカムイの犬の名前）	萱野（1998f）	108
	言葉遊び	「タラタラ クニキ／トースケボ タルケ」で始まる早口言葉。10秒の口演を日本語対訳した言葉遊び。付属CDで音声も聞ける。		

## 3-1-（21）1966（昭和41）年7月29日～8月5日

## ・一次資料（博物館・図書館等所蔵資料）のうち音声資料

No.	所蔵館 （収蔵番号）	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 （178723）	KC000101	〔口頭文芸とアイヌ語による挨拶言葉〕	（不明）	久保寺逸彦
	14分	久保寺逸彦による、口承文芸と挨拶の言葉についての調査の録音記録。平賀サダ氏は、7月29日にオйна1編の口演をしている。			
2	北海道博物館 （178772）	KC000150	平賀サタモ集	門別町 富川（沼 田旅館）	久保寺逸彦
	95分	久保寺逸彦による、口承文芸と歌についての調査の録音記録。7月31日に「ヤイサマネ」を1編、8月5日に「Kamui-Oina」1編と「Kamui-yukar」3編の口演と、歌19曲（子守歌、踊り歌、即興歌）を連続して歌っている。			

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間				
3	北海道博物館 (173572)	YC000127	[アイヌ口頭伝承]	門別町 富川(沼 田旅館)	久保寺逸彦・ 萩中美枝
	27分12秒	久保寺逸彦・萩中美枝による、口承文芸と歌についての調査の録音記録。山田秀三の旧蔵資料。平賀サダ氏は、7月31日に「yaysama」を2編、8月5日に神謡2編(折り返し句(サケヘ)はそれぞれ「orowa orowa」と「ateyatenna」)や歌を語っている。			
4	北海道博物館 (178704)	KC000082	[平賀サダ氏が創作した歌]	門別か	久保寺逸彦
	28分	久保寺逸彦による、口承文芸と歌についての調査の録音記録。久保寺逸彦の旧蔵資料。歌15曲(平賀サダ氏が創作したアイヌ語の歌「kompu satke menoko」を含む)や、神謡2編、英雄叙事詩1編(未完)をアイヌ語で口演している。YC000127と内容が酷似しているため、同日の録音(あるいは複製)だと推測した。			

・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	ページ数				
1	北海道博物館 (177772)	KD5178-1	[平賀サタモ録音文字化]	門別町 富川(沼 田旅館)	久保寺逸彦
	用箋37枚	平賀サダ氏が語った各種のアイヌ口承文芸や歌(Konpu-satke-menoko, Yaieookkayo, Iramante-okkayo)をローマ字でタイプライター印字した用箋。KC000150を文字化したもの。			
2	北海道博物館 (177864)	KD5195	Kamui-Oina Ainu-moto upashkuma	門別町 富川(沼 田旅館)	久保寺逸彦
	用箋176枚	KC000150を文字化したもの。口承文芸(オイナ)をアイヌ語のカタカナ表記を上段に、日本語訳を下段に記録。1枚目に「Kamui-Oina/Ainu-motoho upashkuma/平賀サタモ唄伝承/1967年7月/久保寺逸彦訳/1968 16/9」とある。			

3-1- (22) 1966 (昭和41) 年8月

・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間				
1	北海道博物館 (173573)	YC000128	[アイヌ口頭伝承]	門別町 富川	山田秀三
	3分14秒	平賀サダ氏による自作のアイヌ語の歌「熊狩男」(イラマンテオッカヨ)を録音したもの。山田秀三は、同じ内容の歌を複数回録音しており(YC000031やYC000187(後出 3-2- (1) 音声No.11、同No.13))、それを書き起こしてまとめてもいる(YD0619やYD1151(後出 3-2- (1) 文書No.10、同No.11))。また、同じ歌の日本語対訳が、田村(1987: 74-79)に掲載されている。			

3-1- (23) 1967 (昭和42) 年2月

・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	ページ				
1	北海道博物館 (172269)	YD0126-01	TO PIPAの神謡	門別町 富川(沼 田旅館)	山田秀三・ 萩中美枝
	全46ページ	平賀サダ氏が語った神謡「to-pipa yaieyukar」を対訳形式で記したもの。表紙に「TO PIPAの神謡/Piraka un kotan 伝承/平賀さだも 唄」と記載。なお、山田秀三は、この神謡をもとにして、コピー製本したり(YD0126-02「TO PIPAの神謡」、知里(1923)所収の「Pipa yaieyukar」の逐語訳付き対訳と合わせたセットを作ったり(YD0126-03「Pipa Yaieyukar」)などの形でまとめ直している。			

3-1- (24) 1967 (昭和42) 年6月5日

・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	ページ				
1	北海道博物館 (177824)	KD5187-2	神伝	(不明)	久保寺逸彦
	用箋27枚	平賀サダ氏が伝承するアイヌ口承文芸1編の日本語訳を記録。1枚目に「神伝一人間の起り 平賀サタモ」と記す。			

3-1- (25) 1967 (昭和42) 年7月26日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	表 書 き	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (89725)	録音テープ	I 42.7.26 富川 平賀サダ (1.2) upasikuma (釣天井)	門別町 富川	更料源蔵
	A面00'38"~ 10'01"	殺された首領たちの魂が天然痘を流行らせて和人に復讐したというウパシクマ (言い伝え) をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏による解説あり。			
	B面00'10"~9'45"	松前の殿様がいた頃、殿様の名代になったものにアイヌは酷使されていたというウパシクマ (言い伝え) についての解説。			
	B面9'45"~10'51"	物語のジャンルについての聞き取り調査。			
2	北海道博物館 (89726)	録音テープ	II 42.7.26 富川 平賀サダ ①Kamuy oyna (aynu no??toh) ②uybekere (inau)	門別町 富川	更料源蔵
	A面0'35"~11'27" B面0'00"~6'56"	カムイオйнаをアイヌ語で語っている。節なしで語った後、最初の方だけ節を付けて語る。			
	B面6'59"~11'02"	イナウにものをいう話 (散文説話) をアイヌ語で語っている。途中までであり、次のテープ (収蔵番号89728) のB面に続く。			
3	北海道博物館 (89728)	録音テープ	IV 42.7.26 富川 平賀サダ (1) upasikuma (入墨について) /uybekere (熊と日本女) (2) Kamuy yukar (owa owa)	門別町 富川	更料源蔵
	A面0'39"~3'41"	入れ墨の起源についての物語を日本語で語っている。			
	A面3'42"~8'20"	熊が自叙する話 (散文説話) をアイヌ語で語っている。			
	B面0'03"~0'54"	イナウにものをいう話 (散文説話) をアイヌ語で語っている。前のテープ (収蔵番号89726) のB面の続きだが未完。			
	B面0'55"~11'04"	イシカリの中流の長者に育てられた人が物語る話 (散文説話) をアイヌ語で語っている。			
4	北海道博物館 (89729)	録音テープ	V 42.7.26 富川 平賀サダ (1) pon isoytak (猿と雷) /Kamuy yukar (エゾコイタチと/ 炉縁魚) (2) エゾコイタチの訳/仏法僧 Kamuyyukar/upasikuma	門別町 富川	更料源蔵
	A面0'36"~8'48"	くらげ (tonnu) が骨を抜かれた理由を語る物語 (ponisoytak) をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏による解説あり。			
	A面8'49"~11'27" B面0'00"~0'38"	エゾイタチと炉縁魚の知恵くらべ (折り返し句 (サケヘ) : aw aw ruten ruten) をアイヌ語で節なしで語った後、節を入れて最初の部分のみ語る。			
	B面0'39"~7'28"	tokitto nn tokit tokitto nnという折り返し句 (サケヘ) の神話をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏による解説もある。			
	B面7'29"~10'30"	tokitto (コノハズク) のupaskumaをアイヌ語で語っている。			

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち文書資料

No.	資料名 (所蔵館)	ノート番号 (ページ数)	タイトル	採録地	教えてもらった人
	ページ	項 目 名	内 容 ・ 備 考		
1	コタン探訪帳 (弟子屈町立図書館)	No.19 (47)	富川 平賀サダ	門別町 富川	更料源蔵
	47	pon isoytak / upasikuma / uypekere	以下、すべてメモのような形		
	47	毛の多い人と少ない人			
	47	犬送り			
	47	鼠巢星			
	47	北斗七星			

3-1- (26) 1967 (昭和42) 年7月28日・29日・31日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (178713)	KC000091	[アイヌ語地名 沙流川下流1]	門別町	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか
	68分	7月28日、日高地方の沙流川下流域のアイヌ語地名について山田秀三が行った調査について、同行していた久保寺逸彦が録音した記録。主に門別町福満近辺のアイヌ語地名の位置や由来について平賀サダ氏に聞き取り調査をしている。久保寺逸彦・萩中美枝・萱野茂が同行した。内容はKC000091→KC000093→KC000092→KC000094と続く。			
2	北海道博物館 (178715)	KC000093	[アイヌ語地名 沙流川下流2]	門別町	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか
	65分	KC000091に引き続き、主に門別町福満近辺のアイヌ語地名の位置や由来について平賀サダ氏に聞き取り調査をした記録。			
3	北海道博物館 (178714)	KC000092	[アイヌ語地名 沙流川下流3]	門別町	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
3	62分	KC000093に引き続き、主に門別町平賀や富浜地区などのアイヌ語地名の位置や由来について平賀サダ氏に聞き取り調査をした記録。KC000091→KC000093→KC000092→KC000094と続く一連の調査のうち、平賀サダ氏からの聞き取りはこのテープで終わる。			
4	北海道博物館 (173446)	YC000001	[アイヌ語地名]	門別町	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか
	63分19秒	7月28日、日高地方の沙流川下流域のアイヌ語地名について山田秀三が行った調査の録音記録。山田が録音を失敗したために、同行していた久保寺逸彦による録音 (KC000091) を複製したもので、山田の旧蔵資料。調査には久保寺逸彦・萩中美枝・萱野茂が同行した。			
5	北海道博物館 (173447)	YC000002	[アイヌ語地名]	門別町	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか
	62分50秒	7月28日、日高地方の沙流川下流域のアイヌ語地名について山田秀三が行った調査の録音記録。山田が録音を失敗したために、同行していた久保寺逸彦による録音 (KC000093) を複製したもので、山田の旧蔵資料。調査には久保寺逸彦・萩中美枝・萱野茂が同行した。			
6	北海道博物館 (173448)	YC000003	[アイヌ語地名]	門別町	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか
	11分1秒	7月28日、日高地方の沙流川下流域のアイヌ語地名について山田秀三が行った調査の録音記録。山田が録音を失敗したために、同行していた久保寺逸彦による録音 (KC000091) を複製したテープの続きで、山田の旧蔵資料。調査には久保寺逸彦・萩中美枝・萱野茂が同行した。			
7	北海道博物館 (173449)	YC000004	[アイヌ語地名]	門別町	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか
	43分45秒	7月29日、日高地方の沙流川下流域のアイヌ語地名について山田秀三が行った調査の録音記録。山田が録音を失敗したために、同行していた久保寺逸彦による録音 (KC000092) を複製したもので、山田の旧蔵資料。調査には久保寺逸彦・萩中美枝・萱野茂が同行した。			
8	北海道博物館 (173450)	YC000005	[アイヌ語地名]	門別町	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか
	62分20秒	7月29日、日高地方の沙流川下流域のアイヌ語地名について山田秀三が行った調査の録音記録。山田が録音を失敗したために、同行していた久保寺逸彦による録音 (KC000092) を複製したテープの続きで、山田の旧蔵資料。調査には久保寺逸彦・萩中美枝・萱野茂が同行した。			
9	北海道博物館 (173455)	YC000010	[アイヌ語会話、アイヌ口頭伝承]	門別町	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか
	63分20秒	7月29日、山田秀三が行った調査の録音記録。内容は、アイヌ語での挨拶などの会話と、英雄叙事詩の口演。久保寺逸彦・萩中美枝・萱野茂が同行した。			
10	北海道博物館 (173575)	YC000130	[アイヌ口頭伝承]	門別町	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか
	52分51秒	7月29日、山田秀三が行った調査の録音記録。内容は、英雄叙事詩の口演。久保寺逸彦・萩中美枝・萱野茂が同行した。			
11	北海道博物館 (178717)	KC000095	[口頭文芸 門別]	門別町	久保寺逸彦
	58分	7月31日に録音された口承文芸の口演。A面は英雄叙事詩2編と散文説話1編をアイヌ語で口演。B面は鍋沢ワカルパ・平賀ヤヤシ・金成マツが語る英雄叙事詩の節回しを平賀サダ氏が真似たもののほか、散文説話1編と神謡2編をアイヌ語で口演している。			

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	ページ	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (178381)	KD5352-1	[沙流川流域の地名調査]	門別町 富川(沼田旅館)	山田秀三・ 久保寺逸彦ほか
	全254ページ	7月28日から29日にかけて、日高地方の沙流川下流域のアイヌ語地名について山田秀三が行った調査に久保寺逸彦が同行した際の手帳。白紙部分が多い。			

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人 ジャンル	表 題	出 典	掲載ページ
	内 容 ・ 備 考			
1	山田秀三	地名の中の所属形	山田 (1991)	2-3
	地名	平賀サダ氏からシノダイ崎のアイヌ語での呼び方と発音を聞いた際の考察を記しており、平賀サダ氏が山田秀三に教示した内容が反映されている (YC000004 (前出 3-1- (26) 音声No.7))。また、平賀サダ氏について「アイヌ語はしっかりしていて、あんなに安心して聞ける人はそうはいなかった」(p.3) と書かれている。なお、中川 (1991a) では、本稿に出てくる「平賀サダモ蠟のいうノトツフ」(p.35) を引いたうえで、補注を加えている。		
2	山田秀三	北海道のアイヌ地名	山田 (1969a)	79-120
	地名	「沙流川下流筋の植物地名図」として、平賀サダ氏と「一緒に歩いた上で地名の位置を記入した」として、地図と地名及びその解釈を挙げている (pp.110-113) など、平賀サダ氏が山田秀三に教示した内容が反映されている (YC000001~YC000005 (前出 3-1- (26) 音声No.4~8)、YC000007~YC000008 (後出 3-1- (29) 音声No.1~2)、YC000009 (後出 3-1- (30) 音声No.1))。		
3	山田秀三	ユックチカウシ物語	山田 (1969b)	58-61

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
3	地名	「沙流下流でユックチカウシという地名にぶつかった。初め教えてくれたのは平賀さだも媼である」(p.58)として、この地名について平賀サダ氏が山田秀三に教示した内容が反映されている (YC000001、YC000005 (前出 3-1- (26) 音声No.4、No.8))。		
4	山田秀三	鹿のいる地名(下)	山田 (1986)	152-153
	地名	アイヌ語地名に関するエッセイ。このなかで「ユックチカウシ」という地名をあげており、山田 (1969b) と同様に、この地名について「平賀さだも媼 (私の教わったアイヌ古老)」が山田秀三に教示した内容が反映されている (YC000001、YC000005 (前出 3-1- (26) 音声No.4、No.8))。		
5	山田秀三	序にかえて	扇谷・島田 (1988)	1-3
	地名	平賀サダ氏に沙流地方の地名を教わって調査した「思い出」が随筆風に紹介されている。同書に引用された山田の調査メモについて、「ノートしたのは私だが、殆んどがサダモ媼の話されたことである」とあり、平賀サダ氏が山田秀三に教示した内容が反映されている (YC000001～YC000005 (前出 3-1- (26) 音声No.4～8)、YC000007～YC000008 (後出 3-1- (29) 音声No.1～2)、YC000009 (後出 3-1- (30) 音声No.1))。		

## 3-1- (27) 1967 (昭和42) 年8月6日～7日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	ページ	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (177288)	KD5037	[英雄詞曲 Yukar 毒鉤の魔神Ⅰ]	(不明)	久保寺逸彦
	1-138	平村コタンピラが伝承する、シヌタブカで姉に養育された男が自叙する形式の英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5038に続く。1967 (昭和42) 年8月に平賀サダ氏が校訂協力したとある。			
2	北海道博物館 (177289)	KD5038	[英雄詞曲 Yukar 毒鉤の魔神Ⅱ]	(不明)	久保寺逸彦
	5-140	平村コタンピラが伝承する、シヌタブカで姉に養育された男が自叙する形式の英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5037の続きに当たる。1967 (昭和42) 年8月6日に平賀サダ氏が校訂協力したとある。			
3	北海道博物館 (177290)	KD5039	[英雄詞曲 Yukar 毒鉤の魔神Ⅲ]	(不明)	久保寺逸彦
	3-138	平村コタンピラが伝承する、シヌタブカで姉に養育された男が自叙する形式の英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5038の続きに当たる。1967 (昭和42) 年8月7日に平賀サダ氏が校訂協力したとある。			
4	北海道博物館 (177291)	KD5040	[英雄詞曲 Yukar 毒鉤の魔神Ⅳ]	(不明)	久保寺逸彦
	5-32	平村コタンピラが伝承する、シヌタブカで姉に養育された男が自叙する形式の英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5039の続きに当たる。1967 (昭和42) 年8月7日に平賀サダ氏が校訂協力したとある。			

## 3-1- (28) 1967 (昭和42) 年8月22日～23日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	ページ	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (177273)	KD5025	婦女詞曲 Menoko Yukara I	(不明)	久保寺逸彦
	83-144	平賀エテノアが伝承するシヌタブカの女の自叙するメノココカラ2編を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。83ページ以降に記載の英雄叙事詩について、平賀サダ氏が校訂協力をしている。1969 (昭和44) 年8月8日にも引き続き校訂協力。			
2	北海道博物館 (177274)	KD5026	婦女詞曲 Menoko Yukara II	(不明)	久保寺逸彦
	5-147	平賀エテノアが伝承するシヌタブカの女の自叙するメノココカラ2編を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。平賀サダ氏が8月23日に校訂協力をしている。1969 (昭和44) 年8月9日にも引き続き校訂協力。			

## 3-1- (29) 1967 (昭和42) 年9月15日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (173452)	YC000007	[アイヌ語地名、アイヌ語会話]	門別町、 平取町	山田秀三・久保寺 逸彦・萩中美枝
	94分58秒	沙流川下流域のアイヌ語地名などについて山田秀三らが行った調査の録音記録。			
2	北海道博物館 (173453)	YC000008	[アイヌ語地名、アイヌ語会話]	平取町	山田秀三・久保寺 逸彦・萩中美枝
	57分48秒	沙流川下流域のアイヌ語地名や子どもの頃の体験談などについて山田秀三らが行った調査の録音記録。			

・一次資料（博物館・図書館等所蔵資料）のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
		内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (172302)	YF0154	The 1st. MEMO 沙流	(不明)	山田秀三
	全46ページ	「42.9.15 さだもさん」とある (p.15)。以下、チノミシリ (p.17)、Pirautur (p.22)、ペンヌタブ (p.29) などの地名について教示を得たメモがある。後半には「42.10.9」に「沼田旅館」で平賀サダ氏から聞き取り調査をしている。			

3-1- (30) 1967 (昭和42) 年10月9日～10日

・一次資料（博物館・図書館等所蔵資料）のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
		内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (173454)	YC000009	[アイヌ語地名、子供の頃の体験談]	門別町、 平取町	山田秀三・久保寺 逸彦・萩中美枝
	77分29秒	10月9日に、沙流川下流域のアイヌ語地名などについて山田秀三が行った調査の録音記録。			
2	北海道博物館 (178765)	KC000143	[萩中美枝採録資料 yukar]	(不明)	萩中美枝
	96分	10月10日に行った萩中美枝による口承文芸の録音。久保寺逸彦の旧蔵資料。英雄叙事詩1編をアイヌ語で口演し、そのあらすじを語っている。			
3	北海道博物館 (173456)	YC000011	[アイヌ語会話、民族誌]	門別町	萩中美枝
	63分42秒	10月10日に行った萩中美枝によるアイヌ語会話などの録音。山田秀三の旧蔵資料。			
4	北海道博物館 (173457)	YC000012	[アイヌ口頭伝承]	門別町	萩中美枝
	92分1秒	10月10日に行った萩中美枝によるアイヌ口承文芸の録音。山田秀三の旧蔵資料。英雄叙事詩1編（天界の端で龍と戦った少年の物語で「ニタイバカイエ」というタイトルでも知られる）をアイヌ語で口演。			

・一次資料（博物館・図書館等所蔵資料）のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
		内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (172302)	YF0154	The 1st. MEMO 沙流	(不明)	山田秀三
	全46ページ	「42.9.15 さだもさん」とある (p.15)。以下、チノミシリ (p.17)、Pirautur (p.22)、ペンヌタブ (p.29) などの地名について教示を得たメモがある。後半には「42.10.9」に「沼田旅館」で平賀サダ氏から聞き取り調査をしている。			

3-1- (31) 1967 (昭和42) 年10月13日

・二次資料（刊行物）

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
		内 容 ・ 備 考		
1	萱野茂	[第4話] ホロケウ コタンコロクル (オオカミ神と村おさ)	萱野 (1998b)	58-89
	神謡	20分33秒の神謡を日本語対訳したもの。折り返し句 (サケヘ) は「オーオオーオオーオオー」。付属CDで音声も聞ける。		
2	萱野茂	第9話 ランコ・チブ アユシニ・チブ ウ・コイキ (桂の木の舟と、栓の木の舟の喧嘩)	萱野 (1974 (2005))	137-161
	散文説話	萱野茂が平賀サダ氏から録音した散文説話 (p.157)。カセットテープ (萱野 (2005) はCD) 付きで音声も聞ける。「解説」では「話し手のこと」として、平賀サダ氏についても語られている (p.158)。この物語を児童書向けにリライトしたものが、寮 (2018) に「カツラの舟とハリギリの舟」というタイトルで収録されている (pp. 5-24)。		

3-1- (32) 1968 (昭和43) 年7月30日～8月6日

・一次資料（博物館・図書館等所蔵資料）のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
		内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (178718)	KC000096	平賀サタモより録音	(不明)	久保寺逸彦
	127分	8月3日に久保寺逸彦が行った調査の録音記録。英雄叙事詩1編をアイヌ語で口演しているほか、アイヌ語による挨拶、1894 (明治27) 年3月21日の水害のこと、久保寺逸彦の半生をアイヌ語訳したものや、祈り言葉、平賀サダ氏の半生 (幼少の頃のこ、道外へ働きに行ったこと) などについて語っている。			
2	北海道博物館 (178691)	KC000069	[民俗調査 門別、平取]	門別町 富川	久保寺逸彦
	128分	8月5日に久保寺逸彦が行った、通過儀礼に関する民俗調査の録音記録。話題は、誕生 (出産、産婆、産婆の体験談、後産、へその緒、産婆)、成長 (お守り、夜泣き、くしゃみ、虫下し、遊戯)、誕生 (妊娠するまじない) など。内容はKC000069→KC000070→KC000071と続く。			

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	内 容 ・ 備 考				
3	北海道博物館 (178692)	KC000070	[民俗調査 門別]	門別町 富川	久保寺逸彦
	129分	8月5日に久保寺逸彦が行った、通過儀礼に関する民俗調査の録音記録。KC000069の続き。話題は、葬制(死に装束、下紐、墓標)、木彫りの人形について、人形が登場する口承文芸のあらすじ(日本語での語り)、成長(男子と女子の育て方、月経、肌着、下紐、入墨、装身具)、婚姻(結婚式、許婚、結納)、葬制(出棺、葬列、墓抔、埋葬、墓標)、疱瘡神の言い伝え(日本語)など。			
4	北海道博物館 (178693)	KC000071	[民俗調査 門別]	門別町 富川	久保寺逸彦
	86分	8月5日に久保寺逸彦が行った、通過儀礼に関する民俗調査の録音記録。KC000070の続き。話題は、葬制(ライチシカラ、出棺、服喪、家送り、供養、死後の世界)など。			

## ・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	内 容 ・ 備 考				
1	北海道博物館 (177354)	KD5089	ユカラ Yukara 英雄詞曲 “kutne shirika” Vol.1	(不明)	久保寺逸彦
	144ページ	平賀エテノアが伝承する英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5090に続く。1968(昭和43)年7月30日～31日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
2	北海道博物館 (177355)	KD5090	ユカラ 英雄詞曲 Yukar : an ainu epic. “kutune shirika” Vol.2	(不明)	久保寺逸彦
	152ページ	平賀エテノアが伝承する英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5089の続き。1968(昭和43)年8月1日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
3	北海道博物館 (177356)	KD5091	ユカラ 英雄詞曲 Yukar : an ainu epic “kutune shirika” Vol.3	(不明)	久保寺逸彦
	144ページ	平賀エテノアが伝承する英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5090の続き。1968(昭和43)年8月1日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
4	北海道博物館 (177357)	KD5092	ユカラ 英雄詞曲 Yukar : an ainu epic “kutune shirika” Vol.4	(不明)	久保寺逸彦
	142ページ	平賀エテノアが伝承する英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5091の続き。1968(昭和43)年8月1日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
5	北海道博物館 (177358)	KD5093	ユカラ 英雄詞曲 Yukar an ainu epic “kutu-ne Shirka” Vol.5	(不明)	久保寺逸彦
	132ページ	平賀エテノアが伝承する英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5092の続き。1968(昭和43)年8月1日に平賀サダ氏が校訂協力している。			

## 3-1- (33) 1968 (昭和43) 年8月17日

## ・二次資料(刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	内 容 ・ 備 考			
1	田村すず子	子守歌「おまえは聞きたくて泣いているんだから (enu rusuy kus ecis pe ne kus)」	田村 (1987)	97-102
	子守歌	「おまえは聞きたくて泣いているんだから」と「おまえの父さん」のことを歌詞で物語る形式の子守歌。同書には、門別町郷土史研究会(1966)所収のNo.178の子守歌と同じく平賀サダ氏による語りで、「語句が多少違うが、ふしも内容も同じ」(p.101)とある。		

## 3-1- (34) 1968 (昭和43) 年10月6日

## ・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	タイトル	採録地	教えてもらった人
	内 容 ・ 備 考				
1	北海道博物館 (172422)	YM0258	the SAR MAPS	(不明)	山田秀三
	—	山田秀三による地名調査ファイルのうちの1冊。「pera ni ナラ/tun ni カシワ」などアイヌ語での植物名をメモしたページのなかに、「平賀さだもさん/昭和43.10.6/自動車の中で」という書きこみがある (p.13)。			

## ・二次資料(刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	内 容 ・ 備 考			
1	山田秀三	金田一先生と約束した一つの原稿	山田 (1980)	12
	語彙	平賀サダ氏から山田秀三が「樹名を一つ一つ訳して貰った」などの調査協力を得た旨が記述されており、上記のYM0258を反映していると考えられる。また、本文中では、平賀サダ氏のことを、沙流川河口の「附近で一番アイヌ語の詳しい平賀さだも嬢」「彼女は何でも正確な人なので信頼できる」と紹介している。		

3-1- (35) 1968 (昭和43) 年10月18日～19日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	内 容 ・ 備 考				
1	北海道博物館 (178721)	KC000099	[口頭文芸 門別/座り方の撮影の様子]	登別	久保寺逸彦
	84分	10月18日に久保寺逸彦が行った、芸能やアイヌ語の日常会話についての調査の録音記録。平賀サダ氏は歌1編の口演と、アイヌ語の日常会話を語っている。			

3-1- (36) 1969 (昭和44) 年1月5日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	内 容 ・ 備 考				
1	北海道博物館 (173467)	YC000022	[子供の頃の体験談]	門別町	萩中美枝
	63分27秒	萩中美枝による調査の録音記録。山田秀三の旧蔵資料。内容は、平賀サダ氏がアイヌ語で自分の半生を語ったもの。			

3-1- (37) 1969 (昭和44) 年1月12日～14日

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	(不明)	第5話 オロフ オロフ	アイヌ無形文化伝承保存会 (1985)	177-190
	神謡	神々の名を神謡の形式で羅列的にあげたもの。解題によると、このときに「私の一代記」などもあわせて聞いている。出典において訳注を担当したのは切替英雄だが、採録者については記述が見られないため、調査の詳細については不明。		

3-1- (38) 1969 (昭和44) 年2月2日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	タイトル	採録地	教えてもらった人
	ページ	項 目 名		内 容 ・ 備 考	
1	北海道博物館 (172353)	YF0197	KAMUY YUKAR	門別町 富川(沼 田旅館)	山田秀三
	全50ページ	山田秀三の調査ファイルのうちの1冊。平賀サダ氏から「To-pipa yaieyukar」という神謡を聞き取った記録。			
2	北海道博物館 (172428)	YD0264	MANUSCRIPT [神謡「to pipa yaieyukar」関係]	-	山田秀三・ 萩中美枝
	-	平賀サダ氏から聞き取った「To pipa Yaieyukar」のテキストと対訳及び関係資料 (知里 (1923) を含めた類話のコピー) などをまとめたもの。			

3-1- (39) 1969 (昭和44) 年2月16日～17日

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	萱野茂	7-2 ウエベケレ「ケソラプ カムイ イレス」(孔雀の神に育てられた)	千葉大学 (2015)	528-590
	散文説話	三人兄弟の末の弟が自叙する散文説話。三人兄弟が熊やアラサルシなどを退治するが、最後に長兄が実はケソラプの神で、夜盗に襲われて孤児になった兄弟2人を哀れに思って大人になるまで育てたことがわかったという内容の物語。		
2	萱野茂	7-3 ウエベケレ「ケソラプ カムイ イレス」(孔雀の神に育てられた) 解説	千葉大学 (2015)	591-597
	解説	表題の散文説話について、萱野茂があらすじを日本語で語り、平賀サダ氏が補足説明をしている。		
3	萱野茂	8-2 カムイユカラ「トピパカムイ ヤイエユカラ (ヘウルル)」(沼貝の神が自ら物語る)	千葉大学 (2015)	599-626
	神謡	住処の沼が乾いて困った沼貝が自叙する神謡。「ヘウルル」は折り返し句 (サケヘ)。1人目に通りかかった女は沼貝を見捨てるが、2人目の女が沢へ放したところ、沢いっぱい貝が増えて身も厚くなり、貝を穂ちぎりに使うようになったという内容の物語。		
4	萱野茂	8-3 カムイユカラ「トピパカムイ ヤイエユカラ (ヘウルル)」(沼貝の神が自ら物語る) 解説	千葉大学 (2015)	627-628
	解説	表題の神謡について、萱野茂があらすじを日本語で語り、平賀サダ氏が補足説明をしている。		
5	萱野茂	8-4 カムイユカラ「チュボルンクル (サントソワソ)」(月の中の人)	千葉大学 (2015)	629-637
	神謡	月の模様の由来譚。「サントソワソ」は折り返し句 (サケヘ)。水を汲むのを面倒くさがった男の子を探すうちに、怠けた罰で月の中に立つことになったことがわかったという内容の物語。		
6	萱野茂	8-5 カムイユカラ「チュボルンクル (サントソワソ)」(月の中の人) (解説)	千葉大学 (2015)	638-640

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
6	解説	表題の神謡について、萱野茂があらすじを日本語で語り、平賀サダ氏が補足説明をしている。		
7	萱野茂	8-6 カムイユカラ「ミントウチカムイ イケスイモトホ (ヘムノエ)」(河童が去ったわけ)	千葉大学 (2015)	641-675
	神謡	十勝川の河口にある村の村長の娘に惚れたミントウチが退治されて静内川に暮らすようになったという内容の物語。「ヘムノエ」は折り返し句 (サケヘ)。		
8	萱野茂	8-7 カムイユカラ「ミントウチカムイ イケスイモトホ (ヘムノエ)」(河童が去ったわけ) 解説	千葉大学 (2015)	676-678
	解説	表題の神謡について、萱野茂があらすじを日本語で語り、平賀サダ氏が補足説明をしている。		
9	萱野茂	8-8 パナンペペナンペ「アッケテク ホプニ」(帆立貝、飛んだ)	千葉大学 (2015)	681-686
	散文説話	パナンペペナンペ譚のひとつ。空飛ぶホタテでクジラの肉を運んで裕福になった男と、その真似をして失敗した男の物語。		
10	萱野茂	8-9 パナンペペナンペ「アッケテク ホプニ」(帆立貝、飛んだ) 解説	千葉大学 (2015)	687-688
	解説	表題の散文説話について、萱野茂があらすじを日本語で語り、平賀サダ氏が補足説明をしている。		
11	萱野茂	8-10 パナンペペナンペ (パナンペの魚釣り)	千葉大学 (2015)	689-692
	散文説話	パナンペペナンペ譚のひとつで、「尻尾の釣り」型の内容。		
12	萱野茂	8-11 パナンペペナンペ (パナンペの魚釣り) 解説	千葉大学 (2015)	693-694
	解説	表題の散文説話について、萱野茂があらすじを日本語で語り、平賀サダ氏が補足説明をしている。		
13	萱野茂	9-2 ユカラ「サクソモアイエブ」(1) (サクソモアイエブ退治 (1))	千葉大学 (2015)	697-736 737-769 770-792 796-826
		9-3 ユカラ「サクソモアイエブ」(2) (サクソモアイエブ退治 (2))		
14	萱野茂	9-4 ユカラ「サクソモアイエブ」(3) (サクソモアイエブ退治 (3))	千葉大学 (2015)	793-795
		9-6 ユカラ「サクソモアイエブ」(4) (サクソモアイエブ退治 (4))		
	英雄叙事詩	ポイヤウンベが自叙する英雄叙事詩。サクソモアイエブという大蛇のような化け物に襲われている人たちを助けることから物語が始まる。最後の部分は途中でテープが切れている。		
14	萱野茂	9-5 会話	千葉大学 (2015)	793-795
	会話	本書における注には「録音現場に同席していた人たちによる会話のようである」とある。		
15	萱野茂	10-1 ウエベケレ「オタサムン カムイ ヘカッタラ」(オタサムのカムイの子ども達)	千葉大学 (2015)	835-875
	散文説話	オタサムに暮らす兄弟のうちの弟が自叙する散文説話。石狩川中流の村を訪れて鹿追い猟を見せてもらったときに鹿の腹から小男が出てくるが、兄が祭って事なきを得たという内容の物語。		
16	萱野茂	10-2 日付紹介 ウエベケレ「オタサムン カムイ ヘカッタラ」解説	千葉大学 (2015)	876-880
	解説	表題の散文説話について、萱野茂があらすじを日本語で語り、平賀サダ氏が補足説明をしている。		
17	萱野茂	10-3 「ウラユシウングル」(ウラユシの人)	千葉大学 (2015)	881-954
	散文説話	11-1 「ウラユシウングル」(ウラユシの人) (続き) 石狩川中流の首領が自叙する散文説話。主人公と一緒に和人のところに交易に行ったウラユシウングルが妻に殺されると、ウラユシウングルの実の親である伝染病の神のために村が全滅したという内容の物語。		
18	萱野茂	11-2 「シリマオツテ」(シリマオツテ)	千葉大学 (2015)	955-978
	散文説話	この散文説話の異伝 (ヴァリエント) が萱野 (1979 (1993) :194-224) に収められている。また、この物語を児童書向けにリライトしたものが、寮 (2017) に「狐にされた性悪男」として収録されている (pp. 13-34)。		
19	萱野茂	11-3 ウエベケレ「ウラユシウングル」、ウエベケレ「シリマオツテ」まとめて解説	千葉大学 (2015)	979-981
	解説	表題の散文説話について、萱野茂があらすじを日本語で語り、平賀サダ氏が補足説明をしている。		
20	萱野茂	11-4 ウエベケレ「ユベッコントムンクル」(湧別の中流の人)	千葉大学 (2015)	982-1004
	散文説話	湧別の中流の人が自叙する散文説話。山の狩り小屋で泊まっていると熊に襲われそうになるが、狩り小屋のそばにいる蛇の神に助けられたという内容の物語。		
21	萱野茂	11-5 ウエベケレ「ユベッコントムンクル」解説	千葉大学 (2015)	1005-1008
	解説	表題の散文説話について、萱野茂があらすじを日本語で語り、平賀サダ氏が補足説明をしている。		
22	萱野茂	11-6 ユカラ「アベサクスクブ ワッカサクスクブ」(火なしに育った、水なしに育った)	千葉大学 (2015)	1009-1023
		12-2 ユカラ「アベサクスクブ ワッカサクスクブ」(火なしに育った、水なしに育った) (続き)		1026-1071
		12-3 ユカラ「アベサクスクブ ワッカサクスクブ」ポイヤウンベ イソイタク (火なしに育った、水なしに育った)		1072-1142
		12-4 ユカラ「アベサクスクブ ワッカサクスクブ」ポイヤウンベ イソイタク (火なしに育った、水なしに育った) (途中切れ)		1143-1152
		13-2 ユカラ「アベサクスクブ ワッカサクスクブ」(火なしに育った、水なしに育った)		1154-1195
		13-4 ユカラ「アベサクスクブ ワッカサクスクブ」(火なしに育った、水なしに育った)		1196-1258
		13-5 ユカラ「アベサクスクブ ワッカサクスクブ」(火なしに育った、水なしに育った) (途中でテープ切れ終了)		1259-1272

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
22	英雄叙事詩	イヨチウンマツが自叙する英雄叙事詩。イヨチウンマツが自分の許嫁であるシヌタブカウソウの危機に駆けつけるところから物語が始まる。11番のオープンリールテープから13番のオープンリールテープにかけて、途中中断はさみながら、テープをまたいで口演・録音がなされている。最後は途中までで切れているようである。		

3-1- (40) 1969 (昭和44) 年2月25日～3月2日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (178722)	KC000100	[金田一京助へ感謝の言葉と歌]	(不明)	久保寺逸彦
	16分	2月25日に行われた、久保寺逸彦による調査の録音記録。平賀サダ氏が金田一京助に対する感謝の気持ちをアイヌ語で述べた後、その気持ちを歌った即興歌 (ヤイサマ) を採録。			

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化研究センター番号	タイトル	採録地	教えてもらった人
	ページ	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (177366)	KD5101	英雄詞曲 Syushpetunkur Yukar Vol. 1	門別町	久保寺逸彦
	5-144	平賀エテノアが伝承する英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5102に続く。1969 (昭和44) 年2月25日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
2	北海道博物館 (177367)	KD5102	英雄詞曲 Yukara Vol. 2	門別町	久保寺逸彦
	5-142	平賀エテノアが伝承する英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5101の続き。1969 (昭和44) 年2月26日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
3	北海道博物館 (177368)	KD5103	英雄詞曲 Yukara Vol. 3	門別町	久保寺逸彦
	5-65	平賀エテノアが伝承する英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5102の続き。1969 (昭和44) 年2月26日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
4	北海道博物館 (177369)	KD5104	英雄詞曲 Poiyaampe akuchikare I	門別町	久保寺逸彦
	5-144	平賀エテノアが伝承する英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。1969 (昭和44) 年2月27日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
5	北海道博物館 (177370)	KD5105	英雄詞曲 Yukar Poiyaampe akuchikare 2	門別町	久保寺逸彦
	5-82	平賀エテノアが伝承する英雄叙事詩を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5104の続き。1969 (昭和44) 年2月27日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
6	北海道博物館 (177359)	KD5094	[英雄詞曲 Kutne sirika 1]	門別町	久保寺逸彦
	75-110	貝沢清太郎が伝承する英雄叙事詩1編と、平賀ヤヤシが伝承する英雄叙事詩「クッネシリカ」の語り始め部分を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。「クッネシリカ」については、1969 (昭和44) 年2月28日に平賀サダ氏が校訂協力したとある。			
7	北海道博物館 (177360)	KD5095	[英雄詞曲 Kutne sirika 2]	門別町	久保寺逸彦
	3-112	平賀ヤヤシが伝承する英雄叙事詩「クッネシリカ」を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5094の続き。1969 (昭和44) 年3月1日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
8	北海道博物館 (177361)	KD5096	[英雄詞曲 Kutne sirika 3]	門別町	久保寺逸彦
	3-114	平賀ヤヤシが伝承する英雄叙事詩「クッネシリカ」を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5095の続き。1969 (昭和44) 年3月2日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
9	北海道博物館 (177362)	KD5097	英雄詞曲 kutune shirika 4	門別町	久保寺逸彦
	1-116	平賀ヤヤシが伝承する英雄叙事詩「クッネシリカ」を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5096の続き。1969 (昭和44) 年3月2日に平賀サダ氏が校訂協力している。			
10	北海道博物館 (177865)	KD5196	アイヌ語口語資料	門別町	久保寺逸彦
	-	日常会話のアイヌ語とその日本語訳、金田一京助に対する感謝の気持ちを平賀サダ氏がアイヌ語で話したものを、久保寺逸彦が記録したもの。表紙には「アイヌ語/口語資料/1947.8.4」と記されているが、金田一についてのアイヌ語作文などは1969 (昭和44) 年2月25日の録音記録 (KC000100) と同内容。			

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	久保寺逸彦	久保寺逸彦ノート「KUTUNE SHIRKA」	北海道教育庁社会教育部/生涯学習部 文化課 (1987-1991)	-

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	散文説話	久保寺逸彦が採録した平賀ヤヤシによる英雄叙事詩「kutune shirka」を翻刻・訳注したもの。「久保寺ノート「KUTUNE SHIRKA」について (2)」という、萩中美枝による解題のなかで、久保寺が平賀サダ氏に校訂協力のために「確かめに行った」(1988: 3) ことについて触られている。		

## 3-1- (41) 1969 (昭和44) 年4月4日～6日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考		
1	北海道博物館 (182617)	T1 富川 Tomikawa 3/4 (51,52)	門別町 富川	Kirsten Refsing・ 村崎恭子
	A面 0'00"～47'15"	アイヌ語の日常会話文など。 調査者が日本語の例文を言い、平賀サダ氏がアイヌ語での語りを教えるかたちのやりとりが中心。		
	B面 0'00"～35'55"	アイヌ語の日常会話文など。 調査者が日本語の例文を言い、平賀サダ氏がアイヌ語での語りを教えるかたちのやりとりが中心。 これまで平賀サダ氏を訪れた研究者に関する話題も含まれる。		
2	北海道博物館 (182618)	T2 富川 Tomikawa 5/4 (52,53)	門別町 富川	Kirsten Refsing
	A面 3'46"～41'16"	キツネが主人公の神謡の口演とその日本語訳など。神謡の折り返し句 (サケヘ) は「パウ チョワ チョバ フンフム」。 孔雀の神に助けられた男が主人公の散文説話。 その他、「面白い kirroan」などいくつかのアイヌ語のことなど。		
	B面 0'15"～13'21"	孔雀の神に助けられた男が主人公の散文説話 (A面で収録されている物語の続き) とその日本語訳など。		
3	北海道博物館 (182619)	T3 富川 Tomikawa 6/4 1969 (54,55)	門別町 富川	Kirsten Refsing
	A面 0'00"～41'40"	アイヌ語の日常会話文について。調査者が日本語の例文を言い、平賀サダ氏がアイヌ語で答えるというかたちで進められている。 人間の起源についてのカムイオイナとこの物語に関する説明。 平賀サダ氏による即興詩とこの歌に関する説明。		
	B面 0'05"～41'13"	アイヌ語の日常会話文について。調査者が日本語の例文を言い、平賀サダ氏がアイヌ語で答えるというかたちで進められている。 英雄叙事詩「スマサムピウカ」の口演 (途中まで) その他、いくつかの語のアイヌ語での表現に関するやりとりなど。		
4	北海道博物館 (182620)	T4 富川 Tomikawa 7/4-69 (55,56)	門別町 富川	Kirsten Refsing
	A面 0'00"～46'29"	ピヤパ piyapa で造った酒や食事、タバコなどについて。 英雄叙事詩「スマサムピウカ」の口演 (途中から)。 物語の中に出てきたアイヌ語の表現についての解説やその他のアイヌ語についての談話なども含む。		
	B面 0'30"～46'57"	英雄叙事詩「スマサムピウカ」の口演 (続き)。		
5	北海道博物館 (182621)	T5 1969 7/4 富川 Tomikawa 二風谷 Nibutani (56,61)	門別町 富川	Kirsten Refsing
	A面 0'00"～7'47"	英雄叙事詩「スマサムピウカ」の口演 (続き)。最後まで語り終える。		
6	北海道博物館 (182622)	T6 富川 Tomikawa 8/4-69 (57)	門別町 富川	Kirsten Refsing
	A面 0'09"～31'28"	平賀サダ氏による自分の半生についての談話。地域によるアイヌ語の違いなどにも触れる。 英雄叙事詩「スマサムピウカ」について。アイヌ語で一節を語り、その日本語訳などを説明するというかたちでやりとりが進む。		
	B面 0'00"～25'40"	英雄叙事詩「スマサムピウカ」について。アイヌ語で一節を語り、その日本語訳などを説明するというかたちでやりとりが進む。 平賀サダ氏による自身の体験談 (登別で働いていたときのことなど)。		
7	北海道博物館 (182623)	T7 富川 Tomikawa 8/4-1969 (57,58)	門別町 富川	Kirsten Refsing
	A面 0'43"～31'22" B面 0'04"～7'26"	英雄叙事詩「スマサムピウカ」について。アイヌ語で一節を語り、その日本語訳などを説明するというかたちでやりとりが進む。		
8	北海道博物館 (182624)	T8 富川 Tomikawa 9/4-1969 (58,59)	門別町 富川	Kirsten Refsing
	A面 0'05"～31'23" B面 0'26"～31'25"	工業品や外来語 (列車、テレビ、ラジオ、ライオン等) などの「新しい言葉」のアイヌ語での表現についてのやりとり。 その他、平賀サダ氏の体験談や「夢」「手相」など様々な話題での談話が含まれる。		
9	北海道博物館 (182625)	T9 富川 Tomikawa 9/4-1969 (59,60)	門別町 富川	Kirsten Refsing
	A面 0'00"～26'40"	ウバシチロンヌブが自叙する神謡 (折り返し句: テンル テンル) の口演。 イヨハイオチシの口演 (3曲) と、口演した歌それぞれについての説明。 その他、「手相」「ウバシチロンヌブ」などに関する談話、平賀サダ氏の体験談など。		

No.	所蔵館 (収蔵番号)	資料名	採録地	教えてもらった人
時間		内 容 ・ 備 考		
9	B面 0'00"~31'14"	パナンペパナンペの散文説話2編など散文説話3編の口演のとそれぞれの物語についての解説（3編めの解説は途中まで）。 その他、義経伝説、トパットゥミ、アエオイナカムイなどに関する談話など。		
10	北海道博物館 (182626)	T10 富川 Tomikawa 9/4 -69 (60,67) X2 1969.4.12 二風谷 Nibutani	門別町 富川	Kirsten Refsing、 浅井亨
	A面 0'28"~25'51"	「T9」のB面で途中までになっている散文説話の日本語解説の続き。 英雄叙事詩について。自分が見聞きしてきたこと、自分が知っている語り手の語り方のことなど。		
	B面 0'00"~9'06"	工業品や外来語（飛行機、テレビ、電話など）のアイヌ語での表現について。 即興歌（3曲）の口演とその歌についての解説など。		

## 3-1- (42) 1969 (昭和44) 年8月8日～11日・15日

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	内 容 ・ 備 考				
1	北海道博物館 (178635)	KC000013	[民俗調査 門別、平取]	平取町 去場	久保寺逸彦
	121分	8月11日に久保寺逸彦が行った、口承文芸と通過儀礼などについての調査の録音記録。鍋沢ネブキと平賀サダ氏によるアイヌ語会話のほか、出産や成長に関わることや婚姻について語っている。			
2	北海道博物館 (178657)	KC000035	[民俗調査 門別、平取]	平取町 去場	久保寺逸彦
	115分	8月11日に久保寺逸彦が行った、通過儀礼に関する民俗調査の録音記録。話題は、葬制 (死装束、魂、供養、死に装束、墓標、告辞、出棺、葬列、副葬品、ライチシカラ、墓掘、埋葬、服喪、家送り、変死、供養) や、クマに襲われて怪我をした人のこと、死後の世界を行き来した人のことなど。			
3	北海道博物館 (178641)	KC000019	平賀サタモ (口語)	(不明)	久保寺逸彦
	100分	8月15日に久保寺逸彦が行った、アイヌ語の聞き取り調査の録音記録。話題は、現代生活で用いる日常会話や単語について、時刻表現、イナゴ、イヌ、居眠り、お祈り、バラ、歩き方、男、家屋の部位名称、数量の尋ね方、泉や池に関する表現など。			

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち文書資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	内 容 ・ 備 考				
1	北海道博物館 (177273)	KD5025	婦女詞曲 Menoko Yukara I	門別町 富川	久保寺逸彦
	83-144	平賀エテノアが伝承するシヌタプカの女の自叙するメノコユカラ2編を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。83ページ以降に記載の英雄叙事詩について、平賀サダ氏が1967 (昭和42) 年8月に引き続き、8月8日に校訂協力をしている。			
2	北海道博物館 (177274)	KD5026	婦女詞曲 Menoko Yukara II	門別町 富川	久保寺逸彦
	5-147	平賀エテノアが伝承するシヌタプカの女の自叙するメノコユカラ2編を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。平賀サダ氏が8月9日に校訂協力をしている。			
3	北海道博物館 (177275)	KD5027	婦女詞曲 Menoko Yukara III	門別町 富川	久保寺逸彦
	5-147	平賀エテノアが伝承するシヌタプカの女の自叙するメノコユカラ1編を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録したもの。KD5026に引き続き、平賀サダ氏が8月10日に校訂協力をしている。			

## 3-1- (43) 1969 (昭和44) 年8月25日

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	内 容 ・ 備 考			
1	田村すず子	小ザルが一匹 (POYSARO SINEP)	田村 (1986)	28-31
	散文説話	日本昔話の「クラゲ骨なし」と同じタイプの散文説話。カセットテープが付属しており、音声も聞ける。(この音声は早稲田大学レポジトリのホームページよりダウンロードもできる) また、この物語は村崎 (1993) に再録されている。		

## 3-1- (44) 1970 (昭和45) 年 (月日不明)

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	内 容 ・ 備 考			
1	浅井亨	ペナンベとペナンベの魚とり	浅井・稲田 (1972)	145-147
	散文説話	昭和45年に浅井亨が聞き取りをした物語。和訳のみが掲載されている。「解説」に平賀サダ氏 (日高・平取町) による語りである旨が記載されている (p.267)。		

## 3-1- (45) 1971 (昭和46) 年1月か

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	内 容 ・ 備 考				
1	北海道博物館 (173479)	YC000034	[アイヌ語地名]	門別町 富川/ 上野病 院か	萩中美枝・男性 (河 野本道か)
	32分	萩中美枝による採録資料。平賀サダ氏より、鶴川町旭岡から鶴川上流域の地名のほか、沙流川や糠平川流域の地名、サクコタンなどの地名語の意味について聞き取りした記録。この資料には採録地に関する記録はないが、背後の音などから、平賀サダ氏が入院していた病院の部屋での録音ではないかと思われる。なお、北海道立アイヌ民族文化研究センター (1997: 21) には、本資料は「男性」への聞き取り調査とあるが、正しくは平賀サダ氏。			

3-1- (46) 1971 (昭和46) 年 (月日不明)

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	ジャンル	内 容 ・ 備 考		
1	田村すず子	口承文芸解説	田村 (1985)	(全体)
	口承文芸解説	鳩沢ふじの (ワテケ) の語りによる口承文芸テキストについて、平賀サダ氏に「音声や解釈の問題点を、たくさんの時間をかけて質問し、これを解明していただいた。その後も数年にわたって補足調査を行い、細かい点を修正、確認してきた」とある。		

3-2 その他

3-2- (1) 年月日不明のもの

〈凡例及び注〉

- ・平賀サダ氏について言及された図書、論文、記事等を掲載した。
- ・雑誌、新聞のコーナータイトルは、[ ] で括弧して示した。
- ・掲載は一次資料 (音声資料・文書資料) については「教えてもらった人」の50音順・収蔵番号順とし、二次資料 (公刊本) については初出が古い順とした。

・一次資料 (博物館・図書館等所蔵資料) のうち音声資料

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (178702)	KC000080	平賀サタモ 会話	門別か	久保寺逸彦
	130分	久保寺逸彦が行った調査の録音記録。神保・金沢 (1898) に記された単語や文例を基にして、アイヌ語による日常会話表現を聞き取りしたもの。			
2	北海道博物館 (178634)	KC000012	[歌謡 平賀サダ]	門別か	久保寺逸彦
	127分	久保寺逸彦が行った、歌や踊りについての調査の録音記録。旭川、白老、鶴川、平取、門別の各地域に伝わる歌や踊りについて、平賀サダ氏が歌を交えながら解説している。			
3	北海道博物館 (178719)	KC000097	[歌謡 平賀サダ]	門別か	久保寺逸彦
	8分	久保寺逸彦が行った調査の録音記録。歌について、平賀サダ氏が自分の境遇をアイヌ語で歌った即興歌1曲と解説。歌の中で久保寺逸彦に対する感謝の気持ちを述べている。			
4	北海道博物館 (178720)	KC000098	[口頭文芸 門別]	門別か	久保寺逸彦
	9分	久保寺逸彦が行った調査の録音記録。集落のリーダーがクマ送りの準備のため酒や木幣を作らせるという内容の散文説話1編をアイヌ語で口演。			
5	北海道博物館 (178708)	KC000086	[口頭文芸 門別]	門別か	久保寺逸彦
	78分	久保寺逸彦が行った調査の録音記録。神謡3編 (約4分、約6分、約3分) をアイヌ語で口演。このうち1編は久保寺逸彦の要請で散文調で語っている。			
6	北海道博物館 (178630)	KC000008	[平賀サダが創作した歌]	門別か	久保寺逸彦
	9分	久保寺逸彦が行った、歌謡の聞き取り調査の録音記録。平賀サダ氏自身が創作した「昆布干し女」「ニシン場の男」「コタンのクマ狩り」の3編で、それぞれアイヌ語で歌った後にその日本語訳を歌う。			

No.	所蔵館 (収蔵番号)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	資料名	採録地	教えてもらった人
	時間	内 容 ・ 備 考			
7	北海道博物館 (178743)	KC000121	アイヌ文学講演用	(不明)	久保寺逸彦
	14'44"~16'21"	アイヌの口承文芸、歌謡、楽器演奏、祈り言葉など24種類が断片的に録音されている。このなかに、平賀サダ氏による英雄叙事詩の語りも含まれる。箱書きなどから久保寺逸彦が自身の講演の資料として用いるために複写したものと考えられ、それぞれの口演自体は久保寺による調査の記録ではない可能性もある。			
8	北海道博物館 (89730)	—	録音テープ	—	更料源蔵
	A面0'37"~2'53"	ヒバリの聞きなしをアイヌ語で語っている。			
	B面0'07"~4'06"	怠けもので手癖の悪い者が星にされる話をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏による日本語解説もある。			
	B面4'07"~9'12"	月の中の子どもの神謡(折り返し句(サケヘ):サンタ ソワ ソ)をアイヌ語で語っている。平賀サダ氏による日本語解説もある。			
	B面9'13"~9'51"	「コンル カ タ ハチリ」で始まる早口言葉をアイヌ語で語っている。			
9	北海道立図書館 (T/Hi/O-3、 T/Hi/O-3-4)	—	平賀サダモ [録音資料]	(不明)	原田重夫
	55分	原田重夫・収録、平賀サダ氏・語りによる1969年録音の資料。内容は、「浜のコンプ干し女」、「ニシン場のやというり男」、「コタンのクマ狩り男」という即興歌のほか、「ユーカラの一部」の口演。			
10	北海道博物館 (173461)	YC000016	[アイヌ口頭伝承、ムックリ、トンコリ]	北海道	山田秀三
	26分22秒	アイヌ口承文芸や楽器(ムックリやトンコリ)の録音のなかに、平賀サダ氏による英雄叙事詩の録音(部分)が含まれている。この口演については「萱野(茂)さん録音」と紹介されていることから、山田秀三自身による聞き取り調査ではなく、複数の研究者・調査者による録音資料を編集したものであることがわかる。			
11	北海道博物館 (173476)	YC000031	[アイヌ口頭伝承、日本民謡]	小樽市	山田秀三
	10分35秒	平賀サダ氏による自作のアイヌ語の歌「俺はコタンの熊狩り男(イラマンテオッカヨ)の録音が含まれる。山田秀三は、同じ内容の歌を複数回録音しており(YC000128やYC000031(前出 3-1- (22))及びYC000187)、それを書き起こしてまとめている(YD0619、YD1151(後出 3-2- (1) 文書No.10、同No.11))。また、同じ歌の日本語対訳が、田村(1987: 74-79)に掲載されている。			
12	北海道博物館 (173639)	YC000194	[アイヌ語会話]	(不明)	山田秀三
	2分	平賀サダ氏による、祈り言葉(部分)が録音されている。録音内容から、YC000108(前出 3-1- (16))及びYC000135(後出 No.14)と一連の資料ではないかと推測される。			
13	北海道博物館 (173632)	YC000187	[アイヌ口頭伝承]	門別町	山田秀三
	11分	平賀サダ氏による自作のアイヌ語の歌「イラマンテオッカヨ」を録音したもの。山田秀三は、同じ内容の歌を複数回録音しており(YC000128やYC000031(前出 3-1- (22)、3-2- (1) 音声No.11))、それを書き起こしてまとめている(YD0619やYD1151(後出 3-2- (1) 文書No.10、同No.11))。また、同じ歌の日本語対訳が、田村(1987: 74-79)に掲載されている。			
14	北海道博物館 (173580)	YC000135	[アイヌ語日常会話]	門別町	山田秀三・久保寺逸彦
	14分35秒	物語に出てくる男性同士の挨拶の仕方について、平賀サダ氏がアイヌ語で語る。録音内容から、YC000108(前出 3-1- (16))及びYC000194(前出 No.12)と一連の資料ではないかと推測される。			
15	北海道博物館 (178711)	KC000089	ふるさとと心「アイヌ・ユーカラ」	—	—
	28分	1971(昭和46)年3月放送のラジオ番組(NHK第一「ふるさとと心「アイヌ・ユーカラ」」の再放送。本放送は1月14日)を録音したもので、久保寺逸彦の旧蔵の資料。口承文芸を伝承してきたアイヌの現状についての番組。出演者のひとりとして平賀サダ氏がいる。			
16	北海道博物館 (178741)	KC000119	[口頭文芸と『ユーカラの世界 第1部』]	—	—
	27分	口承文芸の録音テープや市販品を複写したもので、久保寺逸彦の旧蔵資料。NHK放送文化財ライブラリー(1963)の一部を複写したなかに、平賀サダ氏による英雄叙事詩の語り(部分)が含まれている。			

## ・一次資料(博物館・図書館等所蔵資料)のうち文書資料

No.	資料名 (所蔵館)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	タイトル	採録地	教えてもらった人
	ページ	内 容 ・ 備 考			
1	北海道博物館 (178097)	KD5219-03	[メモ・ヤマ山に雨を降らす神]	(不明)	久保寺逸彦
	—	久保寺逸彦が聞き取り内容をメモした手帳の紙片1枚。「荷葉の向側/ヤマ山に雨を降らす神/Yame un hekattar/あり。(サタモ談)」というメモ内容。			
2	北海道博物館 (177385)	KD5118	英雄詞曲 Hau no.1	(不明)	久保寺逸彦
	—	平賀エテノアが伝承するポイヤウンベの従兄弟といわれるオタサムンクルが自叙する形式の口承文芸1編を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記載。日本語訳少し。平賀サダ氏が校訂協力している。			
3	北海道博物館 (177386)	KD5119	Hau 英雄詞曲	(不明)	久保寺逸彦
	—	平賀エテノアが伝承する口承文芸1編を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録。平賀サダ氏が校訂協力している。			

No.	資料名 (所蔵館)	旧道立アイヌ民族文化 研究センター番号	タイトル	採録地	教えてもらった人
	内 容 ・ 備 考				
4	北海道博物館 (177387)	KD5120	英雄詞曲 “toittoi ainu toittoi hayokpe”VI	(不明)	久保寺逸彦
	—	平賀エテノアが伝承する口承文芸1編を、久保寺逸彦がアイヌ語ローマ字表記で記録。日本語訳少し。平賀サタモ氏が校訂協力している。			
5	The University of Chicago	—	Ainu: Field recordings from Hokkaido	富川	Eric Pratt Hamp
	—	シカゴ大学のDigital Media Archiveのコレクションの1ページ (https://dma.uchicago.edu/collections/616)。言語学者・Eric P. Hampが北海道で行った調査のなかに、平賀サダ氏からアイヌ語の動詞などを聞き取り調査をした記録が含まれている。コレクションの概要のなかでは、聞き取り調査をしたのは「in Sept. 1981 (?)」と記載されているが、1981年には平賀サダ氏は没していることから調査年月日は不明 (ただし、1969年4月に村崎恭子らが平賀サダ氏を訪れた記録 (T1 富川 Tomikawa 3/4 (51,52) (前出 3-1- (41) 音声No.1) のなかでHampの話題を挙げていたので、少なくともそれ以前である)。			
6	北海道博物館 (172222)	YF0084	[アイヌ語地名関係・その他]	(不明)	山田秀三
	—	「To Pipa Yaieyukar (日高)/伝承者 平賀さだも 媼より昭和44.2.2/山田秀三、萩中美枝」という、「平賀さだも 媼から教った」神話の日本語対訳テキスト (「山田控え」とある) が挟み込まれている (pp.61-62)。			
7	北海道博物館 (172330)	YF0181	沙流川下流 1	(不明)	山田秀三
	—	「平賀さだもさんの音はsarでsariではない」(p.7)のほか、平賀サダ氏からの聞き取り・教示のメモが、本ファイルでは全体をとおして随所に見られる。内容は地名に関する発音のメモ、アイヌ語の解釈、かつての呼び名など。			
8	北海道博物館 (172331)	YF0182	沙流 2	(不明)	山田秀三
	—	平賀サダ氏からの聞き取り・教示のメモが、本ファイルでは全体をとおして随所に見られる。内容は地名に関する発音のメモ、アイヌ語の解釈、かつての呼び名など。			
9	北海道博物館 (172333)	YF0184	沙流地名の話	(不明)	山田秀三
	—	「今迄教えて来たアイヌ系の故老」のひとりとして、平賀サダ氏の名前があげられており (p.8)、平賀サダ氏によるアイヌ語地名の発音などのメモが「㊸」のマークで随所に見られる。本資料でまとめられている調査の成果は山田秀三の著作にも反映され、たとえばPiraturの発音についての記述 (p.10) は山田 (1984: 363) でも平賀サダ氏からの教示として書かれている。			
10	北海道博物館 (172838)	YD0619	[平賀さだも「イラマンテ オッカヨ」、「The Latest Notes」、山田秀三肖像写真ほか]	(不明)	山田秀三
	—	「イヨマンテ オッカヨ (熊狩男) /平賀サダモ作、久保寺逸彦録音、山田秀三・萩中美枝協力」とある。平賀サダ氏による自作の歌で、「一般に理解し易いように、通俗的な民謡風の節につけて作詞され、更にそれを訳して、楽しんで歌って聞かせて居られた」という。本資料は、歌詞 (アイヌ語・日本語対訳) の青焼きを複数枚まとめたもの。			
11	北海道博物館 (173396)	YD1151	イラマンテ オッカヨ (熊狩男)	(不明)	山田秀三
	—	上記のYD0619と同じ内容について青焼きコピーにしたものの一部。			

・平賀サダ氏から伝承した口承文芸

No.	語り手・筆録者	表 題	出 典	掲載ページ
	内 容 ・ 備 考			
1	鍋沢元蔵 (筆録)	PON OYNA (小伝)	門別町郷土史研究会 (1969)	99-131
	オйна (聖伝)	鍋沢元蔵自身が覚えているオйна (聖伝) を1966 (昭和41) 年1月に筆録したもので、アイヌ語ローマ字表記に日本語の対訳が付いている。「伝承者：平賀サタモ 媼 (門別町字福満)」(p.99) とあり、平賀サダ氏が語ったものを鍋沢元蔵が聞いて覚えた物語であることがわかる。なお、この物語の一部は「リクン・モシリから人間 (アイヌ) に、人間の生活を伝えた、アイヌラックルの物語 (オйна)」と改題のうえ、ボン・フチ (1976: 39-41) にアイヌ語の単語ごとの解釈付きで掲載されている。		
2	上田トシ (語り)	第9話 散文の物語 めかおにぎりころがった	アイヌ民族博物館 (2015)	163-174
	散文説話	上田トシの語りによる散文説話。同書によると、田村 (1986) 所収の「めかおにぎりころがった (MUTTAKTAK KARKARSE)」を聞いて覚えたと思われる。		

・二次資料 (刊行物)

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
	内 容 ・ 備 考			
1	福田すゞ子	アイヌ語の動詞の構造	福田 (1955)	46-64
	アイヌ語沙流方言の動詞構造に関する論文。この論文で扱うアイヌ語は、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの (ワテケ) による教示であることを挙げている。			
2	福田すゞ子	アイヌ語沙流方言の助動詞—アイヌ語の助詞についての報告その1—	福田 (1960)	67-78
	福田 (田村) すゞ子の卒業論文と修士論文の一部をまとめて加筆した論文。本論文で対象としている「沙流川地方の口語」における、主なインフォーマントのひとりとして、平賀サダ氏の名前があげられている。			
3	福田すゞ子	アイヌ語沙流方言の副助詞と終助詞—アイヌ語の助詞についての報告その2—	福田 (1961)	21-38
	アイヌ語沙流方言の助詞に関する論文で、福田 (1960) の続きに当たる。インフォーマントも福田 (1960) と同じであり、平賀サダ氏の教示による用例が使われている。			
4	近藤鏡二郎	ユーカラ伝承系図 (明治以降) [ほか]	近藤 (1962)	6ほか

No.	教えてもらった人	表 題	出 典	掲載ページ
内 容 ・ 備 考				
4		「ユーカラ伝承系図（明治以降）」(p.4) のなかに平賀サダ氏の名前がある。アイヌ口承文芸の音楽的特徴のほか、「サタモ (satamo: 平賀さだ) の伝承は養祖母トモンテノ (tumonteno) から受けつがれている」(p.6) など伝承経路についての記述もある。		
5	扇谷昌康	[英雄叙事詩の訳出・注釈協力]	門別町郷土史研究会 (1969)	—
		門別町の鍋沢元蔵が筆録した口承文芸の対訳付きテキスト集。平賀サダ氏は、訳出・注釈に協力している。編訳を担当した扇谷昌康は「ところどころに、かなりの意識がみられ判断に苦しむ点も少なくなかったのであるが、富川町在住の伝承者、平賀サタモ嬢の御協力を得て大過なきを得た」(「鍋沢ノート」を整理して)と書いている。		
6	田村すゞ子	アイヌ語沙流方言の人称代名詞	田村 (1971)	1-14
		アイヌ語沙流方言の文法に関する論文。この論文で扱う沙流方言のインフォーマントとして、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)を挙げている。		
7	田村すゞ子	アイヌ語沙流方言における《…して…》の表現	田村 (1972a)	147-163
		アイヌ語沙流方言の文法に関する論文。この論文で扱う沙流方言のインフォーマントとして、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)を挙げている。		
8	田村すゞ子	アイヌ語沙流方言の動詞にみられる重複形	田村 (1972b)	72-84
		アイヌ語沙流方言の動詞の重複形に関する論文。この論文で扱う沙流方言のインフォーマントとして、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)を挙げている。		
9	山田秀三	津軽の伏村の記録	山田 (1972(1977))	13
		「アイヌ・レヘ (アイヌ名)」の例のひとつとして、「私がよくアイヌ語を教わりに行った故平鹿 [マ] さだもさんは、養父からオロルシ・マツと呼ばれていた」とあり、その名前前の説明もされている。		
10	更科源蔵	稲光をうたったもの	更科 (1973)	191
		「呪術に長じたキンラカムイの娘が天下って、英雄小内陸人 (ポイヤウンベ) の妻になり、巫術 (ドス) を伝えたという神話からとったもの」として、和訳の一部が紹介されている。なお、本文には「日高門別の伝承者平賀サダム嬢」とあるが、「サダム」の誤植であろう。		
11	田村すゞ子	アイヌ語沙流方言におけるyak, yakneの用法	田村 (1973a)	61-74
		アイヌ語沙流方言の接続助詞に関する論文。この論文で扱う沙流方言の主なインフォーマントとして、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)を挙げている。		
12	田村すゞ子	アイヌ語沙流方言におけるcikiの用法	田村 (1973b)	28-45
		アイヌ語沙流方言の接続助詞に関する論文。この論文で扱う沙流方言の主なインフォーマントとして、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)を挙げている。		
13	田村すゞ子	アイヌ語沙流方言における動詞接尾辞 -noおよび -nuについて	田村 (1974)	24-36
		アイヌ語沙流方言の動詞接尾辞に関する論文。この論文で扱う沙流方言のインフォーマントとして、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)を挙げている。		
14	田村すゞ子	アイヌ語沙流方言の動詞接尾辞	田村 (1975)	89-109
		アイヌ語沙流方言の文法に関する論文。この論文で扱う沙流方言のインフォーマントとして、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)を挙げている。		
15	山田秀三	アイヌ語の地名を大切にしたい	山田(1976)	39-41
		アイヌ語地名に関するエッセイ。「地名の引越し」という節で、「平賀さだも嬢の処にしげしげと通って地名の勉強をするようになった。嬢は……土地の地名には特別に精しい」として、平賀サダ氏から教示された「平賀」という地名などを挙げている。		
16	田村すゞ子	アイヌ語沙流方言の命令表現	田村 (1977)	82-202
		アイヌ語沙流方言の文法に関する論文。この論文で扱う沙流方言の「資料提供者」として、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)を挙げている。		
17	萩中美枝	国の神—火の神/山の王—熊/沖の王—しゃち	萩中 (1980)	26-29, 38-40, 40-41, 42-43
		平賀サダ氏が語った物語を掲載している。ひとつは、火の神が主人公で「アペメルコヤンコヤンape-meru ko-yan ko-yan (火の光、上る、上る) という折り返し」(p.26) の神話 (冒頭のみ対訳付きアイヌ語、全体は日本語のみ) である。その他に、熊送りの後、神の国に戻る子熊が物語る神話と、人間の食物を盗んだクマが罰せられた物語、オキクルミの妹に会いたくなったシャチが物語る神話が、いずれも日本語であらすじが紹介されている。		
18	萩中美枝	第1章 解説 ユーカラにあらわれる神—山の神と沖の神—	北海道教育庁社会教育部文化課 (1980)	7-11
		カムイについての解説のなかで、具体例として、平賀サダ氏による神話3編のあらすじを紹介している。ひとつは熊送りの後、神の国に戻る子熊が物語る神話、ふたつめは人間の食物を盗んだクマが罰せられた物語、みっつめはオキクルミの妹に会いたくなったシャチが物語る神話である。いずれも概要ではあるが、上記の萩中 (1980) に掲載の物語と一致している。		
19	田村すゞ子	アイヌ語沙流方言における上下を表す位置名詞	田村 (1982)	1-28
		アイヌ語沙流方言の文法に関する論文。この論文で扱う沙流方言のインフォーマントとして、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)を挙げている。		
20	萩中美枝	ユーカラと女	萩中 (1982)	27
		sinotnumatpoという語の解釈のなかで、平賀サダ氏から聞いた英雄叙事詩のなかから「この年ごろ/胸紐をもてあそび/襟元を気にするようになつて大人っぽくなつた/少女」という一節を引用している。		
21	田村すゞ子	アイヌ語の文法構造	田村 (1984a)	1-13
		アイヌ語北海道方言を中心としてアイヌ語文法構造の概略をまとめたもの。主なインフォーマントとして、「沙流方言の話し手」である平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)を挙げている。		
22	山田秀三	(2) 日高西部	山田 (1984 (2000))	361-363
		「(2) 日高西部」の節 (pp.361-363) では沙流川下流域の地名について、山田秀三が平賀サダ氏などから聞いた地名の由来を記している。以下では具体的に平賀サダ氏の名前が記載されている項目を挙げる。		
	山田秀三	[項目] 平取 びらとり	山田 (1984 (2000))	363
		平賀サダ氏の教示による、「平取」のアイヌ語での発音が記載されている。この発音を根拠として、明治期に和人によって記述された語形をどのように捉えればよいのかを考察している。		

No.	著者	表題	出典	掲載ページ
22	山田秀三	[項目] 栄 さかえ (似湾 にわん)	山田 (1984 (2000))	371-372
	平賀サダ氏の教示による、「ニワン」というアイヌ語地名の解釈が記載されている。			
	山田秀三	[項目] エソロカン沢	山田 (1984 (2000))	361
	平賀サダ氏からの教示として「エソロカン・ニでエソロカニではない」などの土地の名称や意味について挙げられている。			
	山田秀三	[項目] 雄冬 おふゆ	山田 (1984 (2000))	122
	沙流の鶴川境にある「ウフイパバ」という地名の意味について、平賀サダ氏から教示を得た旨が記載されている。			
23	扇谷昌康・島田健一	[アイヌ語地名・伝承教示]	扇谷・島田 (1988)	-
	冒頭の「調査の経過」では、「諸地の伝承などいろいろと教わってきた」(p.4) 人たちのひとりとして、平賀サダ氏の名前をあげており、本文中でも「平賀サタモ嬢の話によると」としてそれぞれの地名やその土地であった事柄などを紹介している (p.45ほか)。			
24	田村すず子	アイヌ語沙流方言における「中」を表す三つの位置名詞 or オロ, onnay オンナイ, tum トウム	田村 (1993a)	137-160
	アイヌ語沙流方言の位置名詞に関する論文。1956年から1971年の間に、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)が話したものが用例として引用されている。			
25	田村すず子	アイヌ語沙流方言における「中・内部」を表すいろいろな名詞	田村 (1996b)	31-43
	アイヌ語沙流方言の位置名詞に関する論文。引用する用例として、平賀サダ氏とその姉である鳩沢ふじの(ワテケ)による散文(会話や散文説話など)を用いている。			
26	田村すず子	第5章 沙流地域の韻文の韻律	田村 (1998)	64-72
	田村が研究代表者を務めた科学研究費補助金の研究成果報告書に所収の論文。田村 (1991a, 1993b, 1994) 所収の平賀サダ氏の語りによる英雄叙事詩を分析対象として用いている。また、口承文芸のジャンルについて、平賀サダ氏が「オйнаというジャンル名を持たず、英雄叙事詩と同じく yukar ユカラ (ユーカラ) と呼んでいた」(pp.64-65) という記載がある。			
27	久保寺逸彦	アイヌ語・日本語辞典稿	北海道教育庁生涯学習部文化課 (1992)	-
	平賀サダ氏は沙流方言のインフォーマントのひとりとして久保寺逸彦の調査に協力。調査の様子は萩中美枝による「久保寺先生のプロフィール」(後出 3-2- (2) No.15) で活き活きと描写されている。			
28	山田秀三	姓となったアイヌ語地名	山田 (1993)	96
	平賀という姓の由来等に触れている。平賀サダ氏については「私には地名の先生だった嬢」と紹介。			
29	山田秀三	北海道のモイワと青森、秋田のモヤ	山田 (1993)	123
	「私の地名の先生役だった平賀さだもさん」からの教示として、沙流川口東岸部のシヌタイ・エトコ・ウン・タブコブについてまとめている。			
30	山田秀三	平取 (日高) と平尾鳥 (秋田)	山田 (1993)	155
	「さだもさんに、平取はどんな風に発音していたのかと聞いた」として、平賀サダ氏の教示による、「平取」のアイヌ語での発音が記載されている。			

3-2- (2) 平賀サダ氏に関する文献

〈凡例及び注〉

- ・平賀サダ氏について言及された図書、論文、記事等を掲載した。
- ・雑誌、新聞のコーナータイトルは、[ ] で括弧で示した。
- ・掲載は初出が古い順とした。

No.	著者	表題	出典	掲載ページ
1	-	郷土アイヌ民俗歌謡の研究 ユーカラの伝承	近藤 (1962)	14-15
	門別町報 (1961 (昭和36) 年8月~12月) の抜粋記事として掲載されたもの。このなかには、近藤鏡二郎が門別町で行った「アイヌの伝承歌謡」の聞き取り調査などの概要報告の他、「今夏旭川における『ユーカラを歌う会』では福満の平賀サタモさんがアイヌ随一の歌い手として賞讃されている」(p.15) とある。			
2	-	[新聞記事] コタン昨今〈6〉 日高コタン	北海タイムス 昭和39年8月5日	10面
	昭和39年7月30日からの連載記事の第6回目。「鶴川町の平賀サダモさんはいま病気療養中だが金成マツばあさん死亡のあとユーカラの伝承者としてはトップクラスの人」として、写真付きで紹介されている。			
3	-	[新聞記事] 元気でよかった/金田一博士サダさんを慰問	北海タイムス 昭和39年8月13日〈朝刊〉	5面
	前日、金田一京助が萩中美枝とともに病床の平賀サダ氏を訪問した記事。このとき平賀サダ氏は70歳とのこと。金田一とは、この記事から3年前に登別温泉で出会ったことや、金田一との再会で「ユーカラを歌いたくなった」と「静かに名調子をテープに吹き込んでいた」ことが書かれている。			
4	-	昭和三十六年の集中豪雨災害	登別町史編纂委員会 (1967)	974
	登別町が見舞われた「災害」をまとめたページのなかの一節。このうちの「家屋の被害」の一覧において、「温泉」地区に暮らしていた「平賀サダ」の名前も見られる。			
5	-	[新聞記事] 拝啓一筆 久保寺逸彦	(不明) 昭和42年6月10日	(不明)

No.	著者	表題	出典	掲載ページ
		内 容 ・ 備 考		
5		久保寺逸彦が近々の予定について書いているコラムエッセイ。そのなかで、「最近、ユーカラ取材のうちに、沙流地方のユーカラ伝承者、平賀サダモばあさんから、彼女が作詩・作曲した歌があると聞きました。登別温泉あたりで、ひところはお座敷などでも歌われ」ていたという、この歌の「リバイバル」をこれからやりたい仕事のひとつとして挙げている。		
6	—	【新聞記事】アイヌの文化保存を／古老から人間の生涯を聞取る	日高報知新聞 昭和45年8月11日	(不明)
		北海道アイヌ文化保存対策協議会の事業による聞き取り調査の様子を取材した記事。「八月一日から日高支庁管内の調査に入った」として「門別町富川町では平賀サタモン〔マ〕さん」などの名前を挙げており、「一人から五、六時間づつ詳しく昔話を聞いた」という調査の概要を紹介している。		
7	久保寺逸彦	座談会・アイヌ文学の伝承	久保寺・金田一 (1969)	(不明)
		金田一京助・久保寺逸彦による座談会(司会・益田勝実法政大学教授)。このなかで、久保寺がアイヌ口承文芸の調査のなかで平賀サダ氏に会うときの様子として「わたしがユーカラを読んでその婆さんに直してもらいますよ。そして意味のわからないところを聞く」と語っている。続けて、平賀サダ氏は久保寺が読んで聞かせた物語を「東京の先生から聞いたユーカラだといって、またみんなに語って聞かせる」とも話している。		
8	山田秀三	久保寺博士の追想	山田 (1971)	19-22
		久保寺逸彦の没後に彼の思い出を書いた随想。そのなかで久保寺が「さだもさんを尋ねて録音したり、自分の昔覚えたユーカラを語ったりしておられた」ことや、そうして訪れるときには「さだもさんも、新しいユーカラを覚えてと喜んでおられた」「(久保寺)先生はそういう時に、過去の採録を持っていて、解釈上の疑点を質すことにおられた」(p.22)と書いている。		
9	萱野茂	語り手のお婆さんたち	萱野 (1977)	292-293
		本書に掲載している物語の語った人物のプロフィールをまとめている。平賀サダ氏については没年や名前の由来のほか、「ユカラの第一人者で、この人を最後に、ユカラをきちんと語る人は、この沙流川筋には残念ながらいなくなりました」(pp.292-293)などと書かれている。		
10	—	【項目】平賀サダ (サタモ、サダモ、オロルシマツ=養母はこう呼んだ)	『エカシとフチ』編集委員会 (1983)	51
		「既刊の文献に記載されているエカシやフチの氏名、事績等を五十音順にしるした」本。平賀サダ氏の略歴(生没年、生誕・生活地)ならびに、平賀サダ氏の語りによるテキストなどの一覧が記載されている。		
11	—	【項目】平賀サタモ (さだも・サダ)	アイヌ無形文化伝承保存会 (1986)	305-306,312
		「アイヌの人びとが語り伝える物語を、新たに読んでみよう」(p.263)とする人に向けた文献索引のなかで、「話し手、語り手別の索引」や「物語の話し手、語り手個人の紹介記事」といった目録のなかに、平賀サダ氏のテキストを掲載する公刊本もあげられている。		
12	山田秀三	さだもさんの鑑定	山田 (1986)	46-47
		「アイヌ語が飛び抜けて正確な人だったので、多くの研究者たちが訪れた。私もその一人だった」として訪問時の思い出を記したエッセイ。		
13	山田秀三	ホイエ談義	山田 (1986)	182-183
		アイヌ語地名の現地調査の様子を書いたエッセイ。「日高の平賀さだも(故人)は名高いユーカラ伝承者であったが、私にとっては地名の先生で、よく通って教えてもらった」(p.182)とあり、平賀サダ氏のところで調査をしていたときに休憩をはさむ様子を描く。		
14	萱野茂	金田一京助先生との出会い	萱野 (1980 (1990))	163-164
		萱野茂が初めて金田一京助と会ったときの回想。萱野が「働いていた観光温泉にやはり同じく働きに来ていた平賀さだもさんに『ユカラ』のわからない言葉を聞きに金田一京助先生がやって来られ」という (p.163)。同内容は、萱野・須藤 (2008: 48) などにも引用されている。		
15	萩中美枝	久保寺先生のプロフィール	萩中 (1992)	4
		久保寺逸彦がアイヌ語地名研究者である山田秀三とともにフィールドワークに行っていた様子を中心としたエッセイ。「行先は、たいはい沙流川の川口近くにある富川町で、ここの病院に入院中の平賀サダモさんからお話を聞くためであった」として、平賀サダ氏のもとを訪ねたときの様子などが書かれている。		
16	太田満	yukar (1)	川村・太田 (2005)	252
		石狩川筋における英雄叙事詩の伝承に関して説明するなかで、伝統的には男が語るものとされた英雄叙事詩を、男たちが伝承しなくなったために「女である川村ムイサシマツがユカラを人前でも謡いはじめ」て陰口を言われた際に「屈する事なく、空知出身の杉村キナラブク、胆振出身の金成イメカヌ、日高出身の平賀サタモ等女性のサークルで旭川における口承文芸の黄金期を生み出した」として、平賀サダ氏の名前も挙げられている。		
17	平野みの	姑・平賀さだもの思い出	平野 (2005)	1
		平賀サダ氏の息子の嫁である筆者が「姑・平賀さだも」について記したエッセイ。平取町の二風谷アイヌ語教室の広報誌に掲載された。		

## 参考文献

- 一般財団法人アイヌ民族博物館編 2015. アイヌ民族博物館 民話ライブラリ 3 上田トシの民話 3.
- 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会編 1985. アイヌの民話 2.
- 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会編 1986. 語りの中の生活誌.
- 浅井亨編・稲田浩二監修 1972. 日本の昔話 2 アイヌの昔話. 日本放送出版協会.
- 『エカシとフチ』編集委員会編 1983. 文献上のエカシとフチ エカシとフチ資料編. 札幌テレビ放送.
- NHK札幌中央放送局編 1961. 「アイヌ伝統音楽」収集整備計画.
- NHK放送文化財ライブラリー 1963. ユーカラの世界 第1部.
- 扇谷昌康・島田健一 1988. 沙流郡のアイヌ語地名 I. 北海道出版企画センター.
- 小川正人・遠藤志保・大坂拓 2017. 鍋沢元蔵書誌. 北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター研究紀要 2: 67-98.
- 貝沢正編集代表・社団法人北海道ウタリ協会アイヌ史編集委員会編 1988. アイヌ史 資料編 I 図書資料所蔵目録・視聴覚資料所蔵目録. 社団法人北海道ウタリ協会.
- 萱野茂採録解説 1974. ウェベケレ集大成 第1巻. アルドオ. (萱野茂監修解説 2005. ウェベケレ集大成. 日本伝統文化振興財団. 復刻版)
- 萱野茂 1977. 炎の馬-アイヌ民話集. すずさわ書店.
- 萱野茂 1979(1993). アイヌの昔話-ひとつぶのサッチポロ. 平凡社.
- 萱野茂 1980(1990). アイヌの碑. 朝日新聞社.
- 萱野茂 1988. カムイユカラと昔話. 小学館.
- 萱野茂録音編集著 1998a. 萱野茂のアイヌ神話集成 第1巻 カムイユカラ編 I. ビクターエンタテインメント. (2008. 日本伝統文化振興財団. 復刻版)
- 萱野茂録音編集著 1998b. 萱野茂のアイヌ神話集成 第2巻 カムイユカラ編 II. ビクターエンタテインメント. (2008. 日本伝統文化振興財団. 復刻版)
- 萱野茂録音編集著 1998c. 萱野茂のアイヌ神話集成 第5巻 ウェベケレ編 II. ビクターエンタテインメント. (2008. 日本伝統文化振興財団. 復刻版)
- 萱野茂録音編集著 1998d. 萱野茂のアイヌ神話集成 第7巻 ユカラ編 I. ビクターエンタテインメント. (2008. 日本伝統文化振興財団. 復刻版)
- 萱野茂録音編集著 1998e. 萱野茂のアイヌ神話集成 第9巻 ユカラ編 III. ビクターエンタテインメント. (2008. 日本伝統文化振興財団. 復刻版)
- 萱野茂録音編集著 1998f. 萱野茂のアイヌ神話集成 第10巻 資料編+総説+総目次. ビクターエンタテインメント. (2008. 日本伝統文化振興財団. 復刻版)
- 萱野茂 2020. アイヌと神々の話 カムイユカラと子守歌. 山と溪谷社(ヤマケイ文庫).
- 萱野れい子著・須藤功編 2008. 写真で綴る萱野茂の生涯 アイヌの魂と文化を求めて. 社団法人農山漁村文化協会.
- 川村兼一監修・太田満執筆校閲 2005. 旭川アイヌ語辞典. アイヌ語研究所.
- 北原次郎太・小林美紀・八谷麻衣 2012. 北海道文学館所蔵「知里真志保遺稿ノート」の細目次. 北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 18: 115-321.
- 久保寺逸彦 2004. 久保寺逸彦著作集 2 アイヌ民族の文学と生活. 草風館.
- 久保寺逸彦・金田一京助対談 1969. アイヌ文学の伝承. 筑摩書房編. 国語通信 114: 2-14. (久保寺逸彦 2004. 久保寺逸彦著作集 2 アイヌ民族の文学と生活. 草風館. 再録)
- 小坂博宣編 2010. 知里真志保 アイヌの言霊に導かれて. 知里真志保を語る会.
- 近藤鏡二郎 1962. アイヌのユーカラ 沙流地方の伝承. 音楽之友社.
- 近藤鏡二郎 1999. 沙流アイヌの歌謡CD版 I 「近藤鏡二郎録音テープより」. 門別町郷土史研究会.
- 齋藤玲子 2002. 更科源蔵氏『コタン探訪帳』の概要について-弟子屈町立図書館所蔵資料の紹介-. 北海道立北方民族博物館研究紀要 11: 79-107.
- 更科源蔵 1973. アイヌ文学の生活誌. NHKブックス.
- 更科源蔵・更科光 1977. コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇. 法政大学出版局. (2020. 青土社. 復刻版)
- 神保小虎・金沢庄三郎 1898. アイヌ語会話字典. 金港堂書籍.
- 田村すゞ子 1971. アイヌ語沙流方言の人称代名詞. 言語研究 59: 1-14. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考④ 文法 I: (263)-(276). ゆまに書房. 再録)
- 田村すゞ子 1972a. アイヌ語沙流方言における《…して…》の表現. 國學院雑誌 73(11): 147-163. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考④ 文法 I: 51-67. ゆまに書房. 再録)
- 田村すゞ子 1972b. アイヌ語沙流方言の動詞にみられる重複形. アジア・アフリカ文法研究 1: 72-84. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考④ 文法 I: (357)-(369). ゆまに書房. 再録)
- 田村すゞ子 1973a. アイヌ語沙流方言におけるyak, yakneの用法. ILTNews 49・50: 61-74. 早稲田大学語学教育研究所. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考④ 文法 I: (393)-(406). ゆまに書房. 再録)
- 田村すゞ子 1973b. アイヌ語沙流方言におけるcikiの用法. 早稲田大学語学教育研究所紀要 11: 28-45. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考④ 文法 I: (429)-(446). ゆまに書房. 再録)
- 田村すゞ子 1974. アイヌ語沙流方言における動詞接尾辞 -no および -nuについて. 言語研究 65: 24-36. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考④ 文法 I: (447)-(459). ゆまに書房. 再録)
- 田村すゞ子 1975. アイヌ語沙流方言の動詞接尾辞. アジア・アフリカ文法研究 4: 89-109. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考⑤ 文法 II: (1)-(21). ゆまに書房. 再録)
- 田村すゞ子 1977. アイヌ語沙流方言の命令表現. アジア・アフリカ文法研究 5: 82-202. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考⑤ 文法 II: (22)-(141). ゆまに書房. 再録)
- 田村すゞ子編著 1977(1979, 1988改訂版). アイヌ語入門. 早稲田大学語学教育研究所. [カセットテープとテキスト]
- 田村すゞ子 1982. アイヌ語沙流方言における上下を表す位置名詞. 言語研究 82: 1-28. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考⑤ 文法 II: (155)-(182). ゆまに書房. 再録)
- 田村すゞ子編著 1983. アイヌ語基礎語彙. 早稲田大学語学教育研究所. [カセットテープとテキスト]
- 田村すゞ子 1984a. アイヌ語の文法構造. アジア・アフリカ文法研究 13: 1-13. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考⑤ 文法 II: (230)-(242). ゆまに書房. 再録)
- 田村すゞ子編著 1984b. アイヌ語音声資料 1 -ワテケさんとサグモさん-(沙流方言)会話・単語. 早稲田大学語学教育研究所. [カセットテープとテキスト]
- 田村すゞ子編著 1985. アイヌ語音声資料 2 -ワテケさんの昔話-(沙流方言). 早稲田大学語学教育研究所. [カセットテープとテキスト]

- 田村すず子編著 1986. アイヌ語音声資料 3ーサダモさんの昔話ー(沙流方言). 早稲田大学語学教育研究所. [カセットテープとテキスト]
- 田村すず子編著 1987. アイヌ語音声資料 4ー福満・鶴川の歌謡ー. 早稲田大学語学教育研究所. [カセットテープとテキスト]
- 田村すず子編著 1991a. アイヌ語音声資料 7ーサダモさんのユーカラ 1ー KOTAN SITCIRE MOSIR SITCIRE 1(コタン シッチレ モシリ シッチレ)村焼き国焼き. 早稲田大学語学教育研究所. [カセットテープとテキスト]
- 田村すず子編著 1991b. 語研教材選書 39 Akketek hopuni (アッケテク ホプニ) 帆立貝飛べ. 早稲田大学語学教育研究所. [カセットテープとテキスト]
- 田村すず子 1993a. アイヌ語沙流方言における「中」を表す三つの位置名詞or オロ, onnay オンナイ, tum トウム. 早稲田大学語学教育研究所30周年記念論文集. pp. 137-160. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考⑤ 文法 II:(269)-(292). ゆまに書房. 再録)
- 田村すず子編著 1993b. アイヌ語音声資料 8ーサダモさんのユーカラ 2ー KOTAN SITCIRE MOSIR SITCIRE 2(コタン シッチレ モシリ シッチレ)村焼き国焼き2. 早稲田大学語学教育研究所. [カセットテープとテキスト]
- 田村すず子編著 1994. アイヌ語音声資料 9ーサダモさんのユーカラ 2Rー KOTAN SITCIRE MOSIR SITCIRE 2R(コタン シッチレ モシリ シッチレ)村焼き国焼き2R. 早稲田大学語学教育研究所. [カセットテープとテキスト]
- 田村すず子 1996a. アイヌ語沙流方言辞典. 草風館.
- 田村すず子 1996b. アイヌ語沙流方言における「中・内部」を表すいろいろな名詞. 言語学林. pp. 31-43. (田村すず子編 1998. アイヌ語資料の整理と分析研究 平成9年度文部省科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書. 所収)
- 田村すず子編 1998. アイヌ語資料の整理と分析研究 平成9年度文部省科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書.
- 田村すず子編 2001-2003. アイヌ語沙流方言の音声資料ー近藤鏡二郎の音声テープに遺されたワケケさんの神謡((科学研究費補助金(特定領域研究(A)「環太平洋の『消滅に瀕した言語』にかんする緊急調査研究」)成果報告書) 1-3. 大阪学院大学情報学部.
- 国立大学法人千葉大学編 2015. アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業 第2年次(北海道沙流郡平取町) 調査研究報告書(全3冊).
- 知里幸恵編 1923. アイヌ神謡集. 郷土研究社.
- 中川裕 1991a. 変身するイヌンペイベ. 千葉大学文学部中川研究室編. ウエネウサラ 9: 23-35. 私家版
- 中川裕講師 1991b. 『銀の滴講談会』講義録 第1・2号. 銀の滴講談会事務局.
- 中川裕 1997(2020). アイヌの物語世界. 平凡社.
- 二風谷部落誌編集委員会編 1983. 二風谷. 二風谷自治会.
- 日本放送協会編 1965. アイヌ伝統音楽. 日本放送出版協会.
- 日本放送協会編 1967. アイヌの音楽. 日本放送出版協会.
- 登別町史編纂委員会編 1967. 登別町史. 登別町役場.
- 萩中美枝 1980. アイヌの文学 ユーカラへの招待. 北海道出版企画センター.
- 萩中美枝 1982. ユーカラと女. 口承文藝研究 5: 26-31.
- 萩中美枝 1992. 久保寺先生のプロフィール. 北海道教育庁生涯学習部文化課編 平成3年度 久保寺逸彦 アイヌ語収録ノート 調査報告書(久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿). pp. 4. 北海道教育委員会. (久保寺逸彦 2020. 久保寺逸彦著作集 4 アイヌ語・日本語辞典稿. pp. vii-viii. 草風館.)
- 萩中美枝 1996. アイヌの歌謡. 口承文藝研究19: 90-101.
- 服部四郎編 1964. アイヌ語方言辞典. 岩波書店.
- 平野みの 2005. 姑・平賀さだもの思い出. 萱野志朗責任編集. 二風谷アイヌ語教室広報誌 79: 1.
- 福田すゞ子 1955. アイヌ語の動詞の構造. 言語研究 30: 46-64. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考④ 文法 I:(38)-(56). ゆまに書房. 再録)
- 福田すゞ子 1960. アイヌ語沙流方言の助動詞ーアイヌ語の助動詞についての報告その1ー. 民族学研究 24(4): 67-78. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考④ 文法 I:(57)-(68). ゆまに書房. 再録)
- 福田すゞ子 1961. アイヌ語沙流方言の副助詞と終助詞ーアイヌ語の助動詞についての報告その2ー. 言語研究 39: 21-38. (ゆまに書房編集部編 2001. アイヌ語考④ 文法 I:(89)-(106). ゆまに書房. 再録)
- 北海道開拓記念館編 1990. 北海道開拓記念館一括資料目録 第22集 更科源蔵氏資料目録.
- 北海道教育委員会編 1968. アイヌ民俗資料調査報告 昭和43年度.
- 北海道教育庁社会教育部文化課編 1980. 昭和54年度 アイヌ民俗文化財緊急調査報告書(無形文化財5). 北海道教育委員会.
- 北海道教育庁社会教育部/生涯学習部文化課編 1987-1991. アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズVI-X 久保寺逸彦ノート(全5冊). 北海道教育委員会.
- 北海道教育庁生涯学習部文化課編 1992. 平成3年度 久保寺逸彦 アイヌ語収録ノート 調査報告書(久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿). 北海道教育委員会. (久保寺逸彦 2020. 久保寺逸彦著作集 4 アイヌ語・日本語辞典稿. 草風館.)
- 北海道教育庁生涯学習部文化課編 1994. 平成5年度 アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズVII オイナ(神々の物語)3. 北海道教育委員会.
- 北海道教育庁生涯学習部文化課編 1995. 平成6年度 アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズVIII アイヌのくらしと言葉 4. 北海道教育委員会.
- 北海道立アイヌ民族文化研究センター編 1997. 北海道立アイヌ民族文化研究センター 資料目録 2 山田秀三文庫文書音声・映像資料目録.
- 北海道立アイヌ民族文化研究センター編 2000. 北海道立アイヌ民族文化研究センター 資料目録 4 山田秀三文庫文書資料目録 I.
- 北海道立アイヌ民族文化研究センター編 2001. 北海道立アイヌ民族文化研究センター 資料目録 5 久保寺逸彦文庫文書・写真資料目録.
- 北海道立アイヌ民族文化研究センター編 2001. 北海道立アイヌ民族文化研究センター 資料目録 6 山田秀三文庫文書資料目録 II.
- 北海道立アイヌ民族文化研究センター編 2002. 北海道立アイヌ民族文化研究センター 資料目録 7 久保寺逸彦文庫音声・映像資料目録.
- 北海道立アイヌ民族文化研究センター編 2003. 北海道立アイヌ民族文化研究センター 資料目録 8 山田秀三文庫文書資料目録 III.
- 北海道立図書館北方資料室編 1974. 北の資料 9 特集 知里真志保遺稿ノートマイクロ・フィルム目録. 北海道立図書館.
- ボン・フチ 1976(1987). アイヌ語は生きている. 新泉社.
- 増田又喜 1996. アイヌ歌謡を尋ねて～私の場合～. 近代文芸

- 社.(増田又喜 2010. アイヌのふるさとに歌を求めて. 文芸社.)
- 村崎恭子編 1993. アイヌのことば(平成3年文部省科学研究費補助金重点領域研究「日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究」(研究代表者・杉藤美代子)). [CD]
- 門別町郷土史研究会編 1966. 沙流アイヌの歌謡 一録音資料目録とその解説一.
- 門別町郷土史研究会編 1969. アイヌの叙事詩.
- 山田秀三 1969a. 北海道のアイヌ地名. アイヌ文化保存対策協議会編 1969. アイヌ民族誌 上. 第一法規出版. pp. 79-120.) (山田秀三 1969. 北海道のアイヌ地名十二話. 私家版. / 山田秀三 1982(1995). 山田秀三著作集 アイヌ語地名の研究 1. 草風館. 所収)
- 山田秀三 1969b. ユックチカウシ物語ー狩猟のアイヌ地名. 北海道の文化 17: 58-61. 北海道文化財保護協会. (山田秀三 1982(1995). 山田秀三著作集 アイヌ語地名の研究 1. 草風館. 所収)
- 山田秀三 1971. 久保寺博士の追想. 北海道の文化 23: 19-22. 北海道文化財保護協会. (山田秀三 1984(1995). 山田秀三著作集 アイヌ語地名の研究 4. 草風館. 所収)
- 山田秀三 1972. 津軽の伏村の記録. 國學院雑誌 73(11) : 13. (北海道文化財保護協会. 1977. 北海道の文化 37. 再録. 山田秀三 1983(1995). 山田秀三著作集 アイヌ語地名の研究 3. 草風館. 所収)
- 山田秀三 1976. アイヌ語の地名を大切にしたい. 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会. アイヌ文化 1: 33-44. (山田秀三 1982(1995). 山田秀三著作集 アイヌ語地名の研究1. 草風館. 所収)
- 山田秀三. 1980. 金田一先生と約束した一つの原稿. 北海道の文化 42: 6-22. 北海道文化財保護協会. (山田秀三 1983(1995). 山田秀三著作集 アイヌ語地名の研究 3. 草風館. 所収)
- 山田秀三 1984. 北海道の地名. 北海道新聞社. (山田秀三 2000. 山田秀三著作集 アイヌ語地名の研究 別巻 北海道の地名. 草風館.)
- 山田秀三 1986. アイヌ語地名を歩く. 北海道新聞社.
- 山田秀三. 1991. 地名の中の所属形. 千葉大学文学部中川研究室編. ウエネウサラ 9: 2-3. 私家版
- 山田秀三 1993. 東北・アイヌ語地名の研究. 草風館.
- 寮美千子文・アイヌ民話撰集企画編集委員会監修. 2017. イソイタク 4 アイヌの昔話 キノコが生えた男の子. 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構.
- 寮美千子文・アイヌ民話撰集企画編集委員会監修. 2018. イソイタク 5 アイヌの昔話 森でひろったふしぎな赤ちゃん. 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構.
- The University of Chicago. Digital Media Archive. <https://dma.uchicago.edu/> (最終アクセス日 2021年1月27日)
- 早稲田大学. 早稲田大学レポジトリ. <https://waseda.repo.nii.ac.jp/> (最終アクセス日 2021年1月27日)

## Bibliography of HIRAGA Sada

OHTANI Yoh-ichi, OGAWA Masahito and ENDO Shiho

---

A catalogue of literature and materials, including audio tapes, handwritten notes, books, papers, etc., regarding the lifelong accomplishments of HIRAGA Sada, an Ainu renowned for her greatly

significant support and contributions towards studies and research in fields such as Ainu language and oral literature.

---

OHTANI Yoh-ichi : Ainu Culture Research Group, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum  
OGAWA Masahito : Director, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum  
ENDO Shiho : Ainu Culture Research Group, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum

---